

**平成 25 年度 保育所保育士研修等事業
実施報告書**

社会福祉法人 日本保育協会

はじめに

日本保育協会では昭和 49 年度より厚生労働省の委託を受けて、「保育所保育士研修等事業」を保育所長並びに保育士を対象に実施し、40 年を超える実績を持っています。この研修事業は、①園長並びに主任保育士を対象にした職階別研修、②乳児保育・障害児保育などの保育実践研修、③事故予防・保幼小連携など、その時代のトピック的なテーマの研修の 3 本の柱で構成されています。

毎年度、研修内容や研修手法のブラッシュアップはもちろんのこと、研修デザインの企画から評価までの P D C A サイクルについても、多くの学識者・保育現場の先生方のご指導をいただきながら、長年にわたって独自に工夫を重ねてきました。

一方、昨今の保育所を取り巻く社会環境は、都市圏における待機児童の問題、地方における定員割れの問題、子ども・子育て関連法の成立、慢性的な保育士の不足など、大きく変わってきています。そんな中、昨年 10 月、厚生労働省では「保育を支える保育士の確保に向けた総合的取組」をまとめ、保育士の人材確保についての厚生労働省の取組みを公表し、その柱の一つに保育士の育成をあげています。よりよい保育士を育成するために、保育士の研修はどうあるべきかの議論が深まっていくことを期待しています。

日本保育協会研修部では、そうした保育所を取り巻く社会環境の変化、保育者育成に対する関心の高まりなどの要因を踏まえて、平成 25 年度の「保育所保育士研修等事業」の取組とデータをまとめて、広く公開することといたしました。この日本保育協会研修部の取組みをご覧いただき、保育関係者だけでなく、現場保育者の育成を考える際の一つの資料として、多くの方々に参考にしていただければ幸いです。

また、1 冊の報告書にまとめることはできましたが、まだまだ発展途上の取組みで、課題も多く残っています。これを機にご質問やご意見なども日本保育協会までお寄せいただければ幸いです。

なお、この報告書の作成にあたっては、洗足子ども短期大学の井上真理子先生に 1 年間継続してご指導をいただきました。ご多用の中、何度も事務所までお運びいただき、研修の内容、研修の手法、報告書の内容など、細部にわたって丁寧なご指導をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

平成 26 年 5 月

日本保育協会 研修部次長
今 井 豊 彦

保育所保育士研修等事業の全体考察について

日本保育協会の保育所保育士研修等事業（以下本事業とする）においては、所長研修を中心とした職階別研修、乳児保育や障害児保育などの保育士の専門性として重要とされる実践力の向上を図る研修、そして保育所における保幼小連携や事故予防といった現代的課題を取り上げた研修という3つの柱を中心として、研修対象や研修内容を精査し、保育所の現状を踏まえて必要とされる研修が実現されるよう毎年検討が重ねられ実施されています。特に平成25年度については、月1回のペースで定例委員会を設け、各研修での学びが深まるよう研修内容や方法についての検討を続けて参りました。

本事業では、研修会における研修内容の理解に終始するのではなく、そこでの学びが現場で活用されて初めて研修の意義があるという考えに立脚し、研修内容や研修方法についての検討を進めています。平成25年度は、現場で活用できるような研修会での学びをめざし、以下の3点について重点的に検討を重ね、研修会を実施いたしました。

① 現場での課題の意識化を図る

まず第一点は、現場の中の課題を受講者自身が意識することによって、研修内容を知識として理解するのではなく、できるだけ現場の課題に引きつけながら咀嚼することが重要であると考えました。現場の実態や実践を豊富に講義内容に盛り込んで下さる講師の選定はもちろんのこと、研修を受講する前の「事前レポート」においては、日々の実践の中での課題を意識化した上で研修会に参加していただくためには、どのような課題設定を行ったら良いのか。この点について定例委員会で丁寧に議論しました。例えば就任予定保育所長研修においては、「保育所保育指針の中で最も学びたい“章”を指定した上で、その理由を具体的なご自身の問題を含めて記述する」という課題にしています。これは、事前に保育所保育指針の全体構造と概要を一通り確認していただくと同時に、園をマネジメントする者として保育所保育指針をどのように理解しているのか、研修で学びたい事柄を意識した上で動機を明確にし、参加していただくというねらいがあります。研修会で単に保育所保育指針の内容の理解するのではなく、指針を園運営にどう活かすのかを意識してその内容理解を深め、現場づくりにつながるような学びをめざしています。

② 他園の実践を知り、人脈を広げる

第二の点は、講師から研修内容を学ぶことに加え、参加している他の受講生との交流の中での学びの展開の必要性です。保育実践の現場は、社会情勢や地域性、園の資源など、多様な要因が影響し、様々な条件の中で園が運営されています。講師からの豊富な情報や実践、理論から学ぶことは確かに重要なことですが、他園の実践や問題解決の工夫を知ることは、現場で生きるアイデアや理念をたくさん含んでいます。また研修会を通じて得られた他園や保育士との繋がりは、今後の保育をつくっていく者同士、新たな課題を乗り越えていくパートナーシップを形成するきっかけとなり、大きな財産になることと考えています。本事業では、受講者同士が日々の実践を伝え合い、課題について考えを交流させることを通じて、グループでのディスカッションの中で理論を実践へつなぐ機会をできるだけ多く設けることとしました。

③ 研修評価の方法

第三は、研修評価の方法についてです。これまでも本事業においては、受講者に対するアンケートを実施し、研修内容の理解や現場への活用についての評価を行ってまいりました。本年度は、研修会での学びが現場でどの程度活用されるのかについての調査ができるようなアンケートをめざし、対象や方法、時期についての検討を進めました。まずは、受講者に対するアンケートについて、研修終了時だけではなく、3ヶ月に追跡的にアンケートを実施するという、短期的ではありますが縦断的な研修評価に関する調査を試みた点が大きな前進であると考えています。アンケートでは、研修会で行われた各講義のテーマについての「理解度」と「活用度」をお聞きしました。研修終了時では、「研修内容がどの程度理解できたか」、「その内容をどの程度現場で活用しようと思うか」についてのアンケートです。そして3ヶ月後には、「研修内容を“今”どの程度理解しているか」、「その内容をこの3ヶ月の間どの程度現場で活用できたか」という内容です。アンケート結果については本報告書をご覧いただければと思いますが、この追跡型アンケートによって新たに見えてきたことがあります。例えば、研修会終了時には理解しにくかった内容が3ヶ月後には理解が深まっている講義テーマがあること、あるいは研修会終了時には現場で活用しようと思っていたにも拘らず現場ではそれを活用することができなかつたテーマがあることなど、時間の経過と共に変容する「理解度」や「活用度」があることが明らかになったという点は大きな収穫であると考えています。すなわち、現場に生きる研修を目指すならば、研修会での学びが現場に活きるに必要な時間の経過をその評価の視点に含めることが必須であるということが本年度の研修評価の試みから明らかになったということです。また3ヶ月後調査においては、受講した方だけではなく、保育所長に対しての調査も行いました。これは、受講した職員の研修での学びをどのように園の中で共有し活用したか、そして実践の中で研修での学びを職員が活用していると感じているかの調査です。研修に参加した職員の学びは、単なる個としての学びではなく、それを現場で共有することによって園の土壌が豊かになることが必要と考えています。その共有時期や方法をマネジメントする所長の意識や園のあり方を調査することは、研修での学びが現場でどの程度活かされるかに多いに影響を与えるものであり、この実態を調査することは今後の研修について示唆を与えてくれるものと捉えています。

保育における研修の必要性は、保育の質の向上において、昨今議論が高まっており、保育士不足の現状や新たな保育制度の実現に向け、ますます検討を重ねなければならない課題です。本事業がこれらの課題の改善に寄与することのできる取り組みの一つとなることを切に願い、子どもの豊かな成長を支える保育の発展につながることを祈念しております。

平成 26 年 5 月

洗足こども短期大学
井上真理子

目 次

-はじめに-

-保育所保育士研修等事業の全体考察-

-実施要綱・事業概要等-

保育所保育士研修等実施要綱（目的・対象申込方法等について）	5
研修会の申込方法の流れ（フローチャート）	6
企画・定例委員会（評価委員会）の実施	7
研修会受講者数の実績	10

-各研修会実施報告・研修活用調査結果-

1. 保育所中堅保育所長研修会	11
2. 保育所初任保育所長研修会（東京開催・大阪開催）	17
3. 保育所初任保育所長（就任予定者）研修会	26
4. 保育所乳児保育担当者研修会（東京開催・大阪開催）	31
5. 保育所障害児保育担当者研修会（東京開催・大阪開催）	41
6. 保育所保護者支援研修会	52
7. 保幼小連携研修会（旧：幼児期の教育研修会）	59
8. 保育所事故予防研修会（東京開催・大阪開催）	65
9. 保育所主任保育士研修会（東京開催2回・大阪開催2回）	75
調査票の書式	92

参考資料（過去の研修会受講者数・推移）

実施報告書作成者等分担等

保育所保育士研修等実施要綱

1. 本事業の目的

保育所は人が「育ち」「育てる」という人類普遍の価値を共有し、継承し、広げることを通じて社会に貢献していく重要な場です。保育所保育士研修等事業によって、保育所長及び保育所保育士等の保育所職員の専門性を向上し、保育所保育指針を踏まえた各保育所の創意工夫あふれる保育が展開されることにより、子どもの最善の利益が保障されることを目指します。

2. 本事業の対象

本事業の対象者は以下のとおりです。

- (1) 認可保育所の保育所職員
- (2) 平成 26 年度に認可予定の保育所職員
- (3) 児童福祉施設最低基準を満たした認可外保育施設の職員

なお、それぞれの研修会の対象者については後日お送りする研修会実施要領をご参照ください。

3. 本事業の研修会の申込方法について

- (1) 各研修会の実施要領を、研修会実施の約 3 か月前に日本保育協会より都道府県・指定都市・中核市の児童福祉（保育）主管課あてにお送りしますので、市町村児童福祉（保育）主管課・管下保育所などへのご案内をお願いします。

また、日本保育協会のホームページからダウンロードすることもできます。

【研修情報】URL：<http://www.nippo.or.jp/guide/>

- (2) お申込みの受付は、都道府県・指定都市・中核市の児童福祉（保育）主管課になります。同主管課の推薦により、実施要領送付の際にご案内の「申込締切日」までに日本保育協会へお申込みください。各都道府県・指定都市・中核市において予定の割当人員を超える場合は、事前に日本保育協会研修部までご相談ください。

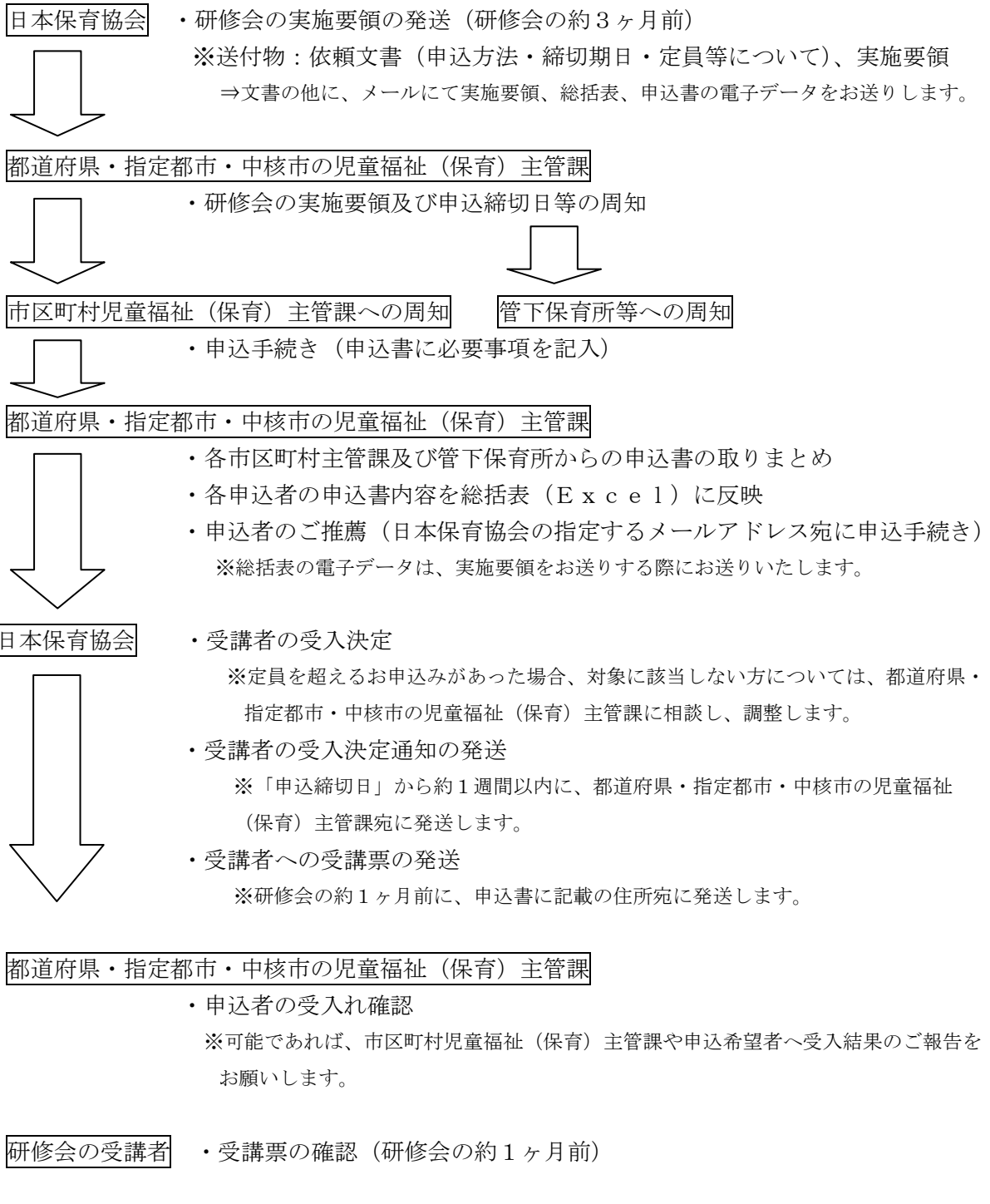
なお、申込者から同主管課への申込締切日については各主管課にてご指定ください。

- (3) 申込者の受講の可否については、「申込締切日」から約 1 週間以内に、都道府県・指定都市・中核市の児童福祉（保育）主管課宛に文書をお送りします。なお、研修会の定員を超えるお申込みがあった場合、対象に該当しない方のお申込みがあった場合は、受入人数の調整をお願いすることがございます。その際には、同主管課宛にご連絡いたします。

- (4) 研修会実施の約 1 か月前に、受講決定者に受講票をお送りいたします。

- (5) 詳細な研修内容や申込方法については、研修会実施の約 3 か月前にお送りする各研修会の実施要領をご覧ください。

研修会の申込方法の流れ（フローチャート）



企画・定例委員会（評価委員会）の実施

保育所保育士研修等事業では、「企画委員会」と「定例委員会（評価委員会）」を設置し、研修事業のPDCAサイクルの構築、並びに研修フレームの構築（研修の質を保ち、向上していくための仕組みづくり）を行っている。

企画委員会では、主に、保育界全体の動向を踏まえ、今後の研修事業の計画を立て、各研修会の方向性や内容を検討する。

定例委員会では、主に、各研修会の構成や講義科目・内容、講義の手法、アンケート、事後調査、課題の整理など細かい内容を検討する。

【企画委員会】

（平成24年度内に実施）

第1回 保育所保育士研修等事業企画委員会

- | | |
|-----|--|
| 期 日 | 平成24年10月4日（木） |
| 場 所 | 東京都渋谷区 こどもの城会議室 |
| 議 題 | 1. 保育士（保育所長）研修の現状について
2. 保育所保育士研修等事業のこれからについて
3. その他 |

第2回 保育所保育士研修等事業企画委員会

- | | |
|-----|--|
| 期 日 | 平成25年1月26日（土） |
| 場 所 | 東京都渋谷区 こどもの城会議室 |
| 議 題 | 1. 日本保育協会の研修体系について
2. 平成25年度の研修内容について
3. その他 |

（平成25年度内に実施）

第1回 保育所保育士研修等事業企画委員会

- | | |
|-----|--|
| 期 日 | 平成26年2月27日（木） |
| 場 所 | 東京都渋谷区 こどもの城会議室 |
| 議 題 | 1. 平成25年度保育士（保育所長）研修の実施報告について
2. 平成26年度保育所保育士研修等事業の企画について
3. その他 |

【定例委員会（評価委員会）】

第1回 保育所保育士研修等事業定例委員会（評価委員会）

- | | |
|-----|---|
| 期 日 | 平成25年4月26日（金） |
| 場 所 | 東京都渋谷区 こどもの城会議室 |
| 議 題 | 1. 保育所初任保育所長（就任予定者）研修会について
2. 各研修会の事後評価の手法について
3. その他 |

第2回 保育所保育士研修等事業定例委員会（評価委員会）

- 期 日 平成25年 5月22日（水）
場 所 東京都渋谷区 日本保育協会会議室
議 題
1. 保育所初任保育所長（就任予定者）研修会について
 2. 保育所初任保育所長研修会の事前・事後レポートについて
 3. 各研修会の直後評価の手法について
 4. 各研修会の事後評価の手法について
 5. その他

第3回 保育所保育士研修等事業定例委員会（評価委員会）

- 期 日 平成25年 6月24日（月）
場 所 東京都渋谷区 こどもの城会議室
議 題
1. 保育所初任保育所長（就任予定者）研修会について
 2. 保育所初任保育所長研修会の事前・事後レポートについて
 3. 各研修会の直後評価の手法について
 4. 各研修会の事後評価の手法について
 5. その他

第4回 保育所保育士研修等事業定例委員会（評価委員会）

- 期 日 平成25年 8月 7日（水）
場 所 東京都渋谷区 こどもの城会議室
議 題
1. 保育所初任保育所長研修会について
 2. 保育所初任保育所長研修会の事前・事後レポートについて
 3. 各研修会の直後評価の手法について
 4. 各研修会の事後評価の手法について
 5. 各研修会の前期総括について
 6. その他

第5回 保育所保育士研修等事業定例委員会（評価委員会）

- 期 日 平成25年 9月 9日（水）
場 所 東京都渋谷区 日本保育協会会議室
議 題
1. 各研修会の直後評価の評価について
 2. 各研修会の事後評価の手法について（最終確認）
 3. 各研修会の事務局運営について
 4. 初任保育所長研修会の講義資料のまとめについて
 5. その他

- 第6回 保育所保育士研修等事業定例委員会（評価委員会）
- 期 日 平成25年10月4日（金）
- 場 所 東京都渋谷区 日本保育協会会議室
- 議 題
1. 各研修会の事後評価について
 2. 保育所初任保育所長研修会（大阪開催）について
 3. 保育所中堅保育所長研修会について
 4. 各研修会の事務局運営について
 5. その他
- 第7回 保育所保育士研修等事業定例委員会（評価委員会）
- 期 日 平成25年10月17日（木）
- 場 所 東京都渋谷区 こどもの城会議室
- 議 題
1. 各研修会の事後調査について
 2. 保育所中堅保育所長研修会について
 3. 各研修会の事務局運営について
 4. 保育所保育士研修等実施報告について
 5. 保育士研修実態調査について
 6. その他
- 第8回 保育所保育士研修等事業定例委員会（評価委員会）
- 期 日 平成25年11月11日（月）
- 場 所 東京都渋谷区 日本保育協会会議室
- 議 題
1. 各研修会の事後調査について
 2. 保育所中堅保育所長研修会について
 3. 保育士研修実態調査について
 4. その他
- 第9回 保育所保育士研修等事業定例委員会（評価委員会）
- 期 日 平成26年1月17日（金）
- 場 所 東京都渋谷区 日本保育協会会議室
- 議 題
1. 各研修会の事後調査について
 2. 保育所中堅保育所長研修会について
 3. 平成26年度保育所保育士研修等事業の企画について
 4. その他
- 第10回 保育所保育士研修等事業定例委員会（評価委員会）
- 期 日 平成26年3月13日（木）
- 場 所 東京都渋谷区 日本保育協会会議室
- 議 題
1. 平成25年度保育所保育士研修等事業について
 2. 保育所中堅保育所長研修会について
 3. 平成26年度保育所保育士研修等事業の企画について
 4. その他

研修会受講者数の実績

研修会名		定員数	申込者数	受講者数	参加率
1	保育所中堅保育所長研修会	200名	137名	115名	57.5%
2	保育所初任保育所長研修会(東京)	300名	584名	411名	137.0%
	保育所初任保育所長研修会(大阪)	300名	289名	270名	90.0%
3	保育所初任保育所長(就任予定者)研修会	400名	441名	371名	92.8%
4	保育所乳児保育担当者研修会(東京)	300名	516名	405名	135.0%
	保育所乳児保育担当者研修会(大阪)	300名	371名	367名	122.3%
5	保育所障害児保育担当者研修会(東京)	300名	299名	288名	96.0%
	保育所障害児保育担当者研修会(大阪)	300名	207名	204名	68.0%
6	保育所保護者支援研修会	300名	442名	402名	134.0%
7	保幼小連携研修会	200名	209名	199名	99.5%
8	保育所事故予防研修会(東京)	300名	340名	319名	106.3%
	保育所事故予防研修会(大阪)	300名	260名	251名	83.7%
9	保育所主任保育士研修会(東京①)	300名	500名	388名	129.3%
	保育所主任保育士研修会(大阪①)	300名	434名	368名	122.7%
	保育所主任保育士研修会(東京②)	300名	411名	362名	120.7%
	保育所主任保育士研修会(大阪②)	300名	255名	244名	81.3%
合計		4700名	5695名	4964名	105.6%

※1) 赤字は、研修会の定員を大幅に超えた申込者数となります。

※2) 定員数を大幅に超える申込みがあった場合、申込者数が多い自治体の優先順位の低い申込者から受講不可としている。

各研修会実施報告・研修活用調査結果

1. 保育所中堅保育所長研修会

(1) 目的

- ・子どもの発達や保育観に関する知見や課題を共有し、子どもの発達を支える保育者のかかわりについて学ぶ。
- ・保育所における人材育成の課題を理解し、保育及び保育所職員の資質の向上、職員の協働性を高めるための共に育ち合う環境・職場づくりや手法について討議する。
- ・保育所における保護者支援の役割と機能を理解し、地域で保護者とともに子育て・子育てを支えるための保育所づくりについて学び、具体的な事例を通して、自園の保護者支援の実践の向上を図る。

(2) 対象

保育所長の経験年数5年以上の保育所長

※原則として、保育所長経験5年以上の保育所長を中堅としておりますが、各都道府県・指定都市・中核市等において、原則によらない場合は、日本保育協会へご相談ください。

(3) 定員・研修日程・場所

定員	研修日程	研修会場	所在地
200名	平成26年2月19日(水)～21日(金)	御茶ノ水ソラシティ	東京都千代田区駿河台4-6

(4) 研修内容

研修科目	研修内容	方法・時間	講師名
1.子ども理解と保育者のかかわり ～ワークショップⅠ～	・子ども理解と保育観 ・子どもの発達を支える保育者のかかわり	ワークショップ 1時間30分	お茶の水女子大学大学院 井上 眞理子
		講義 1時間30分	田園調布学園大学 准教授 高嶋 景子
2.保育所における人材育成	・保育所の職場づくりと所長の役割 ・保育及び保育所職員の資質の向上 ・園内研修の考え方と手法	講義・討議 6時間	関東学院大学 専任講師 三谷 大紀
3.保育所の保護者支援	・保育所における保護者支援 ・保護者との連携 ・地域に開かれた保育所づくり	講義・討議 4時間	武蔵大学 教授 武田 信子
4.これからの保育所づくり ～ワークショップⅡ～	・各研修科目の振り返り ・これからの保育所づくり	ワークショップ 2時間	お茶の水女子大学大学院 井上 眞理子

(5) 受講者の内訳

受講者数(申込者数)		115名(137名)	現職	所長	107(93.0%)
年齢	平均年齢(標準偏差)	55.8歳(7.8)		理事長	6(5.2%)
	範囲	31～77歳		その他	2(1.7%)
性別	男性	21(18.3%)	保育所長 経験年数	平均年数(標準偏差)	6.6年(4.5)
	女性	94(81.7%)		範囲	1～27年
運営 主体	公営	46(40.0%)	保育士 経験年数	平均年数(標準偏差)	22.2年(14.4)
	民営	69(60.0%)		範囲	0～43年

(6) 事前レポート・保育所のアクションプラン

①事前レポート

研修会の一環として、研修の学びをより深めるために、受講者全員に対して課題を出し、事前レポートを提出いただいた。

事前レポートは、研修会初日の「子どもの発達と保育者のかかわり～ワークショップⅠ～」と接続させており、「ご自身が考える子ども観・保育観」をテーマとして、保育e-Learnig(講義名:子ども理解:子どもの発達と保育環境)を視聴して感じたこと原稿用紙400字以内にまとめていただいた。ワークショップでは、事前レポートのテーマについて、受講者同士でディスカッションを行い、それぞれの地域性や世代間などによって異なる「子ども観・保育観」を共有した。

※e-Learningとは？

インターネットを活用して動画やテキスト教材を使って進めていく学習方法。日本保育協会が制作している「保育 e-Learning」では、インターネットが閲覧できる環境であれば、自宅や職場からいつでも保育に関する講義を無料で視聴することができる。

②保育所のアクションプラン

研修会最終日の「これからの保育所づくり～ワークショップⅡ～」において、「自園の特性を踏まえ、魅力ある保育所をつくるために、本研修会3日間を通じて学んだことや考えたことから実際のプランを考えること」を目的として、アクションプランを作成いただいた。

アクションプランの構成は、「①あなたの園の特徴」「②あなたの園のあるべき姿(理想)」「③あなたの園の課題、悩み、あるべき姿に向けての阻害要因(園の環境と職員の状況)」「④アクションプラン(今後すべきこと)」の4つとなっている。

まずは、①②について、各自ワークシートに記入し、受講者同士で「自園の魅力」「5年後に目指す保育園(理想)」をディスカッションし、共有した。続いて、③④について、各自ワークシートに記入し、受講者同士で「自園が抱える課題」「所長としてまず取り組むべきこと」をディスカッションし、共有した。最後に、保育所におけるアクションプランづくりについて、講義を受けた。

(7) 研修活用調査の結果

調査の実施については、研修会直後と研修会の3ヶ月後に実施した調査結果となっている。研修会直後調査では、受講者数115名のうち、107名(93.0%)から調査票を回収した。また、3ヶ月後調査では、88名(76.5%)から調査票を回収した。

①各講義の理解度・活用度の単純平均値・標準偏差について

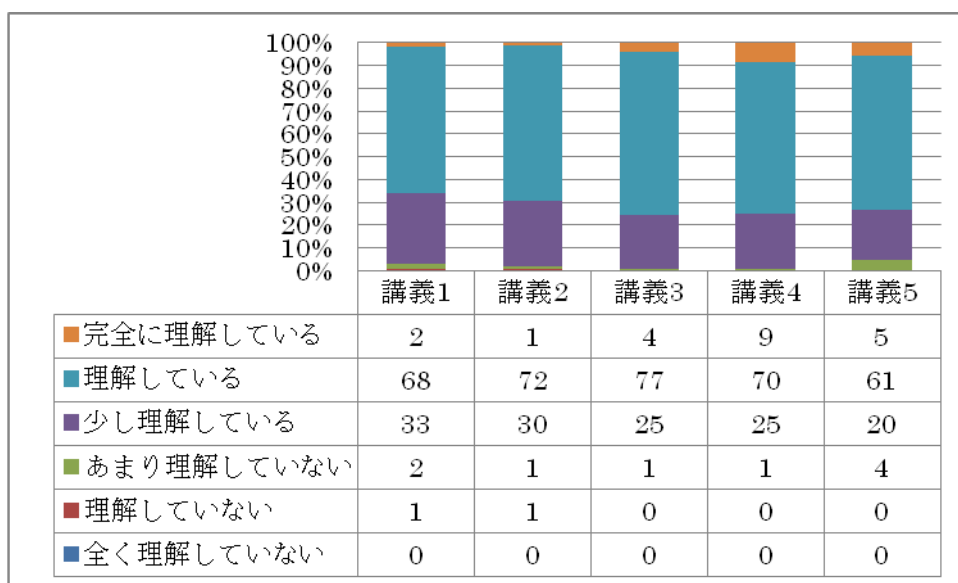
理解度は、(1)全く理解していない・(2)理解していない、(3)あまり理解していない、(4)少し理解している、(5)理解している、(6)完全に理解している、の6段階の評価となっている。

活用度について、研修会直後は、(1)活用しない、(2)あまり活用しない、(3)少し活用する、(4)大いに活用する、の4段階の評価となっているが、3ヶ月後では、(1)全く活用しない、(2)活用しない、(3)あまり活用しない、(4)少し活用する、(5)活用する、(6)大いに活用する、の6段階の評価となっている。

科目	内容	理解度		活用度	
		講義後	3ヶ月後 (受講者)	講義後	3ヶ月後 (受講者)
講義Ⅰ「子どもの発達と 保育者のかかわり」 ～ワークショップ①～ 井上真理子 (お茶の水女子大学大学院)	子ども理解と保育観	4.6 (0.6)	4.7 (0.7)	3.4 (0.6)	4.5 (0.8)
	子どもの発達を支える保 育者のかかわり		4.8 (0.6)		4.6 (0.8)
講義Ⅱ「子どもの発達と 保育者のかかわり～講義～」 高嶋景子(田園調布学園大 学)	子ども理解と保育観	4.7 (0.6)	4.7 (0.7)	3.5 (0.6)	4.5 (0.8)
	子どもの発達を支える保 育者のかかわり		4.8 (0.6)		4.6 (0.8)
講義Ⅲ「保育所における 人材育成」 三谷大紀 (関東学院大学)	保育所の職場づくりと所長 の役割	4.8 (0.5)	4.8 (0.6)	3.6 (0.5)	4.6 (0.7)
	保育及び保育所職員の資 質の向上		4.7 (0.6)		4.5 (0.8)
	園内研修の考え方と手法		4.6 (0.6)		4.4 (0.8)
講義Ⅳ「保育所の 保護者支援」 武田信子(武蔵大学)	保育所における保護者支 援	4.8 (0.6)	4.7 (0.5)	3.6 (0.5)	4.4 (0.8)
	保護者との連携		4.7 (0.6)		4.4 (0.8)
	地域に開かれた保育所づ くり		4.5 (0.6)		4.2 (0.8)
講義Ⅳ「ワークショップ②」 井上真理子 (お茶の水女子大学大学院)	これからの保育所づくり	4.7 (0.6)	4.6 (0.6)	3.5 (0.5)	4.1 (0.8)

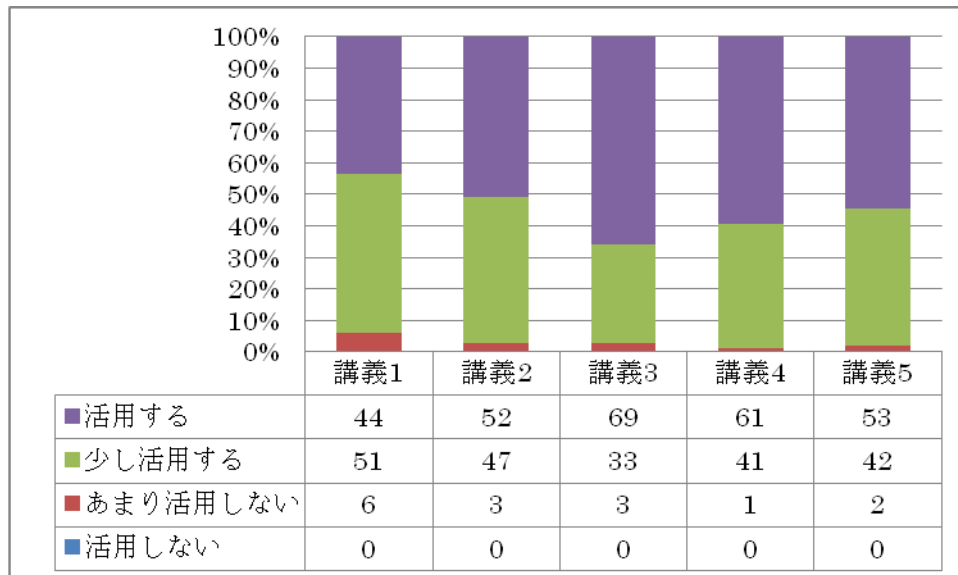
②各講義の受講後の理解度について (n=107)

全ての講義において、「理解している」の回答が他の回答よりも多く、60%以上となっている。「完全に理解している」「少し理解している」を含めると、95%以上の方が理解していると回答した。



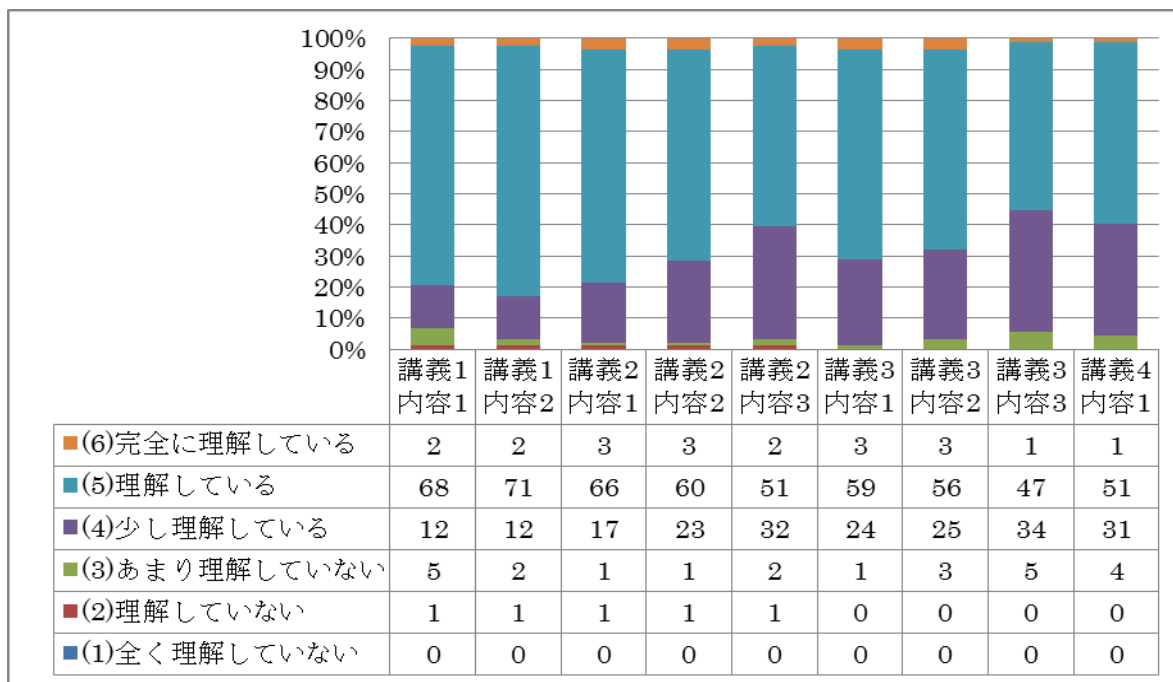
③各講義の受講後の活用度について (n=105)

全ての講義において、「活用する」「少し活用する」の回答が95%以上となっている。特に、講義3「保育所における人材育成」に関しては、約65%の方が「活用する」と回答している。



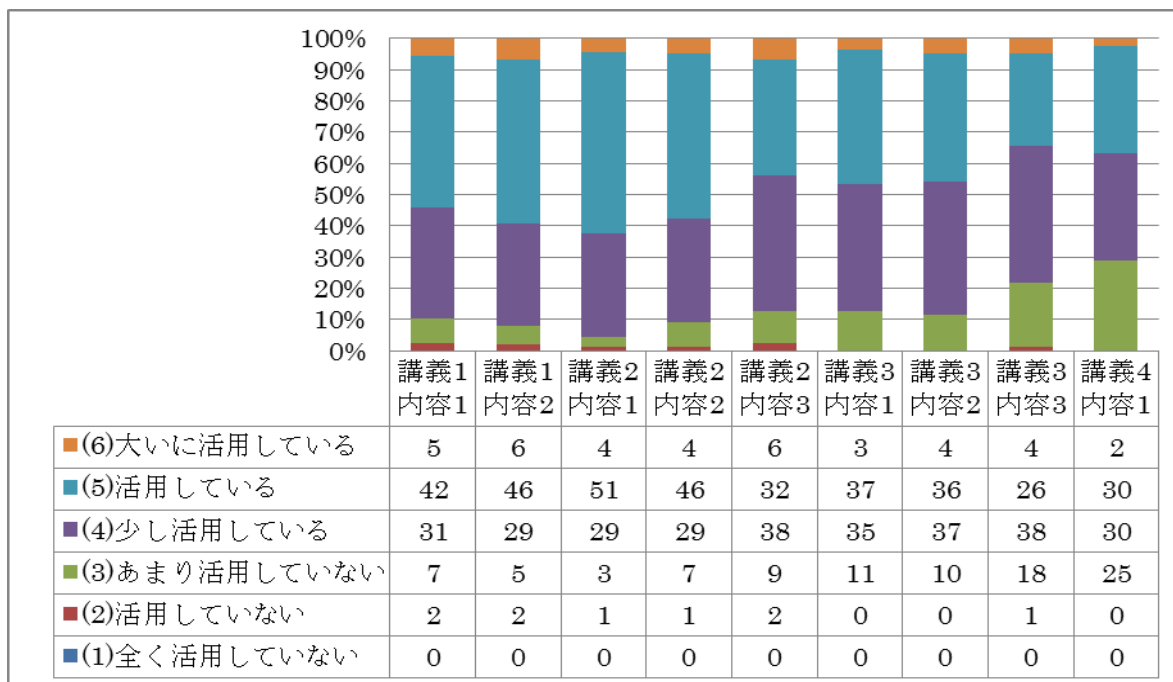
④研修会の3ヶ月後の各講義の理解度について

3 か月後の調査では、各講義の内容ごとに理解度を示している。結果としては、各講義の内容ごとに多少の違いはあるが、「完全に理解している」「理解している」「少し理解している」の回答が93%以上となっている。



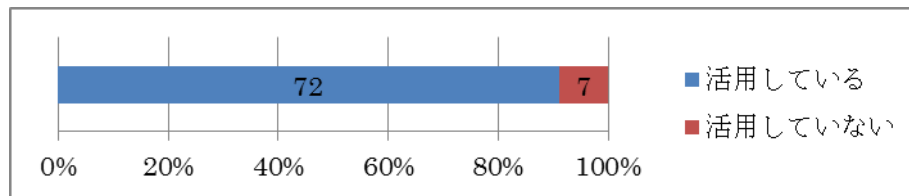
⑤研修会の3ヶ月後の各講義の活用度について

3 か月後の調査では、各講義の内容ごとに活用度を示している。結果としては、各講義の内容ごとに多少の違いはあるが、講義1～講義3内容2まででは、「大いに活用している」「活用している」「少し活用している」の回答が87%以上となっている。講義3内容3と講義4内容1では、22～28%の方が「あまり活用していない」と回答している。



⑥研修会の3ヶ月後、全体を通して学んだことを保育所運営・実践に活用しているか。

研修会3ヶ月後に「活用している」と回答した方が91%、「活用していない」と回答した方が9%となっている。



2. 保育所初任保育所長研修会

(1) 目的

- ・最新の保育制度の動向を踏まえ、子どもの最善の利益のために、保育所の適正な運営・体制づくりについて考察する。
- ・施設長の役割として、保育の質及び保育所職員の資質の向上のため、保育所の人材育成の現状の課題と基本的な考え方について学ぶ。
- ・保育所のリスクマネジメントの意義について事例を通して学び、園内での危機管理のための体制づくりを図る。

(2) 対象 (以下の条件のいずれかに該当する方)

- ①保育所初任保育所長（就任予定者）研修会を受講した方で、平成 25 年度または平成 26 年度中に保育所長に就任する予定の方
- ②保育士資格を有し、平成 25 年度または平成 26 年年度中に保育所長に就任する予定の方
- ③保育所長経験年数 1 年以上、5 年未満の方

【保育所初任保育所長研修会を受講される際の留意事項】

・平成 25 年度保育所初任保育所長（就任予定者）研修会を受講された方は、必ず平成 25 年度または平成 26 年度中に保育所初任保育所長研修会を受講してください。やむをえない事情により期間中に受講ができなかった場合は、平成 27 年度であれば受講が可能です。

(3) 定員・研修日程・場所

定員	研修日程	研修会場	所在地
300 名	平成 25 年 9 月 11 日(水)～13 日(金)	御茶ノ水ソラシティ	東京都千代田区駿河台 4-6
300 名	平成 25 年 12 月 4 日(水)～6 日(金)	千里阪急ホテル	大阪府豊中市新千里東町 2-1

(4) 研修内容

研修科目	研修内容	方法・時間	講師名
1.保育制度の動向と保育所におけるガイドライン	・保育制度の動向 ・関係法令とガイドラインの理解	講義 1時間30分	厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課 【東京開催】課長 橋本 泰宏 【大阪開催】室長 南 新平
2.児童福祉と子どもの最善の利益	・児童福祉の現状 ・子どもの最善の利益	講義 1時間30分	【東京開催】 日本社会事業大学 理事長 潮谷 義子 【大阪開催】 関西大学 教授 山縣 文治
3.保育所における人材育成 I	・組織マネジメントとリーダーの役割 ・機能的なチームビルディング	講義・討議 3時間	厚生労働省 政策評価に関する有識者会議 委員 (東レ経営研究部 研究部長) 渥美 由喜
4.保育所における人材育成 II	・保育所の役割を果たす職場づくり ・保育所における専門職の倫理	講義・討議 3時間	東洋大学 准教授 高山 静子

研修科目	研修内容	方法・時間	講師名
5.保育所のリスクマネジメント	・保育所におけるリスクマネジメント ・事事故例からの保育所の法的な対応	講義・討議 3時間	東京きぼう法律事務所 弁護士・社会福祉士 寺 町 東 子
6.保育所における施設長の役割(保育所の運営管理)	・保育所長の役割と責務 ・特色ある保育所づくり	講義・討議 3時間	【東京開催】 社会福祉法人つくし会 都原保育園 園長 岩 井 沙弥花 【大阪開催】 社会福祉法人小百合苑 柳町園 園長 大 西 宏 幸

(5) 受講者の内訳

		東京開催	大阪開催
受講者数 (申込者数)		411名 (584名)	270名 (289名)
年齢	平均年齢 (標準偏差)	50.3歳 (9.9)	49.8歳 (9.5)
	範囲	23～76歳	25～74歳
性別	男性	145 (35.2%)	69 (25.5%)
	女性	267 (64.8%)	202 (74.5%)
運営主体	公営	60 (14.6%)	59 (21.8%)
	民営	352 (85.4%)	212 (78.2%)
現職	保育士	5 (1.1%)	11 (4.1%)
	リーダー	5 (1.1%)	3 (1.1%)
	主任	12 (2.7%)	25 (9.2%)
	副所長	50 (11.3%)	45 (15.1%)
	所長	274 (62.1%)	157 (57.9%)
	事務職員	28 (6.3%)	15 (5.5%)
	その他	38 (8.6%)	19 (7.0%)
所長経験年数	平均年数 (標準偏差)	0.5年 (0.7)	0.5年 (1.1)
	範囲	0～5年	0～8年

(6) 事前レポート・事後レポート

①事前レポート

研修会の一環として、日々の保育運営・実践に課題意識を持ち、研修会の学びをより深めることを目的に、受講者全員に対して課題を出し、事前レポートを提出いただいた。

課題テーマは、「現在のご自身の保育所での課題」となっており、保育所での実情を含めて、原稿用紙400字以内にまとめていただいた。

①事後レポート

研修会の一環として、受講者全員に対して課題を出し、事後レポートを提出いただいた。

課題テーマは、「保育所長として、まず取り組むべきこと」となっており、事前レポートに関連した内容や研修会を通して学んだ新たな視点・気づきから、原稿用紙400字以内にまとめていただいた。

(7) 研修活用調査の結果

調査の実施については、研修会直後と研修会の3ヶ月後に実施した調査結果となっている。

東京開催分の研修会直後調査では、受講者数411名のうち、407名(99.0%)から調査票を回収し、3ヶ月後調査では、355名(86.4%)から調査票を回収した。大阪開催分の研修会直後調査では、受講者数270名のうち、266名(98.5%)から調査票を回収し、3ヶ月後調査では、212名(78.5%)から調査票を回収した。

①各講義の理解度・活用度の単純平均値・標準偏差について

理解度は、(1)全く理解していない・(2)理解していない、(3)あまり理解していない、(4)少し理解している、(5)理解している、(6)完全に理解している、の6段階評価となっている。

活用度について、研修会直後は、(1)活用しない、(2)あまり活用しない、(3)少し活用する、(4)大いに活用する、の4段階の評価となっているが、3ヶ月後では、(1)全く活用しない、(2)活用しない、(3)あまり活用しない、(4)少し活用する、(5)活用する、(6)大いに活用する、の6段階の評価となっている。

【東京開催】

研修科目	研修内容	理解度		活用度	
		講義後 (標準偏差)	3ヶ月後 (標準偏差)	講義後 (標準偏差)	3ヶ月後 (標準偏差)
講義1 保育制度の動向と保 育所におけるガイドラ イン	保育制度の動向	4.2 (0.6)	4.4 (0.7)	3.2 (0.7)	3.9 (0.9)
	関係法令とガイドラ インの理解		4.2 (0.7)		3.7 (0.9)
講義2 児童福祉と子どもの 最善の利益	児童福祉の現状	4.4 (0.8)	4.5 (0.6)	3.4 (1.3)	4.0 (0.8)
	子どもの最善の利 益		4.7 (0.6)		4.4 (0.8)
講義3 保育所における人材 育成I	組織マネジメントとリ ーダーの役割	4.7 (0.6)	4.6 (0.6)	3.7 (0.5)	4.4 (0.7)
	機能的なチームビル ディング		4.4 (0.7)		4.3 (0.8)
講義4 保育所における人材 育成II	保育所の役割を果 たす職場づくり	4.7 (0.6)	4.7 (0.6)	3.7 (0.5)	4.5 (0.8)
	保育所における専 門職の倫理		4.7 (0.6)		4.4 (0.7)
講義5 保育所のリスクマネジ メント	保育所におけるリス クマネジメント	4.9 (0.6)	4.8 (0.6)	3.9 (0.4)	4.7 (0.8)
	事件事例からの保 育所の法的な対応		4.6 (0.6)		4.4 (0.9)
講義6 保育所における施設 長の役割	保育所長の役割と 責務	4.7 (0.8)	4.8 (0.6)	3.5 (0.6)	4.6 (0.9)
	特色ある保育所づ くり		4.6 (0.6)		4.4 (0.9)

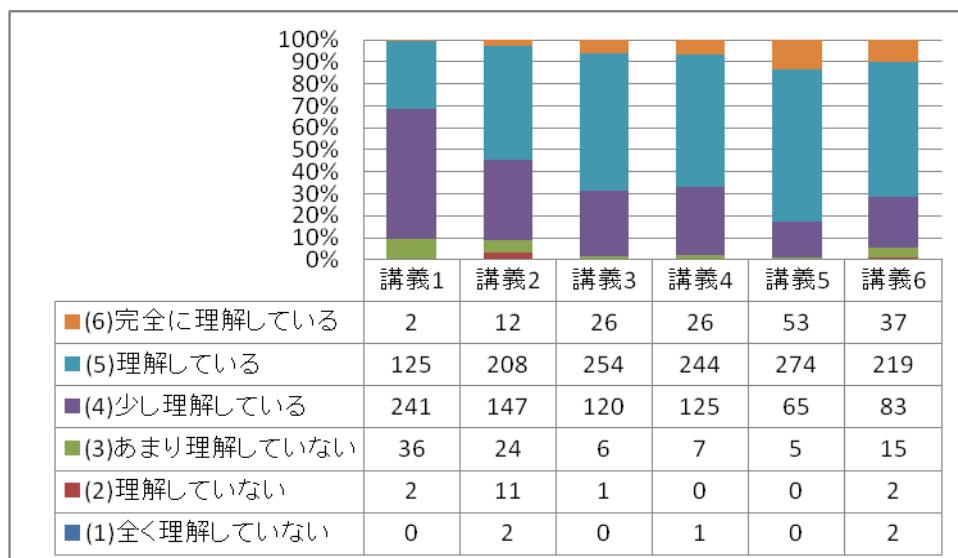
【大阪開催】

研修科目	研修内容	理解度		活用度	
		講義後 (標準偏差)	3ヶ月後 (標準偏差)	講義後 (標準偏差)	3ヶ月後 (標準偏差)
講義1 保育制度の動向と 保育所におけるガ イドライン	保育制度の動向	4.0 (0.7)	4.2 (0.7)	3.1 (0.7)	3.8 (0.9)
	関係法令とガイドラインの理解		3.9 (0.7)		3.7 (0.9)
講義2 児童福祉と子どもの 最善の利益	児童福祉の現状	4.3 (0.7)	4.3 (0.7)	3.3 (0.7)	4.2 (0.8)
	子どもの最善の利益		4.6 (0.6)		4.4 (0.8)
講義3 保育所における人 材育成Ⅰ	組織マネジメントとリ ーダーの役割	4.7 (0.5)	4.6 (0.5)	3.8 (0.4)	4.4 (0.8)
	機能的なチームビル ディング		4.4 (0.6)		4.2 (0.8)
講義4 保育所における人 材育成Ⅱ	保育所の役割を果た す職場づくり	4.6 (0.6)	4.7 (0.6)	3.7 (0.5)	4.5 (0.8)
	保育所における専門 職の倫理		4.6 (0.6)		4.4 (0.8)
講義5 保育所のリスクマネ ジメント	保育所におけるリスク マネジメント	4.9 (0.5)	4.8 (0.6)	3.9 (0.3)	4.7 (1.0)
	事件事例からの保育 所の法的な対応		4.6 (0.6)		4.4 (0.9)
講義6 保育所における施 設長の役割	保育所長の役割と責 務	4.8 (0.6)	4.8 (0.6)	3.9 (0.5)	4.5 (0.8)
	特色ある保育所づく り		4.7 (0.6)		4.5 (0.9)

②各講義の受講後の理解度について

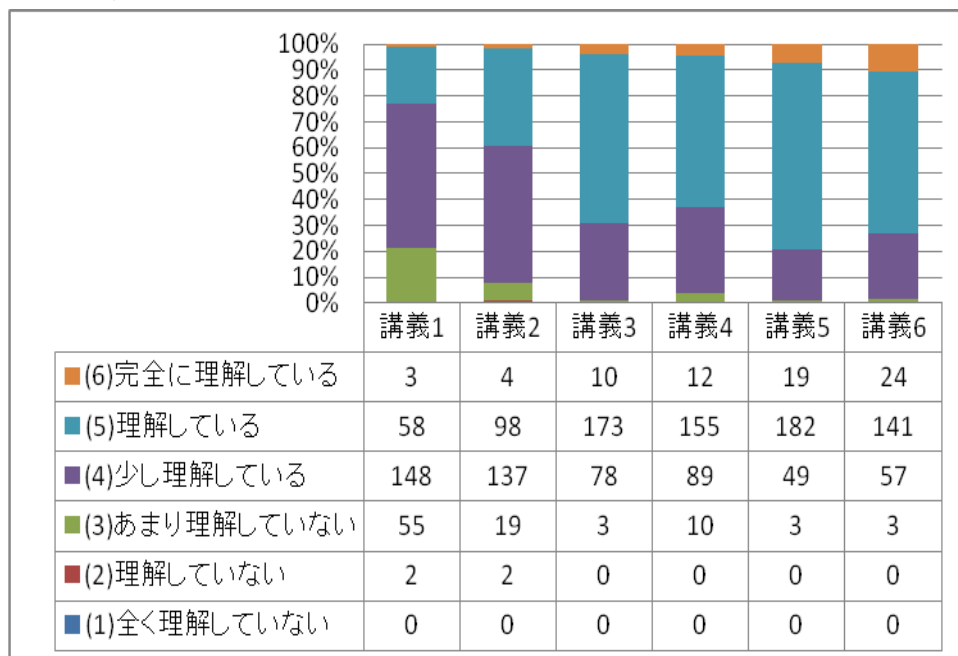
【東京開催】

東京開催については、全ての講義において、「完全に理解している」「理解している」「少し理解している」の回答が90%を超えている。理解度の尺度にはばらつきがあり、講義1「保育制度の動向」に関しては、「少し理解している」が約60%となっている。



【大阪開催】

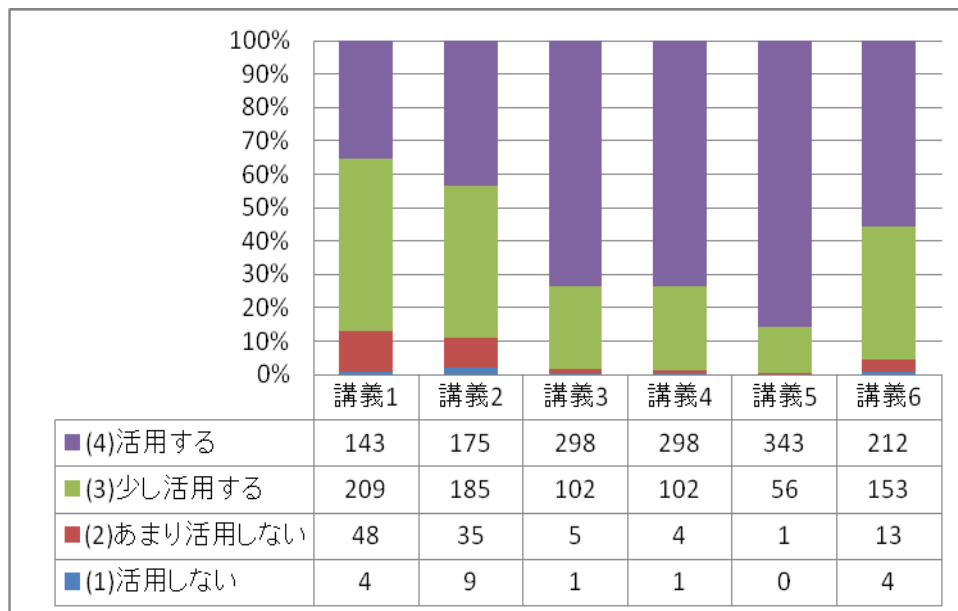
大阪開催については、講義1以外の講義において、「完全に理解している」「理解している」「少し理解している」の回答が90%以上となっている。講義1に関しては、約80%の方が理解していると回答している一方で、「あまり理解していない」の回答が約20%になっている。



③各講義の受講後の活用度について

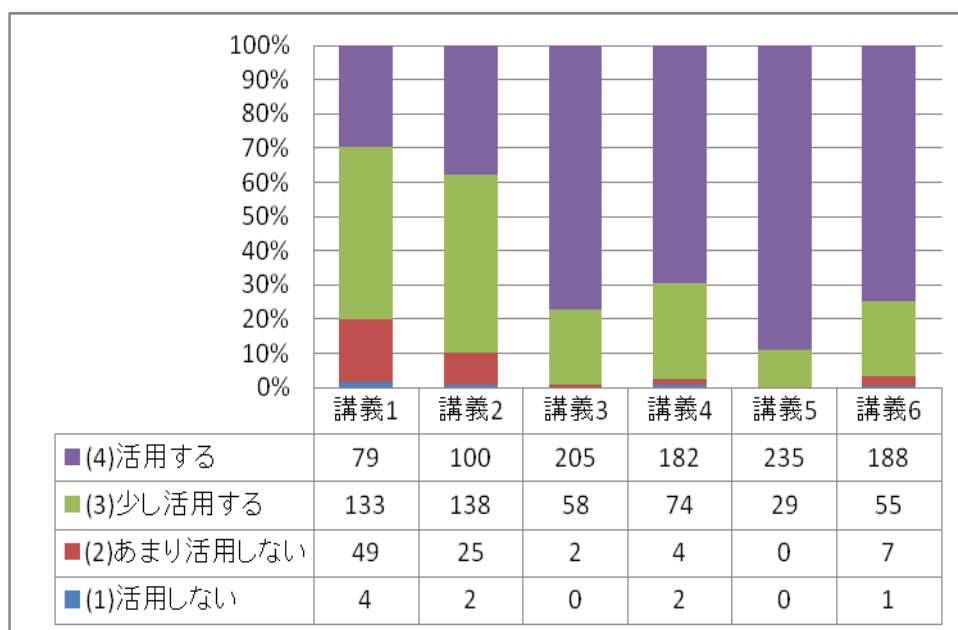
【東京開催】

講義 3～6 については、「活用する」「少し活用する」の回答が 95%以上となっている。一方で、講義 1,2 については、約 10%前後の方が「あまり活用しない」「活用しない」と回答した。前者は、保育運営に関する実践的な内容であるが、後者は、制度や理念的な講義であったため、行動として活用しにくい側面があると推測される。



【大坂開催】

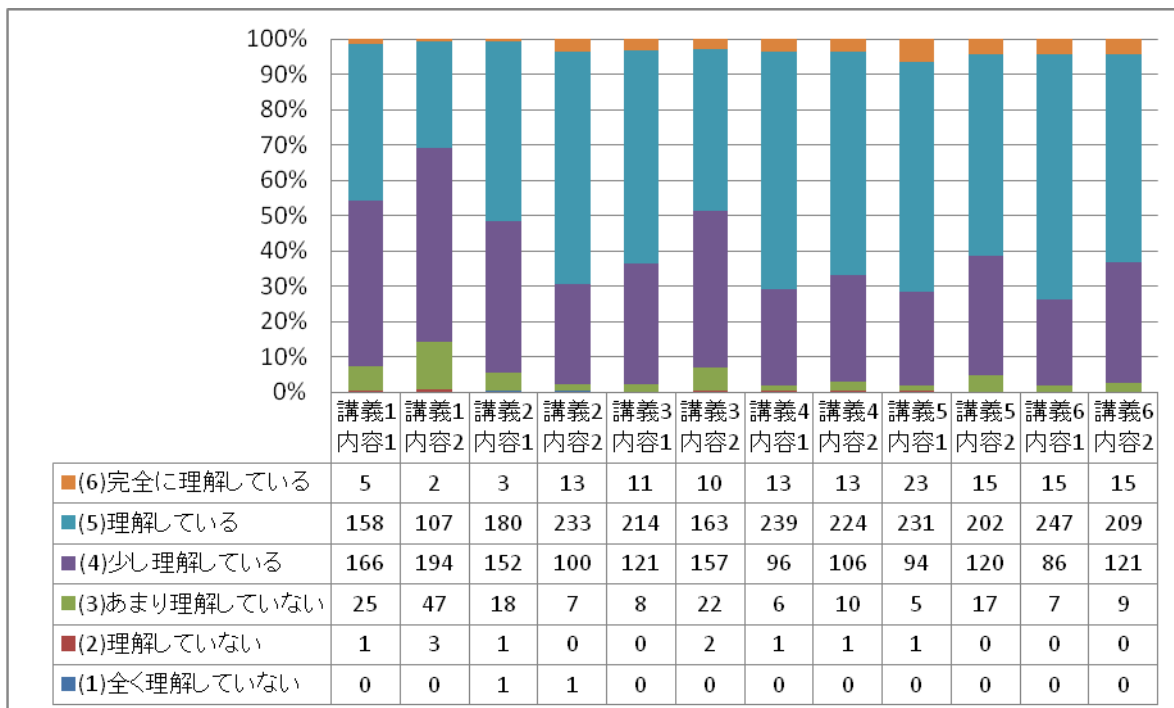
講義 3～6 については、「活用する」「少し活用する」の回答が 95%以上となっている。一方で、講義 1,2 については、講義 1 が約 20%、講義 2 が約 10%の方が「あまり活用しない」「活用しない」と回答した。前者は、保育運営に関する実践的な内容であるが、後者は、制度や理念的な講義であったため、行動として活用しにくい側面があると推測される。



④研修会の3ヶ月後の各講義の理解度について

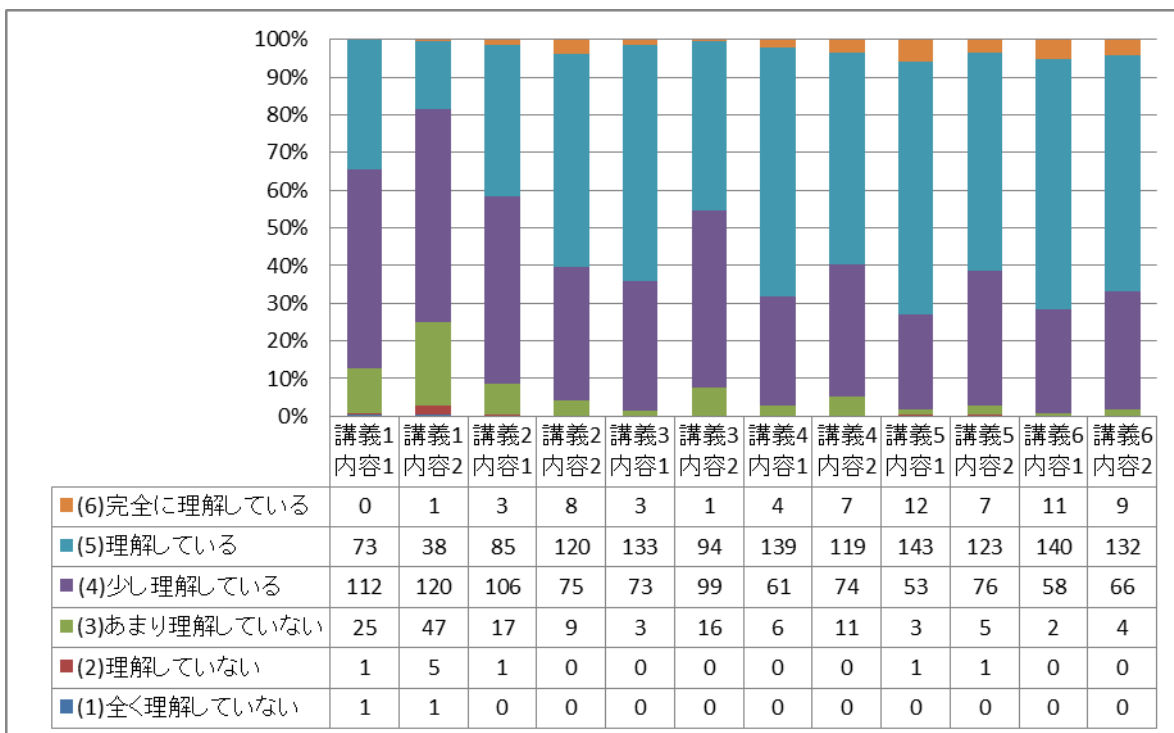
【東京開催】

3 か月後の調査では、各講義の内容ごとに理解度を示している。結果としては、各講義の内容ごとに多少の違いはあるが、「完全に理解している」「理解している」「少し理解している」の回答が 85%以上となっている。



【大阪開催】

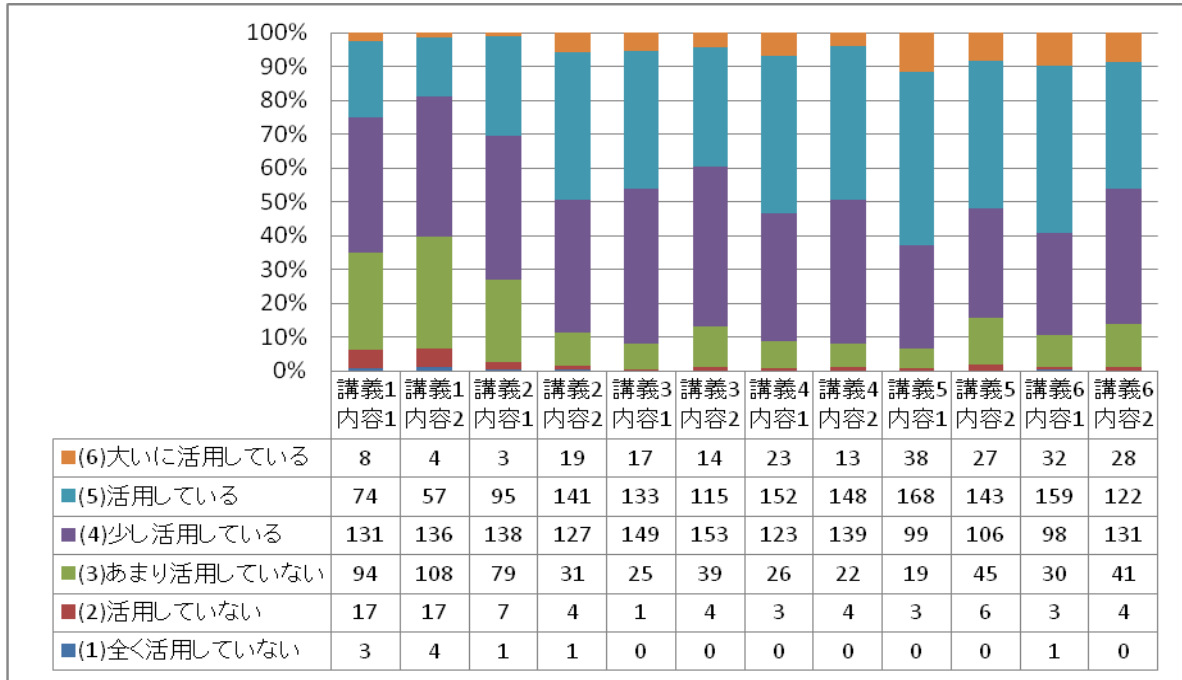
3 か月後の調査では、各講義の内容ごとに理解度を示している。結果としては、講義 1 以外は、「完全に理解している」「理解している」「少し理解している」の回答が 90%以上となっている。講義 1 については、受講者の対象がばらついていることもあり、理解度にも差が出たと考えられる。



⑤研修会の3ヶ月後の各講義の活用度について

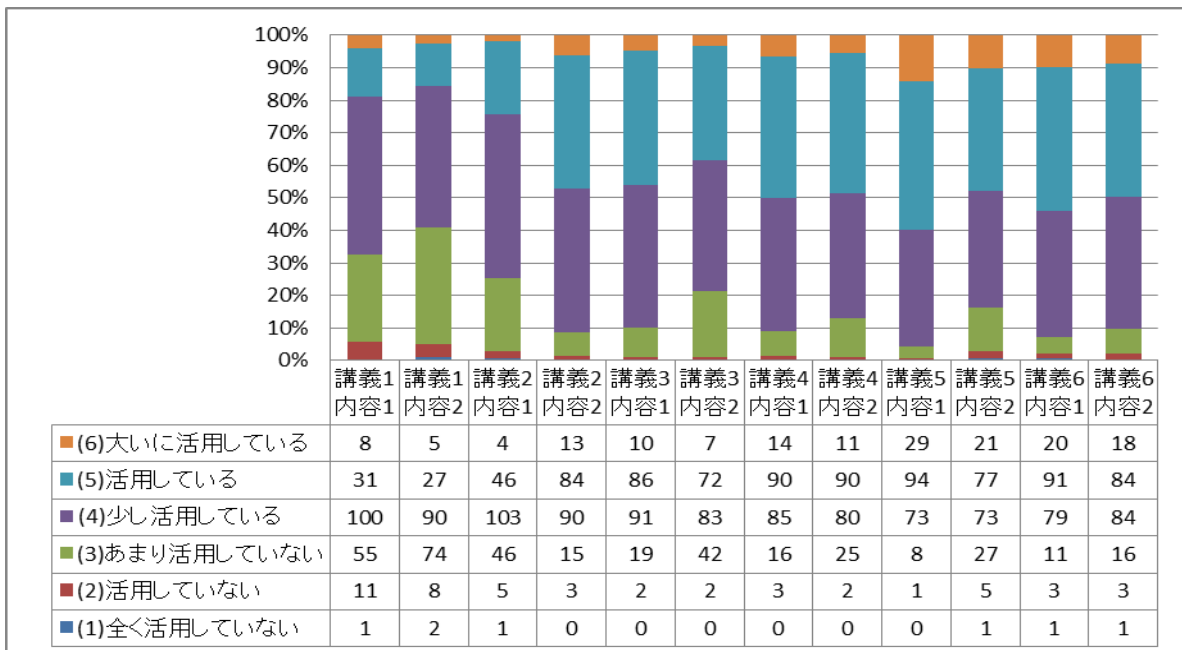
【東京開催】

3 か月後の調査では、各講義の内容ごとに活用度を示している。結果としては、各講義の内容ごとに多少の違いはあるが、講義2内容2、講義3～6では、「大いに活用している」「活用している」「少し活用している」の回答が80%以上となっている。講義1内容1,2、講義2内容1では、20～30%の方が「あまり活用していない」と回答している。



【大阪開催】

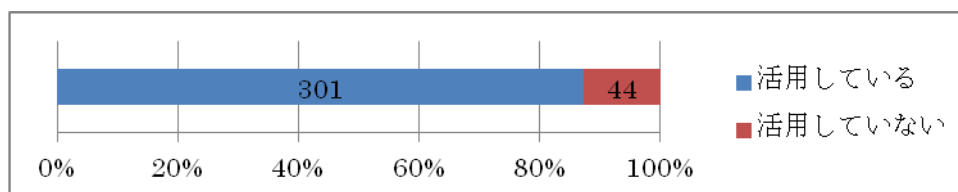
3 か月後の調査では、各講義の内容ごとに活用度を示している。結果としては、各講義の内容ごとに多少の違いはあるが、講義1以外は、「大いに活用している」「活用している」「少し活用している」の回答が80%以上となっている。講義1については、保育制度の動向のため、活用しにくい面もあると考えられる。



⑥研修会の3ヶ月後、全体を通して学んだことを保育所運営・実践に活用しているか。

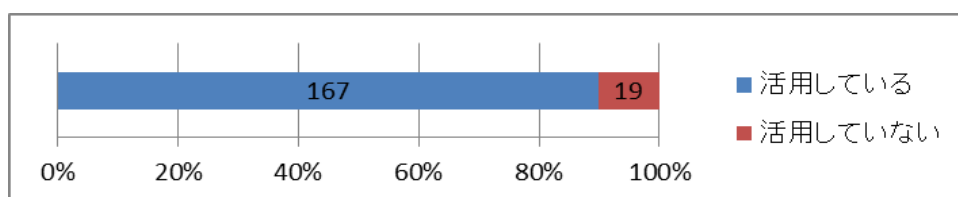
【東京開催】

研修会3ヶ月後に「活用している」と回答した方が87%、「活用していない」と回答した方が13%となっている。



【大阪開催】

研修会3ヶ月後に「活用している」と回答した方が89%、「活用していない」と回答した方が11%となっている。



3. 保育所初任保育所長（就任予定者）研修会

（1）目的

- ・保育所の所長として、保育所保育指針を理解し、乳幼児期の発達過程や保育の内容、保育の計画、健康及び安全、保護者支援、施設長の責務など各章に規定される保育の内容に係る基本原則に関する事項を踏まえ、各保育所の実情に応じて創意工夫を図り、保育所の機能及び質の向上に努める。・最新の保育の動向や関係法令等を学び、保育所の社会的な役割や保育原理を踏まえ、保育所の適正な運営・体制づくりについて考察する。

（2）対象（以下の条件のすべてに該当する方）

- ①保育士資格を有していない方
- ②保育所（認可）での所長経験がない方
- ③本年度または来年度中に保育所長に就任する予定の方
- ④保育所初任保育所長研修会の受講を希望している方

【保育所初任保育所長（就任予定者）研修会を受講される際の留意事項】

- ・保育士資格を有していない方で、かつ保育所（認可）での所長経験がない方が「保育所初任保育所長研修会」の受講をするためには、「保育所初任保育所長（就任予定者）研修会」の受講が必要です。
- ・平成25年4月1日以降に保育所長に就任された方で、かつ保育士資格を有していない方が「保育所初任保育所長研修会」の受講をするためには、「保育所初任保育所長（就任予定者）研修会」の受講が必要です（移行措置）。

（3）定員・研修日程・場所

定員	研修日程	研修会場	所在地
400名	平成25年7月3日（水）～5日（金）	御茶ノ水ソラシティ	東京都千代田区駿河台4-6

（4）研修内容

研修科目	研修内容	方法・時間	講師名
1. 保育制度の動向	・保育制度の現状と展望 ・子ども・子育て3法と保育所	講義 1時間30分	厚生労働省雇用均等・児童家庭局 保育課 課長 橋本泰宏
2. 保育所の社会的役割	・保育所の社会的役割 ・保育所保育の原理	講義 2時間	白梅学園大学 学長 汐見稔幸
3. 保育所保育指針の理解～総則～	・保育所保育指針の理解 ・総則を中心とした各章のポイント	講義 1時間30分	日本女子体育大学 准教授 天野珠路
4. 子どもの発達と保育の内容	・保育所保育指針第2章の理解 ・保育所保育指針第3章の理解 ・保育所の保育実践	講義・討議 1時間30分	東京成徳短期大学 教授 寺田清美
5. 保育の計画及び評価	・保育所保育指針第4章の理解 ・保育所及び保育士等の自己評価	講義・討議 3時間	東京家政大学 教授 増田まゆみ
6. 保育所における健康・安全	・保育所保育指針第5章の理解 ・子どもの健康及び安全に関するガイドラインの理解	講義 1時間30分	全国保育園保健師看護師連絡会 看護師 高橋良子
7. 保育所の保護者支援	・保育所保育指針第6章の理解 ・保育相談支援の実践	講義 1時間30分	まちの保育園六本木 園長 岩井久美子
8. 保育所における施設長の役割	・保育所保育指針第7章の理解 ・施設長の役割と責務 ・保育の質及び職員の資質の向上	講義・討議 3時間	仁愛大学 教授 西村重稀

(5) 受講者の内訳

受講者数(申込者数)		371名(441名)	現職	保育士	3(0.8%)	
年齢	平均年齢(標準偏差)	49.9歳(11.3)		リーダー	0(0.0%)	
	範囲	23～75歳		主任	8(2.2%)	
性別	男性	232(62.7%)		副所長	77(21.0%)	
	女性	138(37.3%)		所長	158(43.0%)	
運営主体	公営	13(3.5%)		事務職員	67(18.3%)	
	民営	355(96.5%)		その他	54(14.7%)	
				所長経験年数	平均年数(標準偏差)	0.1年(0.3)
					範囲	0～3年

(6) 事前レポート・事後レポート

①事前レポート

研修会の一環として、保育所保育をより深く理解することを目的に、受講者全員に対して課題を出し、事前レポートを提出いただいた。

課題テーマは、保育所保育指針を一読した上で、保育所保育指針の第1章から第7章の中から、ご自身が「一番学びたい章」を選択し、その章を「選んだ理由」及び「学びたい内容」となっており、原稿用紙400字以内にまとめていただいた。

①事後レポート

研修会の一環として、受講者全員に対して課題を出し、事後レポートを提出いただいた。

課題テーマは、「ご自身で考える保育所長観」となっており、ご自身が目指す保育所長像について、研修会を通して学んだ保育所保育の内容や新たな視点・気づきから、原稿用紙400字以内にまとめていただいた。

(7) 研修活用調査の結果

調査の実施については、研修会直後と研修会の3ヶ月後に実施した調査結果となっている。研修会直後調査では、受講者数371名のうち、365名(98.4%)から調査票を回収した。また、3ヶ月後調査では、295名(79.5%)から調査票を回収した。

①各講義の理解度・活用度の単純平均値・標準偏差について

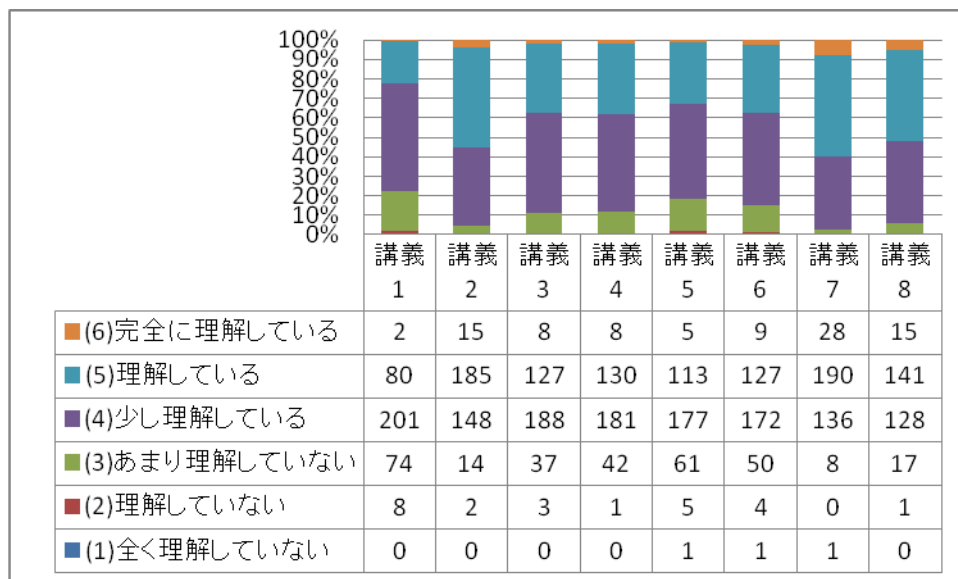
理解度は、(1)全く理解していない・(2)理解していない、(3)あまり理解していない、(4)少し理解している、(5)理解している、(6)完全に理解している、の6段階の評価となっている。

活用度は、(1)活用しない、(2)あまり活用しない、(3)少し活用する、(4)大いに活用する、の4段階の評価となっている。

研修科目	研修内容	理解度		活用度	
		講義後 (標準偏差)	3ヶ月後 (標準偏差)	講義後 (標準偏差)	3ヶ月後 (標準偏差)
講義1 保育制度の動向	保育制度の現状と展望	4.0 (0.7)	4.5 (0.6)	3.1 (0.7)	4.0 (0.9)
	子ども・子育て3法と保育所		4.3 (0.7)		3.9 (0.9)
講義2 保育所の社会的役割	保育所の社会的役割	4.5 (0.7)	4.8 (0.5)	3.6 (0.5)	4.4 (0.8)
	保育所保育の原理		4.6 (0.6)		4.2 (0.8)
講義3 保育所保育指針の理解～総則～	保育所保育指針の理解	4.3 (0.7)	4.6 (0.6)	3.4 (0.6)	4.3 (0.8)
	総則を中心とした各章のポイント		4.4 (0.6)		4.2 (0.8)
講義4 子どもの発達と保育内容	保育所保育指針第2章の理解	4.3 (0.7)	4.4 (0.6)	3.4 (0.6)	4.1 (0.8)
	保育所保育指針第3章の理解		4.4 (0.6)		4.2 (0.8)
	保育所の保育実践		4.4 (0.6)		4.2 (0.8)
講義5 保育の計画及び評価	保育所保育指針第4章の理解	4.1 (0.8)	4.4 (0.7)	3.4 (0.7)	4.1 (0.8)
	保育所及び保育士等の自己評価		4.4 (0.7)		4.1 (0.9)
講義6 保育所における健康・安全	保育所保育指針第5章の理解	4.2 (0.8)	4.5 (0.7)	3.5 (0.7)	4.2 (0.8)
	子どもの健康及び安全に関するガイドラインの理解		4.5 (0.7)		4.4 (0.9)
講義7 保育所の保護者支援	保育所保育指針第6章の理解	4.6 (0.7)	4.5 (0.6)	3.6 (0.5)	4.2 (0.8)
	保育相談支援の実践		4.4 (0.7)		4.2 (0.9)
講義8 保育所における施設長の責務	保育所保育指針第7章の理解	4.5 (0.7)	4.6 (0.6)	3.4 (0.6)	4.3 (0.8)
	施設長の役割と責務		4.8 (0.5)		4.5 (0.9)
	保育の質及び職員の資質の向上		4.8 (0.6)		4.5 (0.8)

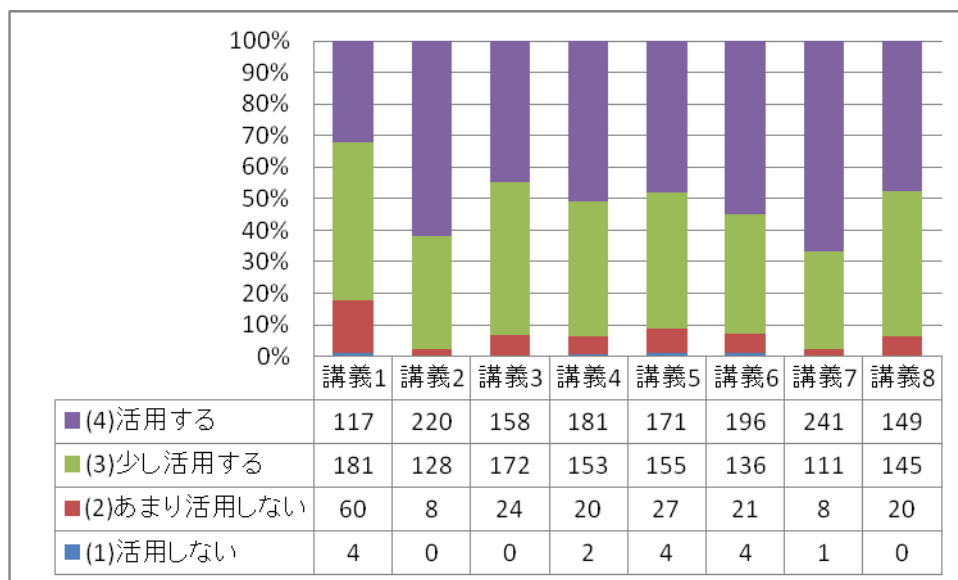
②各講義の受講後の理解度について

講義 1,5 については、約 20%の方が「あまり理解していない」と回答しているが、講義 1,5 以外については、「完全に理解している」「理解している」「少し理解している」の回答が 85%を超えている。



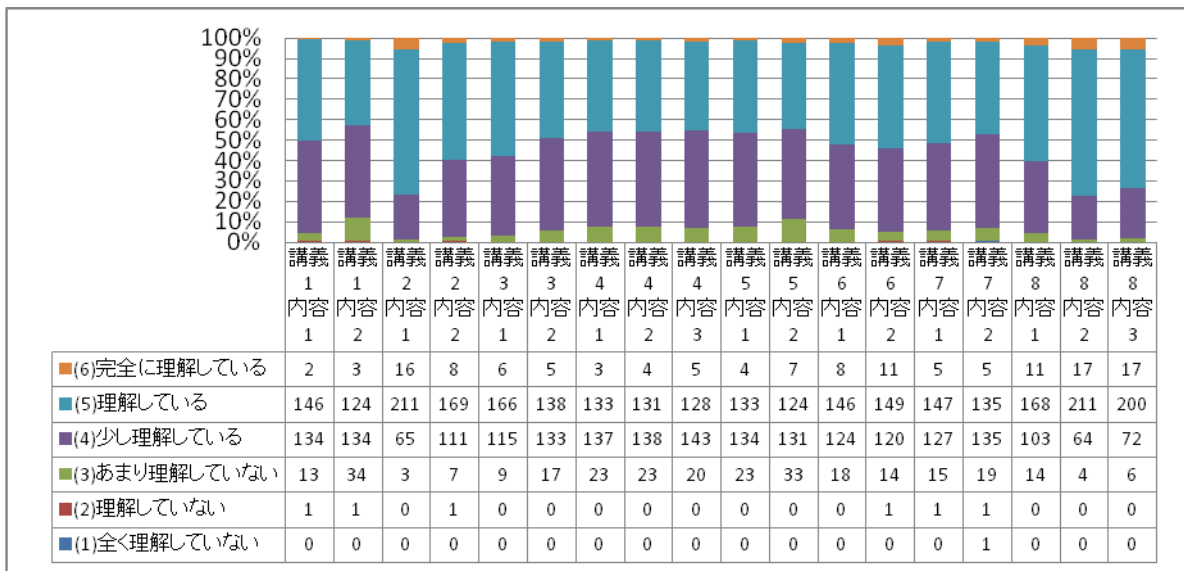
③各講義の受講後の活用度について

講義 2～8 については、「活用する」「少し活用する」の回答が 90%以上となっている。一方で、講義 1 については、20%近くの方が「あまり活用しない」「活用しない」と回答した。保育制度の講義であったため、行動として活用しにくい側面があると推測される。



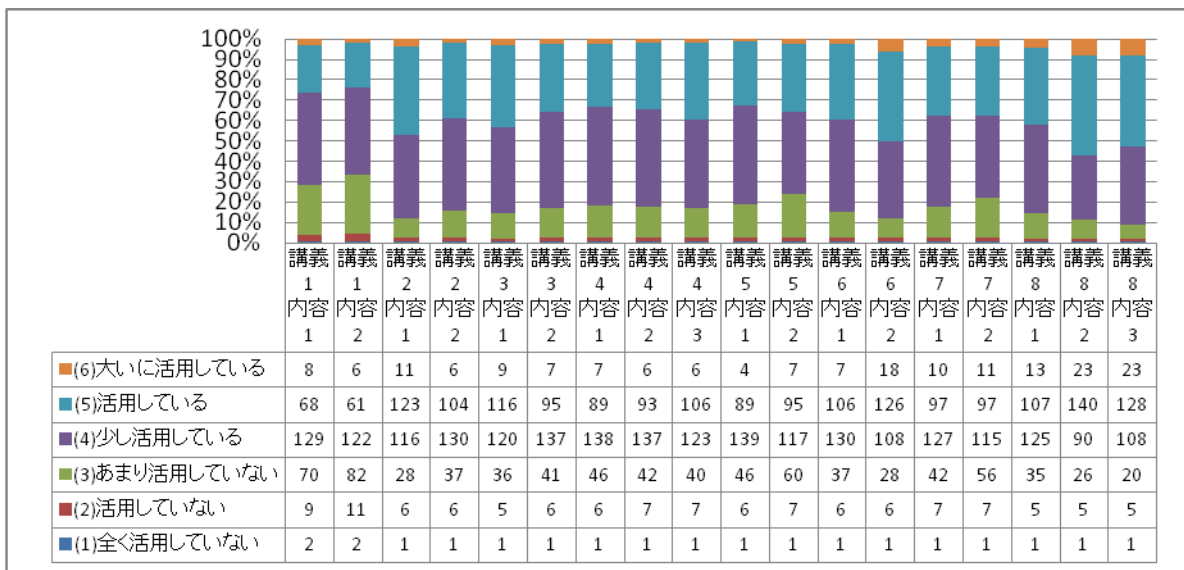
④研修会の3ヶ月後の各講義の理解度について

3 か月後の調査では、各講義の内容ごとに理解度を示している。結果としては、各講義の内容ごとに多少の違いはあるが、「完全に理解している」「理解している」「少し理解している」の回答が 90%以上となっている。



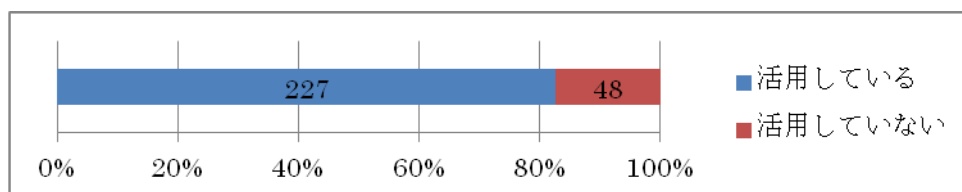
⑤研修会の3ヶ月後の各講義の活用度について

3 か月後の調査では、各講義の内容ごとに活用度を示している。結果としては、各講義の内容ごとに多少の違いはあるが、講義 2～8 では、「大いに活用している」「活用している」「少し活用している」の回答が80%以上となっている。講義 1 では、約 20～25%の方が「あまり活用していない」と回答している。



⑥研修会の3ヶ月後、全体を通して学んだことを保育所運営・実践に活用しているか。

研修会3ヶ月後に「活用している」と回答した方が83%、「活用していない」と回答した方が17%となっている。



4. 保育所乳児保育担当者研修会

(1) 目的

- ・乳児保育の社会的な役割と子どもの心身の発達を保障する乳児保育について理解し、保育所及び保育者としての役割を学ぶ。
- ・乳児の心身の発達や育ちを理解することで、保育に生かせる計画や記録につなげ、保護者との緊密な連携と支援を充分に行えるよう努める。
- ・乳児保育の環境構成について理解し、子どもの活動や遊びが豊かに展開するための手法を学ぶ。
- ・乳幼児期の保健に関する最新の知見及び対応について学び、保育所でのリスクマネジメントの充実を図る。

(2) 対象

- ①保育所の乳児保育担当の保育士 ②保育所の保育士並びに保育所職員

(3) 定員・研修日程・場所

定員	研修日程	研修会場	所在地
300名	平成25年6月5日(水)～7日(金)	御茶ノ水ソラシティ	東京都千代田区駿河台4-6
300名	平成25年6月19日(水)～21日(金)	千里阪急ホテル	大阪府豊中市新千里東町2-1

(4) 研修内容

研修科目	研修内容	方法・時間	講師名
1.乳児保育の意義	・乳児保育の意義と社会的役割 ・子どもの最善の利益	講義 3時間	【東京開催】 帝京大学 教授 清水 玲子 【大阪開催】 東京家政大学ナースリールーム 主任 井 桁 容子
2.乳幼児期の心の発達と保育者の役割	・乳幼児期の心の発達の理解 ・子どもの心の発達における保育者の役割	講義 3時間	お茶の水女子大学 准教授 青木 紀久代
3.保護者の支援と連携	・乳児保育における保護者との連携 ・乳児保育における保護者の支援	講義・討議 3時間	まちの保育園六本木 園長 岩井 久美子
4.乳児の育ちと記録	・乳児期の子どもの育ち ・乳児の個々の発達を踏まえた記録の作成	講義・討議 3時間	大阪総合保育大学・大学院 教授 大方 美香
5.乳児保育の環境構成と遊び	・乳児期における保育室の環境構成 ・乳児の遊びの意義と保育者のかかわり	講義・討議 3時間	東洋大学 准教授 高山 静子

(5) 受講者の内訳

		東京開催	大阪開催
受講者数(申込者数)		405名(516名)	367名(371名)
年齢	平均年齢(標準偏差)	33.7歳(10.3)	34.9歳(10.3)
	範囲	20～62歳	20～64歳
性別	男性	4(1.0%)	9(2.4%)
	女性	401(99.0%)	359(97.6%)
運営主体	公営	42(10.4%)	59(16.0%)
	民営	363(89.6%)	309(84.0%)
現職	保育士	279(69.2%)	250(67.9%)
	リーダー	79(19.6%)	71(19.3%)
	主任	32(7.9%)	32(8.7%)
	その他	13(3.2%)	15(4.1%)
乳児経験年数	平均年数(標準偏差)	3.6年(3.4)	4.年(3.9)
	範囲	0～20年	0～25年
保育士経験年数	平均年数(標準偏差)	9.6年(7.8)	11.1年(8.5)
	範囲	0～38年	0～42年

(6) 参考資料の活用

講義4「乳児の育ちと記録」

本講義の中で、乳児期の子どもの育ちを保障するために、各園がどのようなねらいや目標を立てて日々の保育実践を行っているかを情報共有し、新たな視点や気づきを得ることを目的として、グループワークによるディスカッションを行い、参考資料として、受講者が担当しているクラスの保育計画(月案・週案)のコピーを活用した。

※保育計画に記載の個人情報等については、十分に配慮するよう対応した。

(7) 研修活用調査の結果

調査の実施については、研修会の直後と3ヶ月後に実施した調査結果となっている。

東京開催分について、研修会直後調査では、受講者数405名のうち、403名(99.5%)から調査票を回収した。また、3ヶ月後調査では、304名(75.1%)の受講者から調査票を回収した。加えて、保育所長にも協力をお願いし、308名(76.0%)から調査票を回収した。

大阪開催分について、研修会直後調査では、受講者数367名のうち、361名(98.4%)から調査票を回収した。また、3ヶ月後調査では、257名(70.0%)の受講者から調査票を回収した。加えて、249名(67.8%)の保育所長から調査票を回収した。

①各講義の理解度・活用度の単純平均値・標準偏差について

理解度は、(1)全く理解していない・(2)理解していない、(3)あまり理解していない、(4)少し理解している、(5)理解している、(6)完全に理解している、の6段階の評価となっている。

活用度は、(1)全く活用しない、(2)活用しない、(3)あまり活用しない、(4)少し活用する、(5)活用する、(6)大いに活用する、の6段階の評価となっている。

【東京開催】

研修科目	研修内容	理解度		活用度		
		【受講者】 講義後 (標準偏差)	【受講者】 3ヶ月後 (標準偏差)	【受講者】 講義後 (標準偏差)	【受講者】 3ヶ月後 (標準偏差)	【所長】 3ヶ月後 (標準偏差)
講義1 乳児保育の意義	乳児保育の意義と社会的役割	4.4 (0.7)	4.7 (0.6)	4.5 (0.8)	4.1 (0.8)	4.5 (0.8)
	子どもの最善の利益		4.8 (0.6)		4.4 (0.8)	4.7 (0.8)
講義2 乳幼児期の心の発達と保育者の役割	乳幼児期の心の発達と理解	4.1 (0.8)	4.6 (0.7)	4.5 (0.9)	4.4 (0.8)	4.7 (0.8)
	子どもの心の発達における保育者の役割		4.7 (0.7)		4.5 (0.8)	4.7 (0.9)
講義3 保護者の支援と連携	乳児保育における保護者との連携	4.9 (0.5)	4.9 (0.5)	5.2 (0.6)	4.7 (0.8)	4.8 (0.8)
	乳児保育における保護者の支援		4.8 (0.6)		4.6 (0.8)	4.6 (0.9)
講義4 乳児の育ちと記録	乳児期の子どもの育ち	4.7 (0.6)	4.7 (0.6)	5.2 (0.7)	4.6 (0.8)	4.7 (0.8)
	乳児の個々の発達を踏まえた記録の作成		4.6 (0.7)		4.3 (1.0)	4.5 (1.0)
講義5 乳児保育の環境構成と遊び	乳児期における保育室の環境構成	5 (0.5)	4.8 (0.6)	5.3 (0.6)	4.6 (0.9)	4.6 (0.9)
	乳児の遊びの意義と保育者のかかわり		4.9 (0.5)		4.7 (0.8)	4.8 (0.8)

【大阪開催】

研修科目	研修内容	理解度		活用度		
		【受講者】 講義後 (標準偏差)	【受講者】 3ヶ月後 (標準偏差)	【受講者】 講義後 (標準偏差)	【受講者】 3ヶ月後 (標準偏差)	【所長】 3ヶ月後 (標準偏差)
講義1 乳児保育の意義	乳児保育の意義と社会的役割	4.9 (0.5)	4.7 (0.6)	5.2 (0.7)	4.4 (0.8)	4.5 (0.8)
	子どもの最善の利益		4.8 (0.6)		4.5 (0.8)	4.7 (0.8)
講義2 乳幼児期の心の発達と保育者の役割	乳幼児期の心の発達と理解	4.0 (0.5)	4.6 (0.6)	4.3 (0.7)	4.5 (0.7)	4.7 (0.8)
	子どもの心の発達における保育者の役割		4.7 (0.6)		4.5 (0.8)	4.8 (0.8)
講義3 保護者の支援と連携	乳児保育における保護者との連携	4.4 (0.6)	4.7 (0.6)	4.8 (0.7)	4.5 (0.8)	4.7 (0.8)
	乳児保育における保護者の支援		4.6 (0.6)		4.4 (0.7)	4.6 (0.8)

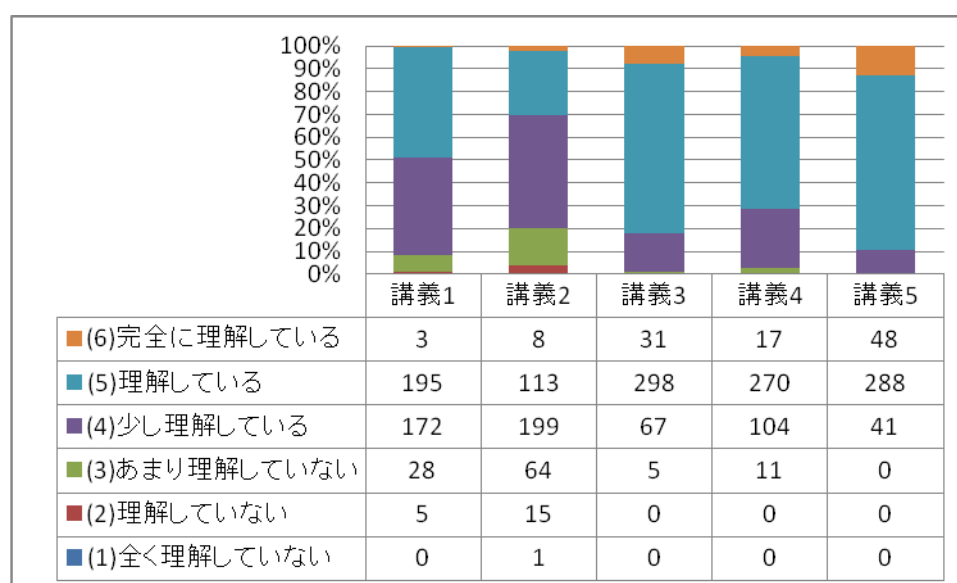
研修科目	研修内容	理解度		活用度		
		【受講者】 講義後 (標準偏差)	【受講者】 3ヶ月後 (標準偏差)	【受講者】 講義後 (標準偏差)	【受講者】 3ヶ月後 (標準偏差)	【所長】 3ヶ月後 (標準偏差)
講義4 乳児の育ちと記録	乳児期の子どもの育ち	4.8 (0.7)	4.7 (0.6)	5.1 (0.9)	4.5 (0.8)	4.7 (0.8)
	乳児の個々の発達を踏まえた記録の作成		4.5 (0.7)		4.2 (0.9)	4.5 (0.9)
講義5 乳児保育の環境構成と遊び	乳児期における保育室の環境構成	4.9 (0.6)	4.8 (0.6)	5.2 (0.7)	4.5 (0.9)	4.6 (0.9)
	乳児の遊びの意義と保育者のかかわり		4.8 (0.6)		4.7 (0.7)	4.8 (0.8)

②各講義の受講後の理解度について

【東京開催】

理解している側の尺度にばらつきがあるが、全ての講義において、理解している側の回答が85%を超えているが、特に講義3～5については、97%以上で理解している側の回答があった。

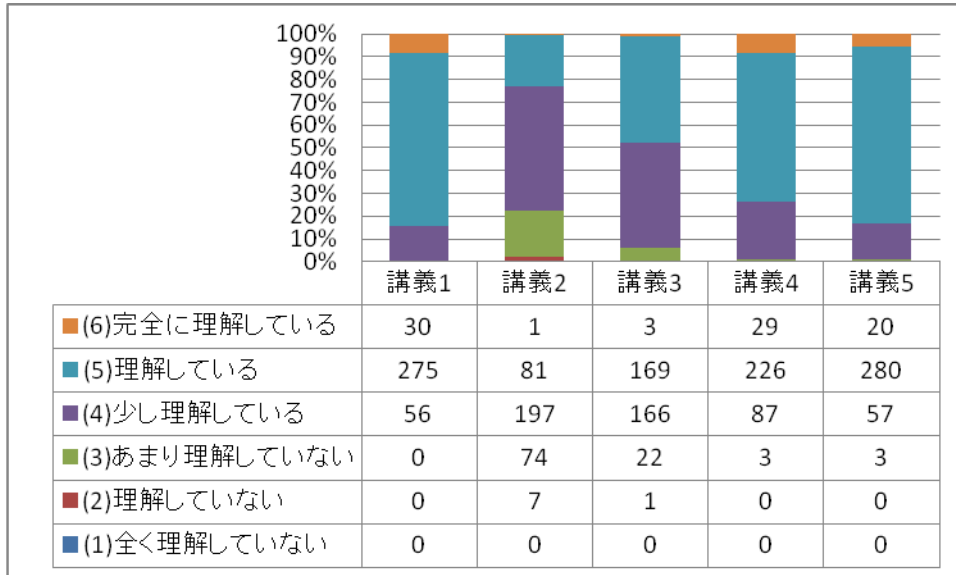
全体的に高評価である一方で、講義1は、「理解している」と「少し理解している」が同程度の割合となっている。また、講義2は、「理解している」よりも「少し理解している」の割合が高く、「あまり理解していない」「理解していない」が20%となっている。



【大阪開催】

理解している側の尺度にばらつきがあるが、全ての講義において、理解している側の回答が 80%を超えている。特に講義 1,4,5 については、99%以上で理解している側の回答があった。

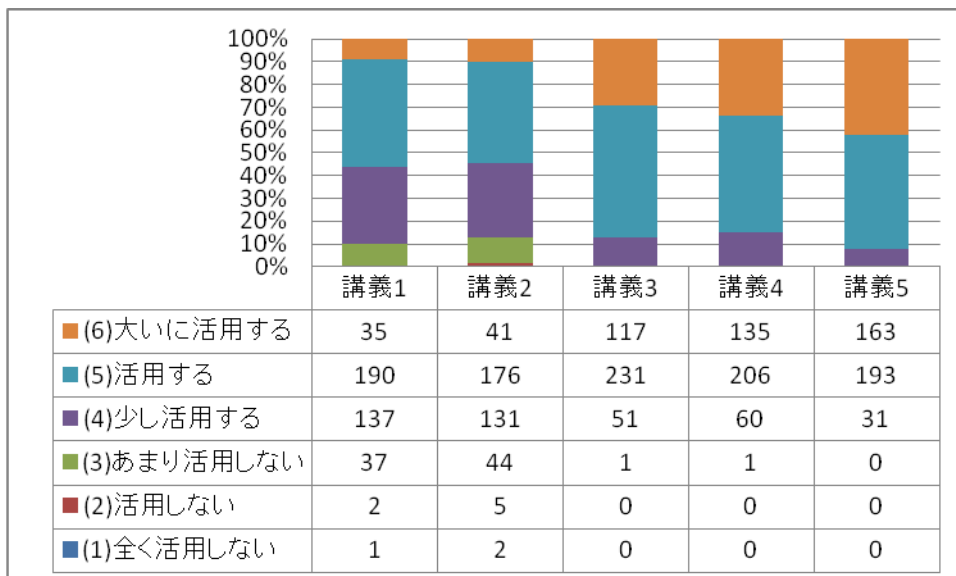
全体的に高評価である一方で、講義 2 は、「理解している」よりも「少し理解している」と回答する方が 2倍以上となっており、「あまり理解していない」「理解していない」が 20%を超えている。



③各講義の受講後の活用度について

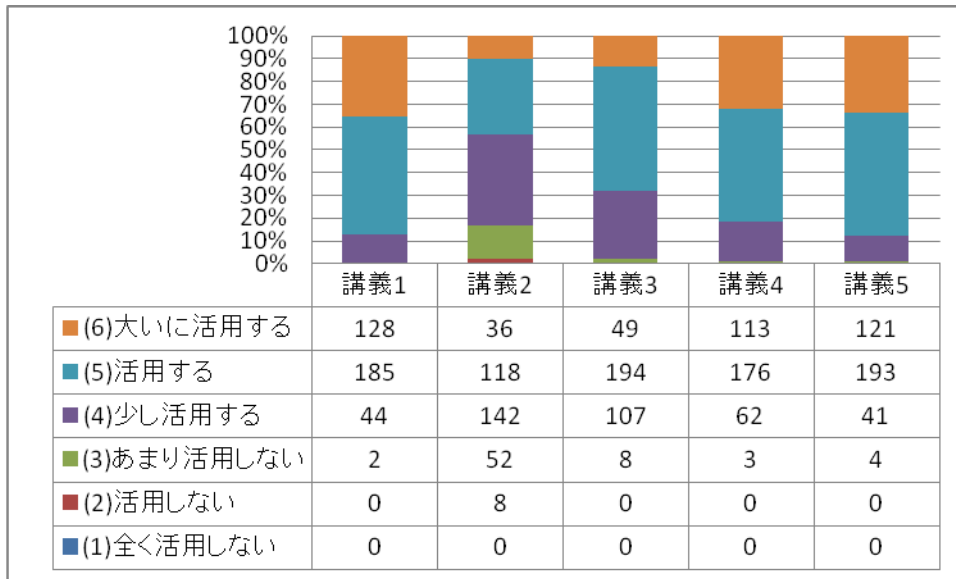
【東京開催】

全ての講義において、活用する側の回答が 85%を超えているが、特に講義 3~5 については、99%以上で活用する側の回答があった。一方で、講義 1,2 については、全体的に高評価であるが「少し活用する」の回答の割合が他の講義よりも比較的多くあった。



【大坂開催】

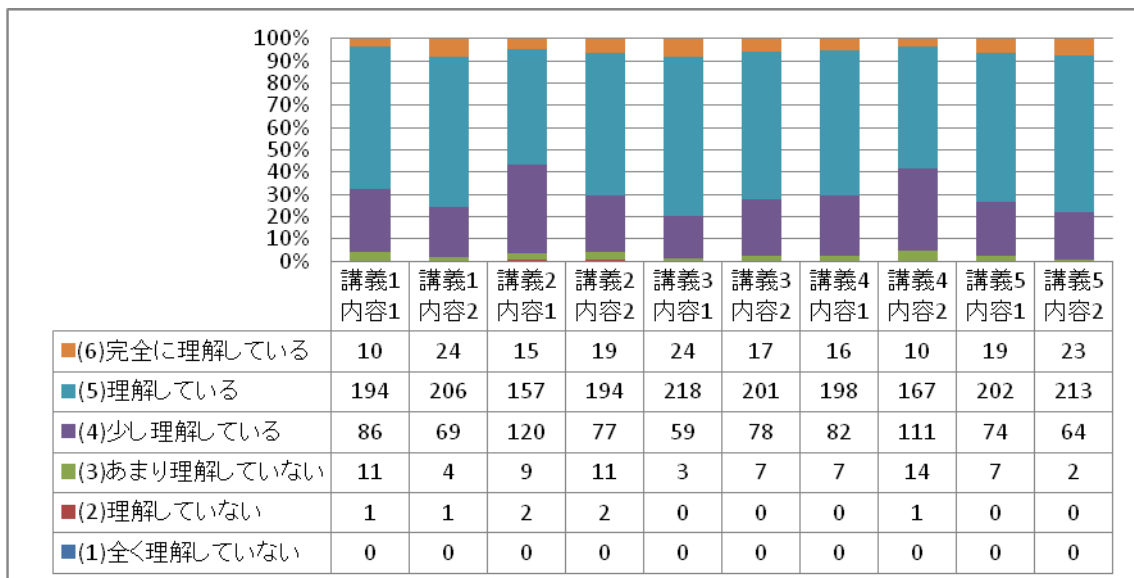
全ての講義において、活用する側の回答が 80%を超えているが、特に講義 1,3~5 については、97%以上で活用する側の回答があった。一方で、講義 2 については、全体的に高評価であるが「少し活用する」の回答の割合が他の講義よりも比較的多く、活用しない側の回答が 17%あった。



④研修会の3ヶ月後の各講義の理解度について

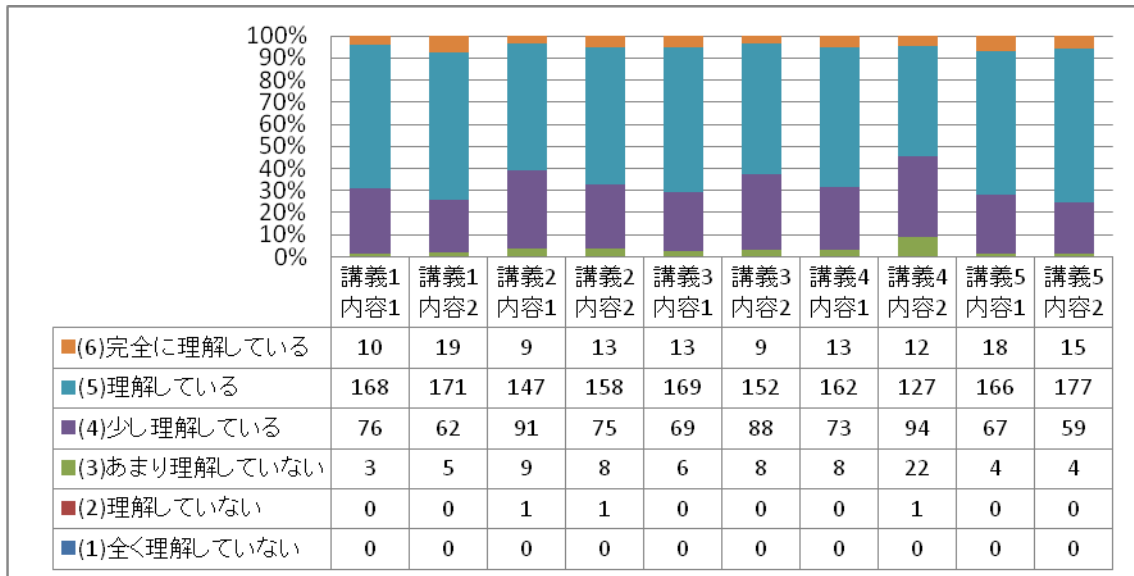
【東京開催】

3 か月後の調査では、各講義の内容ごとに理解度を示している。結果としては、「完全に理解している」「理解している」「少し理解している」の回答が95%以上となっている。研修会直後には、講義1,2の理念・知識の内容と講義3~5の保育実践の理解度に差があったが、3ヶ月後になると、理解度に差がなくなっている。意義・専門知識の内容は、講義直後に理解できていなくても、保育園に戻り、保育をする中で、理解度が高まったと考えられる。



【大阪開催】

3 か月後の調査では、各講義の内容ごとに理解度を示している。結果としては、全ての講義内容において、「完全に理解している」「理解している」「少し理解している」の回答が 90%以上となっている。研修会直後には、講義 2 の専門知識の内容と講義 3～5 の保育実践の理解度に差があったが、3 ヶ月後になると、理解度に差がなくなっている。専門知識の内容は、講義直後に理解できていなくても、保育園に戻り、保育をする中で、理解度が高まったと考えられる。

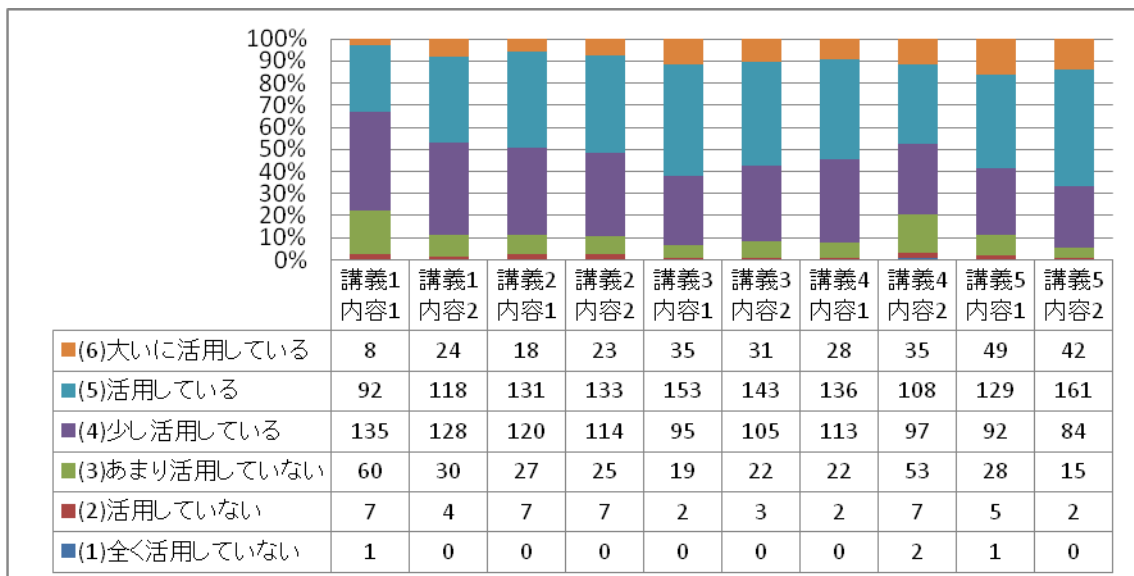


⑤研修会の3ヶ月後の各講義の活用度について

【東京開催】

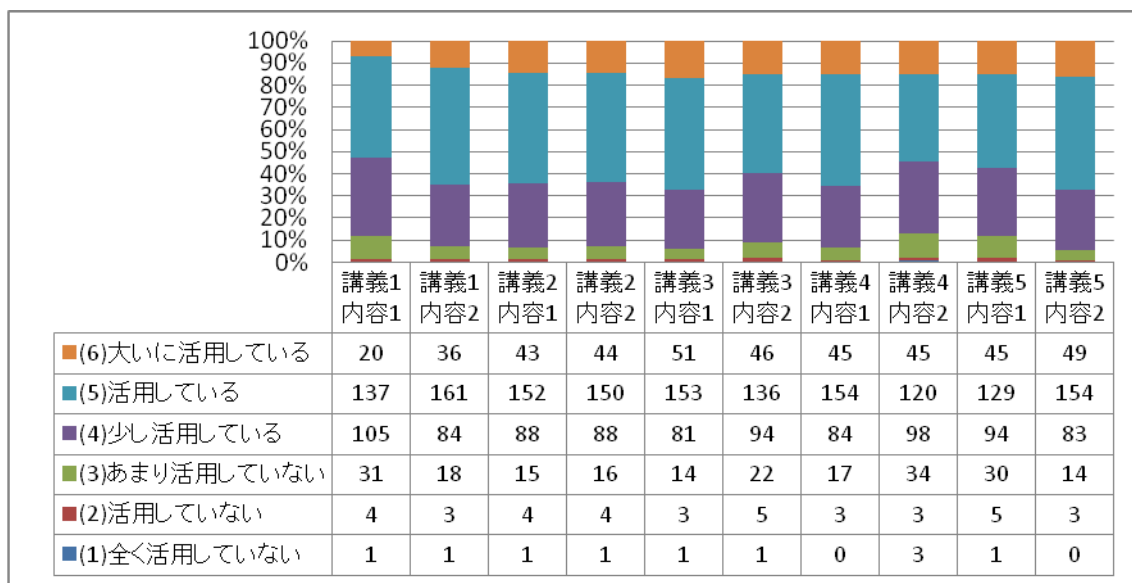
(受講者)

3 か月後の調査では、各講義の内容ごとに活用度を示している。結果としては、全ての講義内容において、「大いに活用している」「活用している」「少し活用している」の回答が 80%以上となっている。研修会直後には、講義 3～5 の保育実践の内容に対して、活用する側に 99%の回答があったが、「あまり活用していない」と回答の方が約 5%に増えている。保育実践の内容について、ごく少数の回答ではあるが、講義後に活用するつもりで保育現場に戻り、3 ヶ月間の保育の中で活用できない状況がある。



(保育所長)

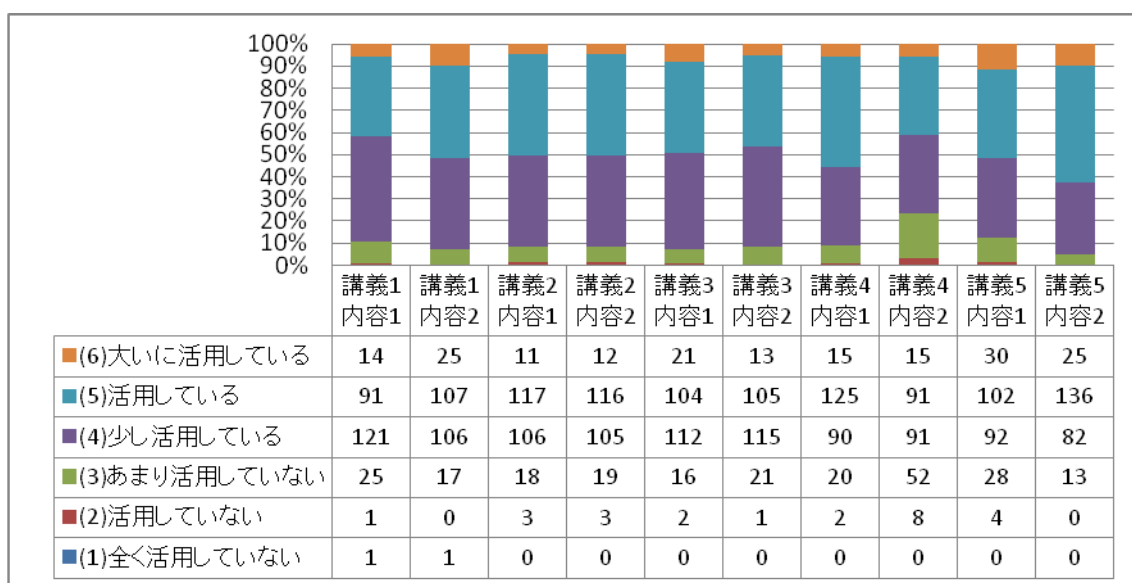
全ての講義内容に対して、活用している側の回答が受講者の回答よりも多くあり、活用していない側の回答は少なくなっている。受講者自身の自己評価よりも、保育所長の方が高い回答となっている。



【大阪開催】

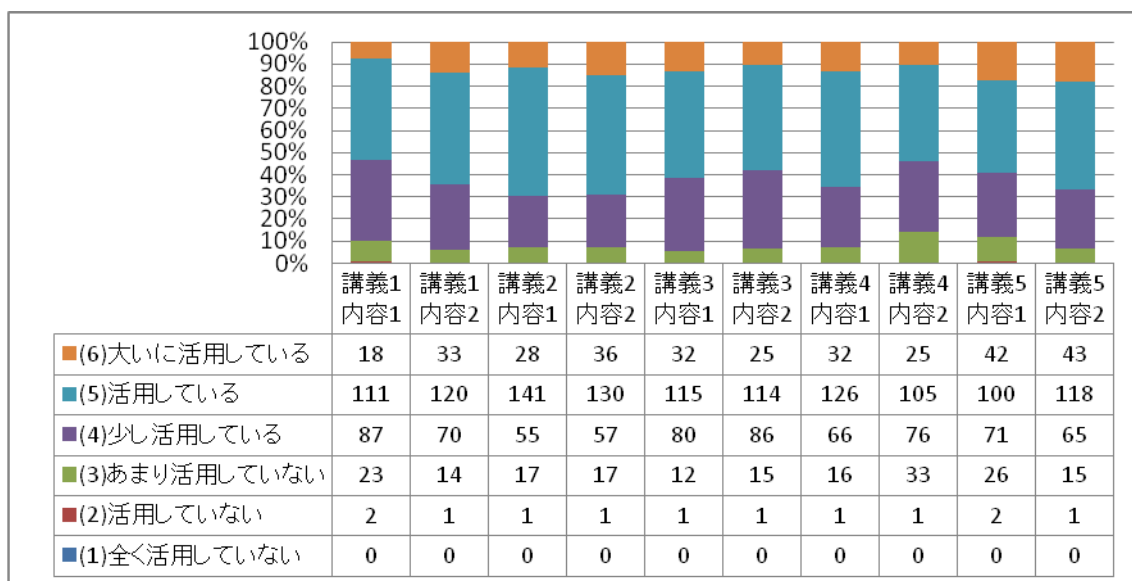
(受講者)

3 か月後の調査では、各講義の内容ごとに活用度を示している。結果としては、ほとんどの講義内容において、「大いに活用している」「活用している」「少し活用している」の回答が 85%以上となっている。研修会直後には、講義 1,3～5 の保育実践の内容に対して、活用する側に 97%の回答があったが、「あまり活用していない」と回答の方が 5%以上に増えている。特に、講義 4 の内容 2 については、約 20%が「あまり活用していない」と回答している。計画・記録に関する内容であったため、受講者が活用できると考えても、組織としての活用には至らなかったケースが考えられる。



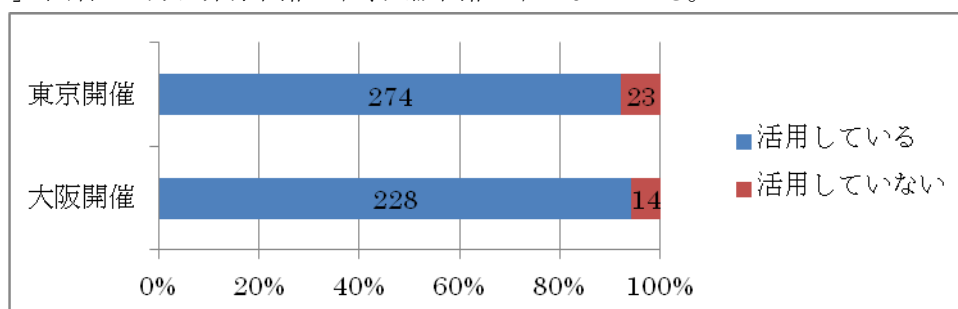
(保育所長)

東京開催と違い、全ての講義内容に対して、受講者の回答とほぼ変わらない回答であった。



⑥研修会の3ヶ月後、全体を通して学んだことを保育所運営・実践に活用しているか。

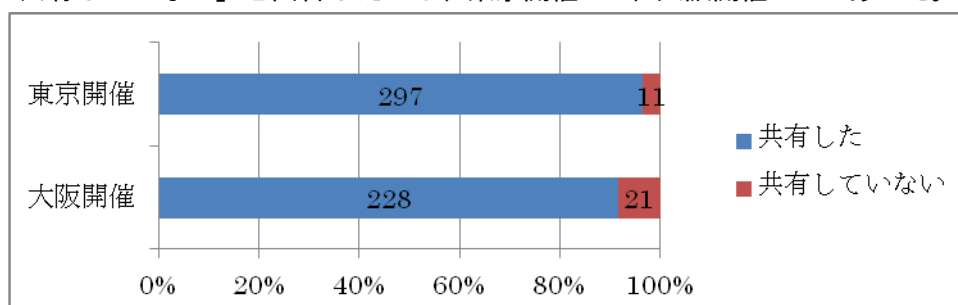
研修会3ヶ月後に「活用している」と回答した方は、東京開催 92%、大阪開催 94%となっており、「活用していない」と回答した方は東京開催 8%、大阪開催 6%となっている。



⑦研修会の3ヶ月後、研修会で学んだ講義・内容を保育所内で共有したか。

1) 保育所内での研修内容の共有について

保育所内での研修内容の共有について、「共有した」と回答したのは、東京開催 96%、大阪開催 92%、「共有していない」と回答したのは、東京開催 4%、大阪開催 8%であった。

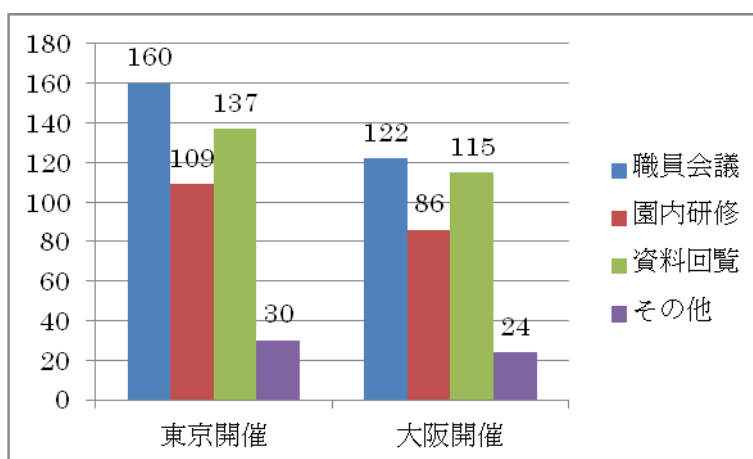


「共有していない」理由については、下記の通りとなっている。理由は様々であるが、「時間が取れない」という回答が一番多くあった。次いで、乳児保育担当者向けのテーマであったことから、全員に共有していないが、乳児クラスや担当クラスで共有しているという回答であった。1件ではあったが、3日間の研修会を受講した方が3ヶ月後に退職しているという回答があった。

理由	個数
日常保育や行事等があり、時間が取れないため	10
全員には共有できていないため	7
今後に共有する予定	4
外部研修会が多く、時間が持てないため	3
受講した職員が共有する機会を設けなかったため	2
受講した職員が傷病で長期欠勤し、報告が延期になっているため。	1
受講した職員が退職したため	1
無記入	4

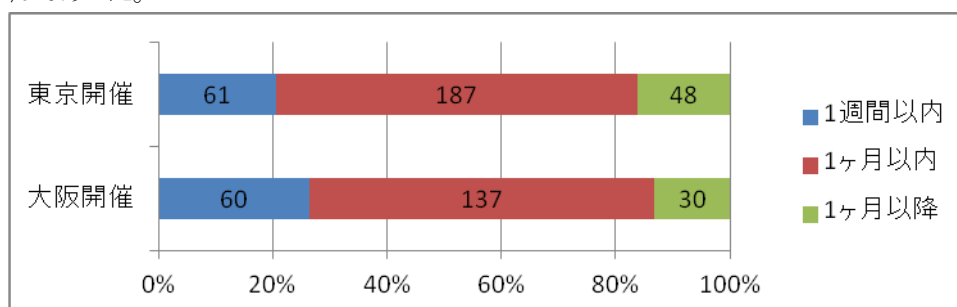
2) 共有の方法について（複数回答可） ※上記で「共有した」と回答の方

いずれの開催においても、「職員会議」約 50%、「園内研修」約 35%、「資料回覧」約 45%という回答があった。「その他」約 10%の回答があったが、「研修報告書の回覧や会議報告」「市の研修会での発表」「担当クラス会議」「乳児クラス会議」などが挙げられた。



3) 共有の時期について（※1）で「共有した」と回答の方

共有時期について、「1週間以内」と回答したのは、東京開催 21%、大阪開催 27%となり、「1ヶ月以内」と回答したのは、東京開催 63%、大阪開催 60%となり、「1ヶ月以降」と回答したのは、東京開催 16%、大阪開催 13%であった。



5. 保育所障害児保育担当者研修会

(1) 目的

- ・最新の障害児・者福祉の制度と現状を理解し、新しく求められる保育所での対応について学ぶ。
- ・保育所での実践を通して、障害のある子どもの保育の意義について学び、家庭や関係機関と連携した支援のための適切な対応について理解する。
- ・子どもの発達や発達障害の最新の知見について理解する。
- ・障害のある子どもを支えるため、特別支援教育の現状と課題を理解し、保育所児童保育要録や就学支援シートを活用した小学校との連携と対応について学ぶ。
- ・障害を持つ子どもと保護者への理解を深め、緊密な連携を図り必要な保育が行えるよう、支援の方法について考察する。

(2) 対象

- ①保育所の障害児保育担当の保育士 ②保育所の保育士並びに保育所職員

(3) 定員・研修日程・場所

定員	研修日程	研修会場	所在地
300名	平成25年11月6日(水)～8日(金)	御茶ノ水ソラシティ	東京都千代田区駿河台4-6
300名	平成25年11月20日(水)～22日(金)	千里阪急ホテル	大阪府豊中市新千里東町2-1

(4) 研修内容

研修科目	研修内容	方法・時間	講師名
1.障害児・者福祉の理解	・障害児・者をとりまく制度の動向	講義 1時間30分	厚生労働省 社会・援護局 障害福祉課 障害児支援専門官 【東京開催】 田中真衣 【大阪開催】 大西延英
2.障害のある子どもの保育の意義	・障害のある子どもの保育の意義 ・障害のある子どもの保育実践	講義 1時間30分	社会福祉法人嬉泉 常務理事 社会福祉法人日本保育協会 理事長 石井哲夫
3.障害のある子どもの理解と対応	・障害の特性の理解と対応 ・発達障害に関する動向の理解	講義 3時間	横浜市総合リハビリテーションセンター 副センター長／横浜市北部 地域療育センター センター長 清水康夫
4.障害のある子どもを支える保小連携	・障害のある子どもを支える小学校との連携 ・発達の連続性を踏まえた保育要録	講義・討議 3時間	明星大学 准教授 森下由規子
5.障害のある子どもの保育実践と体制づくり	・障害のある子どもの保育実践 ・保育所職員及び関係機関との連携 ・保育所における特別支援の体制づくり	講義 3時間	東京都立小児総合医療センター 子ども家族支援部門 育成科 主任技術員 藤原里美

研修科目	研修内容	方法・時間	講師名
6.保護者の理解と支援	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある子どもの保護者の理解 ・障害のある子どもの保護者の支援 	講義 3時間	【東京開催】 NPO 法人 えじそんくらぶ 長野 Child-Dream 代表 阿部 優美子 【大阪開催】 NPO 法人 えじそんくらぶ 代表 高山 恵子

(5) 受講者の内訳

		東京開催	大阪開催
受講者数(申込者数)		288名(299名)	204名(207名)
年齢	平均年齢(標準偏差)	36.3歳(10.1)	37.3歳(11.0)
	範囲	21～64歳	20～73歳
性別	男性	22(7.6%)	18(8.8%)
	女性	269(92.4%)	186(91.2%)
運営主体	公営	66(22.8%)	75(36.8%)
	民営	224(77.2%)	129(63.2%)
現職	保育士	190(65.3%)	127(62.6%)
	リーダー	29(10.0%)	21(10.3%)
	主任	39(13.4%)	34(16.7%)
	副所長	8(2.7%)	10(4.9%)
	所長	9(3.1%)	7(3.4%)
	看護師・保健師	1(0.3%)	1(0.5%)
	その他	14(4.8%)	2(1.0%)
障害児保育経験年数	平均年数(標準偏差)	2.9年(3.4)	3.5年(4.1)
	範囲	0～25年	0～25年
保育士経験年数	平均年数(標準偏差)	11.9年(8.8)	13.7年(10.0)
	範囲	0～35年	0～45年

(6) 事前レポート

研修会の一環として、日々の保育実践の振り返りや課題の整理、研修会の学びを深めることを目的に、受講者全員に対して課題を出し、事前レポートを提出いただいた。

課題テーマは、研修6科目の中から、受講者が「今、一番学びたい科目」を選び、その科目を「選んだ理由」となっており、原稿用紙400字以内にまとめていただいた。

(7) 研修活用調査の結果

調査の実施については、研修会の直後と3ヶ月後に実施した調査結果となっている。

東京開催分について、研修会直後調査では、受講者数288名のうち、275名(95.5%)から調査票を回収し

た。また、3ヶ月後調査では、216名(75%)の受講者から調査票を回収した。加えて、保育所長にも協力をお願いし、210名(73.0%)から調査票を回収した。

大阪開催分について、研修会直後調査では、受講者数204名のうち、202名(99.0%)から調査票を回収した。また、3ヶ月後調査では、156名(76%)の受講者から調査票を回収した。加えて、147名(72%)の保育所長から調査票を回収した。

①各講義の理解度・活用度の単純平均値・標準偏差について

理解度は、(1)全く理解していない・(2)理解していない、(3)あまり理解していない、(4)少し理解している、(5)理解している、(6)完全に理解している、の6段階の評価となっている。

活用度について、研修会直後は、(1)活用しない、(2)あまり活用しない、(3)少し活用する、(4)大いに活用する、の4段階の評価となっているが、3ヶ月後では、(1)全く活用しない、(2)活用しない、(3)あまり活用しない、(4)少し活用する、(5)活用する、(6)大いに活用する、の6段階の評価となっている。

【東京開催】

研修科目	研修内容	理解度		活用度		
		【受講者】 講義後 (標準偏差)	【受講者】 3ヶ月後 (標準偏差)	【受講者】 講義後 (標準偏差)	【受講者】 3ヶ月後 (標準偏差)	【所長】 3ヶ月後 (標準偏差)
講義1 障害児・者福祉の理解	障害児・者をとりまく制度の動向	3.7 (0.7)	3.9 (0.7)	2.7 (0.6)	3.2 (1.0)	3.9 (1.0)
講義2 障害のある子どもの保育の意義	障害のある子どもの保育の意義	4.5 (0.6)	4.6 (0.6)	3.6 (0.5)	4.2 (0.9)	4.7 (0.9)
	障害のある子どもの保育実践		4.6 (0.6)		4.4 (0.8)	4.7 (1.0)
講義3 障害のある子どもの理解と対応	障害の特性の理解と対応	4.6 (0.6)	4.6 (0.6)	3.7 (0.5)	4.5 (0.7)	4.8 (0.8)
	発達障害に関する動向の理解		4.4 (0.6)		4.2 (0.8)	4.5 (1.0)
講義4 障害のある子どもを支える小学校との連携 障害のある子どもを支える保小連携	障害のある子どもを支える小学校との連携	4.7 (0.6)	4.4 (0.7)	3.8 (0.4)	3.9 (1.1)	4 (1.2)
	発達の連続性を踏まえた保育要録		4.3 (0.7)		4.0 (1.0)	4.1 (1.2)
講義5 障害のある子どもの保育実践と体制づくり	障害のある子どもの保育実践	4.8 (0.6)	4.6 (0.6)	3.8 (0.4)	4.6 (0.8)	4.8 (0.9)
	保育所職員及び関係機関との連携		4.5 (0.6)		4.2 (0.9)	4.5 (1.0)
	保育所における特別支援の体制づくり		4.4(0.7)		4.0(1.0)	4.1(1.1)

講義 6 保護者の理解と対応	障害のある子どもの 保護者の理解	4.9 (0.7)	4.7 (0.6)	3.8 (0.4)	4.5 (0.8)	4.7 (0.9)
	障害のある子どもの 保護者の支援		4.6 (0.6)		4.5 (0.8)	4.7 (0.9)

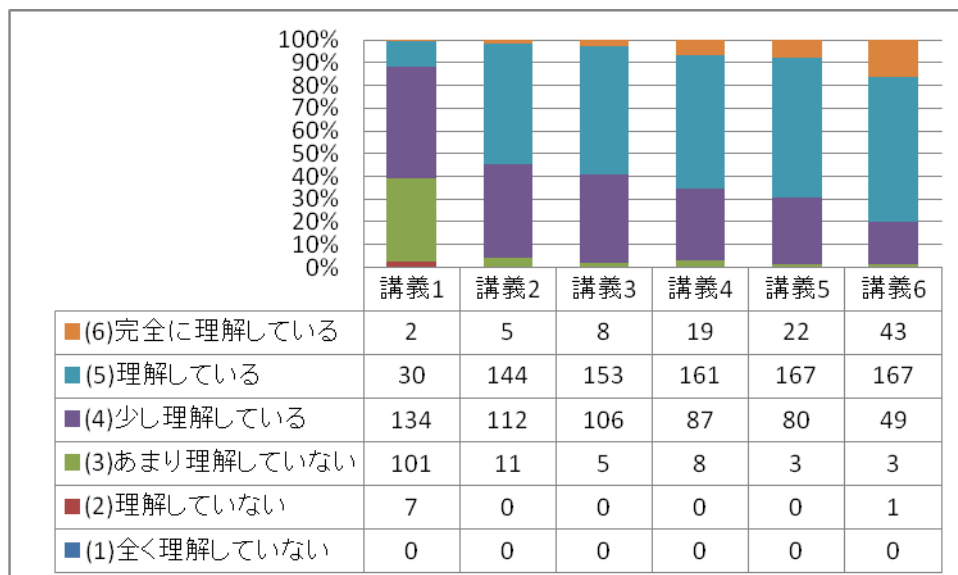
【大阪開催】

研修科目	研修内容	理解度		活用度		
		【受講者】 講義後 (標準偏差)	【受講者】 3ヶ月後 (標準偏差)	【受講者】 講義後 (標準偏差)	【受講者】 3ヶ月後 (標準偏差)	【所長】 3ヶ月後 (標準偏差)
講義 1 障害児・者福祉の理 解	障害児・者を取りまく 制度の動向	3.8 (0.8)	3.9 (0.7)	2.8 (0.7)	3.2 (1.0)	3.9 (1.0)
講義 2 障害のある子どもの 保育の意義	障害のある子どもの 保育の意義	4.6 (0.6)	4.6 (0.6)	3.5 (0.5)	4.2 (0.8)	4.6 (0.8)
	障害のある子どもの 保育実践		4.6 (0.6)		4.4 (0.8)	4.8 (0.8)
講義 3 障害のある子どもの 理解と対応	障害の特性の理解 と対応	4.7 (0.6)	4.6 (0.5)	3.7 (0.5)	4.5 (0.8)	4.8 (0.7)
	発達障害に関する 動向の理解		4.4 (0.7)		4.2 (1.0)	4.5 (0.9)
講義 4 障害のある子どもを支 える保小連携	障害のある子どもを 支える小学校との連 携	4.7 (0.6)	4.4 (0.7)	3.8 (0.5)	4 (1.1)	4.1 (1.2)
	発達の連続性を踏 まえた保育要録		4.3 (0.7)		4 (1.2)	4.1 (1.1)
講義 5 障害のある子どもの 保育実践と体制づくり	障害のある子どもの 保育実践	4.8 (0.5)	4.6 (0.6)	3.8 (0.3)	4.6 (0.8)	4.8 (0.9)
	保育所職員及び関 係機関との連携		4.4 (0.6)		4.3 (0.9)	4.6 (0.9)
	保育所における特 別支援の体制づくり		4.4 (0.7)		4.1 (0.9)	4.4 (0.9)
講義 6 保護者の理解と対応	障害のある子どもの 保護者の理解	4.8 (0.5)	4.6 (0.5)	3.9 (0.5)	4.6 (0.7)	4.7 (0.8)
	障害のある子どもの 保護者の支援		4.6 (0.6)		4.5 (0.7)	4.7 (0.8)

②各講義の受講後の理解度について

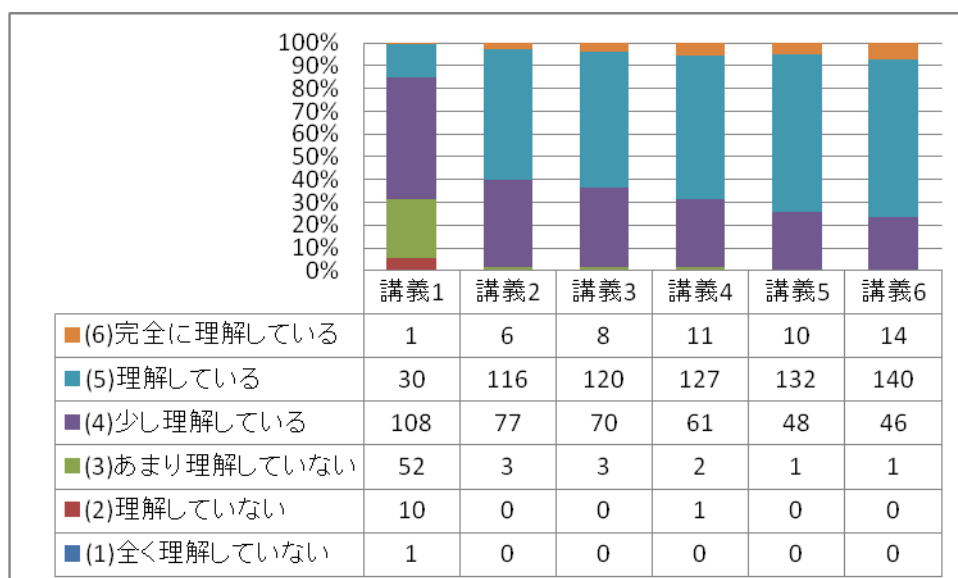
【東京開催】

講義2～6においては、理解している側の回答が95%を超えている。一方で、講義1は、「少し理解している」の回答が一番多く約50%となっているが、次いで、「あまり理解していない」の回答が37%となっている。障害者・障害児の制度と幅広い内容であったためと考えられるが、保育者が知識として持つべき内容であるため、今後も継続して研修する必要があると考える。



【大阪開催】

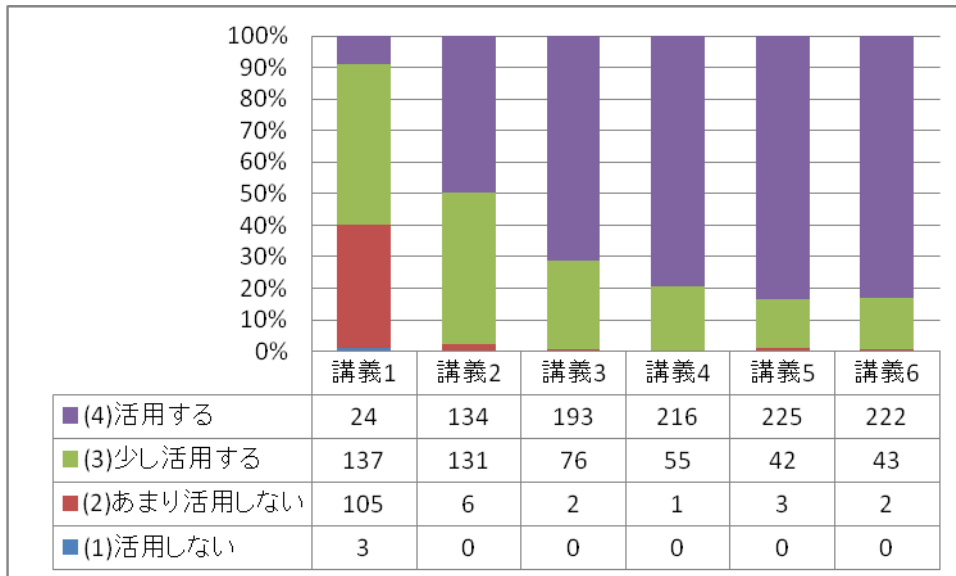
講義2～6においては、理解している側の回答が98%を超えている。一方で、講義1は、「少し理解している」の回答が一番多く50%を超え、次いで、「あまり理解していない」の回答が東京開催よりは低い26%となっている。



③各講義の受講後の活用度について

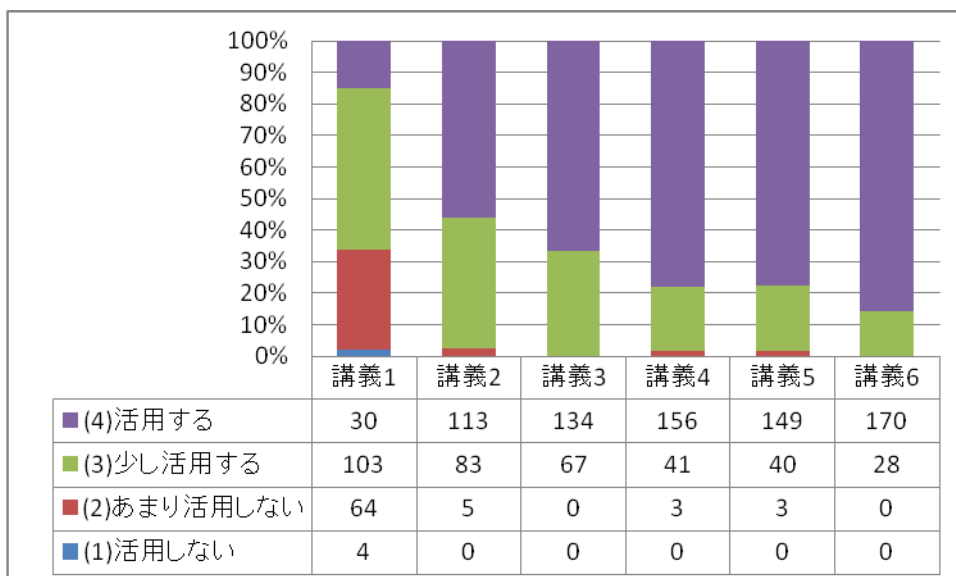
【東京開催】

講義 2～6 においては、活用する側の回答が 97%を超え、特に講義 4～6 については、保育実践や体制づくり・保護者支援など具体的な内容であったため、「活用する」の回答が約 80%以上となっている。一方で、講義 1 は、「少し活用する」の回答が一番多く約 50%となっているが、次いで、「あまり活用しない」の回答が 39%となり、制度的な内容のため保育実践には活用しづらいと考えられる。ただし、制度関連の内容については、保育者が知識として持つべき内容のため、今後も継続して周知していく必要がある。



【大坂開催】

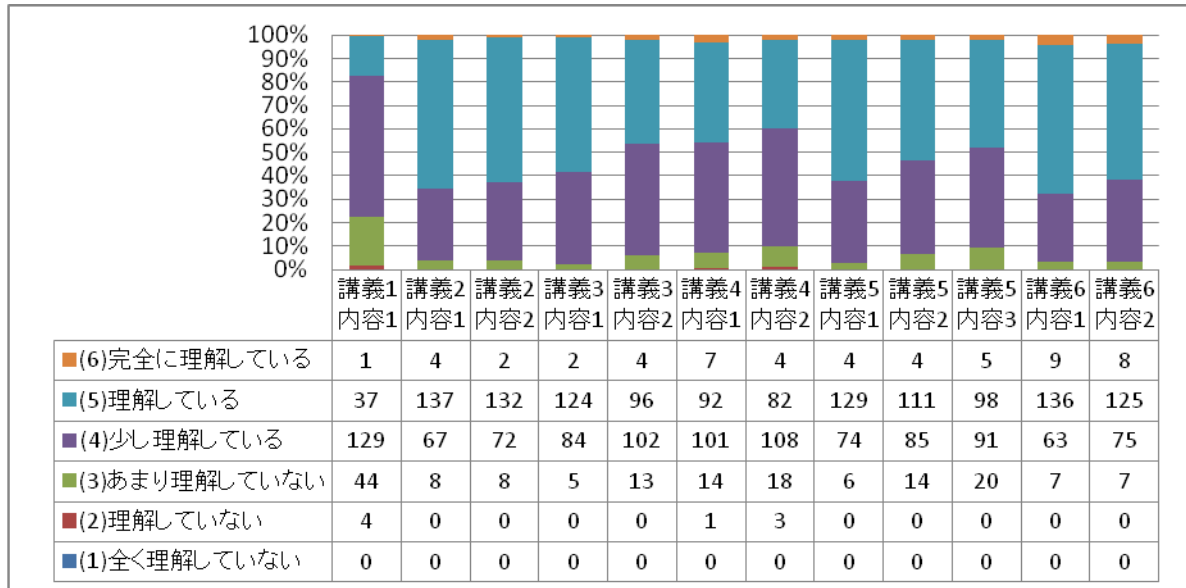
講義 2～6 においては、活用する側の回答が 97%を超え、特に講義 4～6 については、保育実践や体制づくり・保護者支援など具体的な内容であったため、「活用する」の回答が約 74%以上となっている。一方で、講義 1 は、「少し活用する」の回答が一番多く約 50%となっているが、次いで、「あまり活用しない」の回答が 32%となり、制度的な内容でのため保育実践には活用しづらいと考えられる。ただし、制度関連の内容については、保育者が知識として持つべき内容のため、今後も継続して周知していく必要がある。



④研修会の3ヶ月後の各講義の理解度について

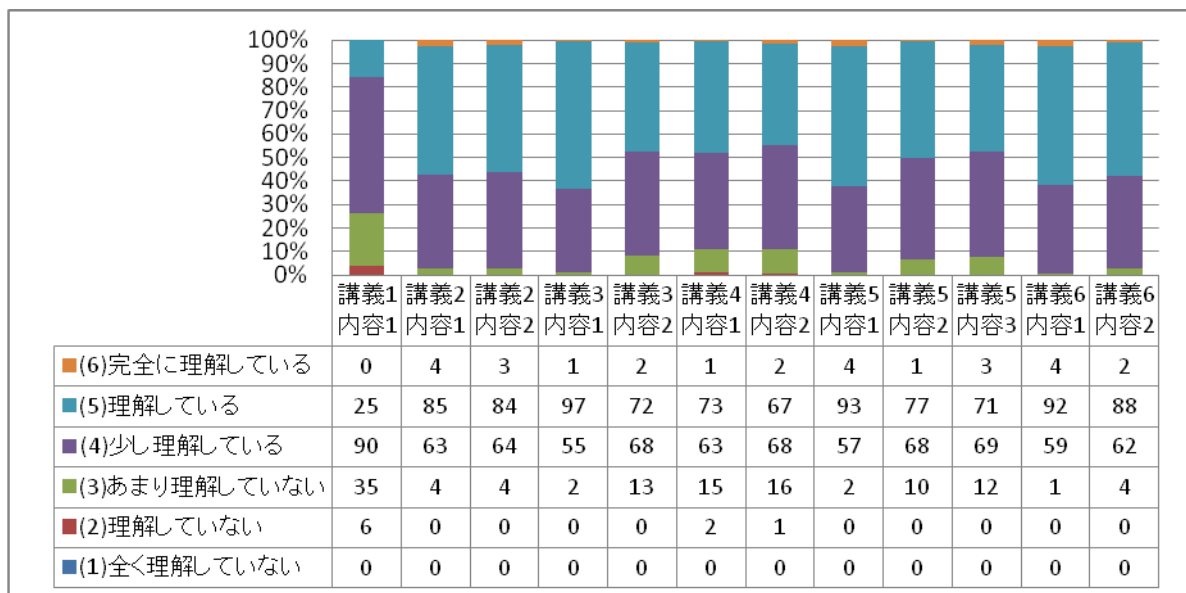
【東京開催】

3か月後の調査では、各講義の内容ごとに理解度を示している。結果としては、講義2～6においては「完全に理解している」「理解している」「少し理解している」の回答が90%以上となっている。講義1については、研修会直後と比べて、理解していない側の回答が17%少なくなり、時間をかけて理解していった方もいたと考えられる。



【大阪開催】

3か月後の調査では、各講義の内容ごとに理解度を示している。結果としては、講義2～6においては「完全に理解している」「理解している」「少し理解している」の回答が90%以上となっている。講義1については、研修会直後と比べて、理解していない側の回答が6%少なくなり、時間をかけて理解していった方もいたと考えられる。



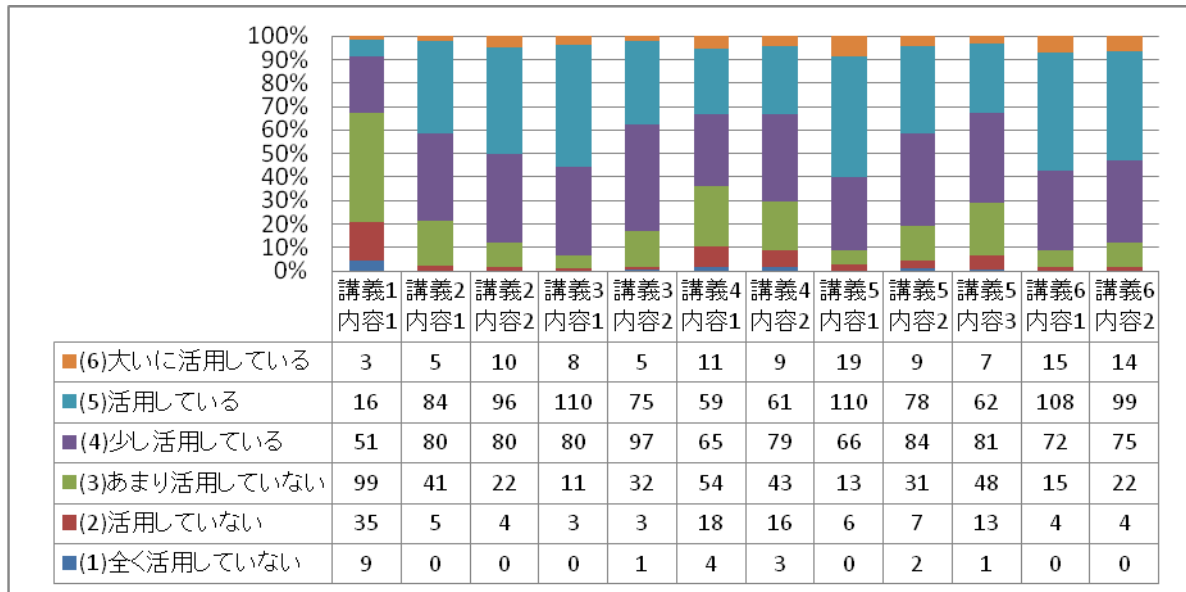
⑤研修会の3ヶ月後の各講義の活用度について

【東京開催】

(受講者)

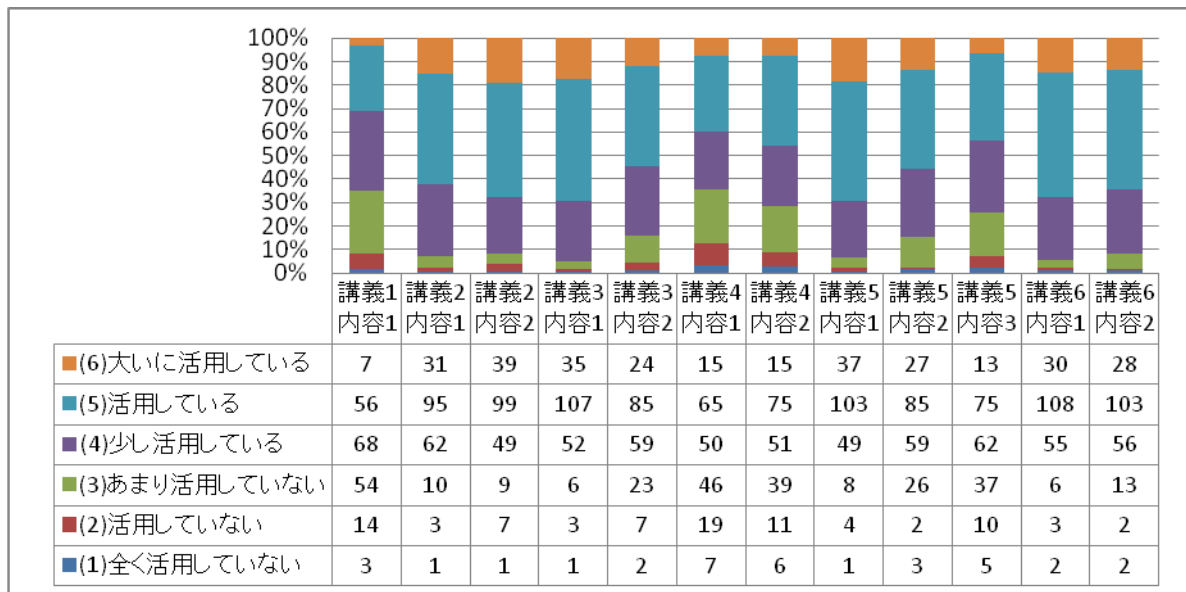
講義2～6は、研修会直後の調査において、活用する側の回答が97%以上となっていたが、3ヶ月後になると、ばらつきがあるものの活用していない側の回答が7～36%と増加している。

また、講義1は、活用しない側の回答が40%から68%に増加しているが、障害福祉制度の内容であり、知識として得ても活用しづらい面があったと考えられる。



(保育所長)

全ての講義内容に対して、活用している側の回答が受講者の回答よりも多い傾向にあり、活用していない側の回答は少なくなっている。講義1についても他の講義との差はあるが、受講者自身の自己評価よりも、保育所長の方が高い評価となっている。

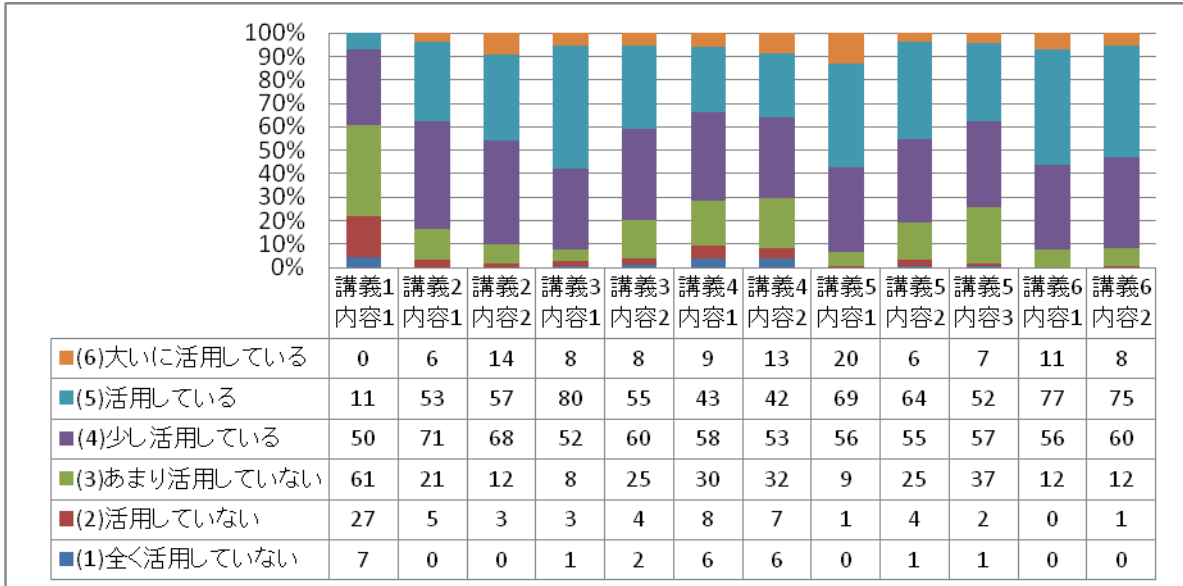


【大阪開催】

(受講者)

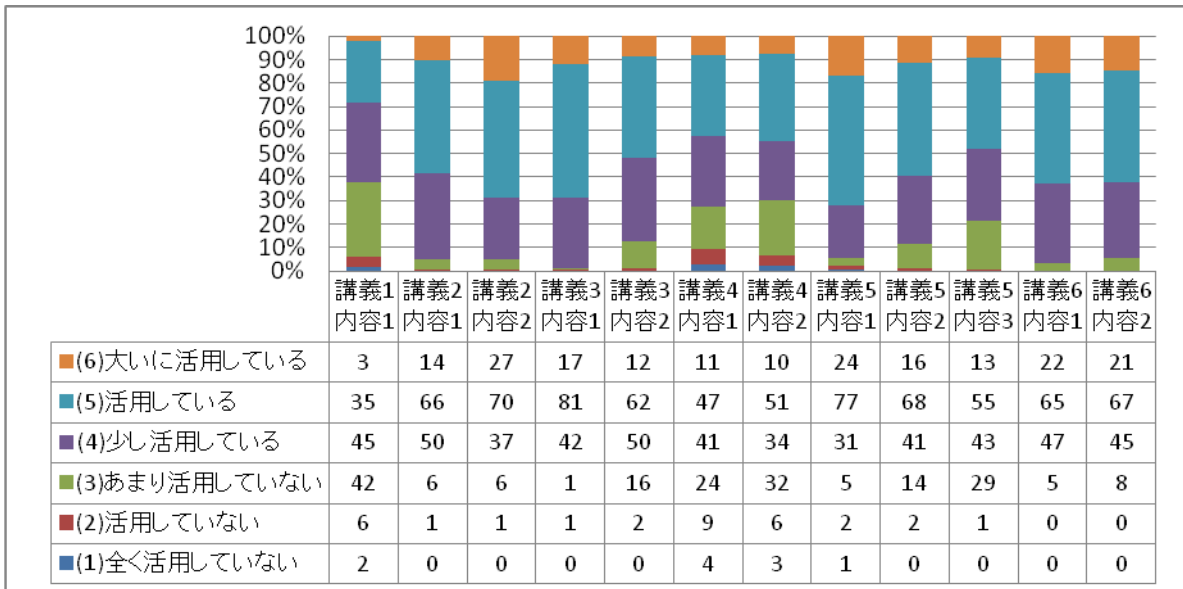
講義 2～6 は、研修会直後の調査において、活用する側の回答が 97%以上となっていたが、3ヶ月後になると、ばらつきがあるものの活用していない側の回答が 7～36%と増加している。

また、講義1は、活用しない側の回答が 33%から 61%に増加しているが、障害福祉制度の内容であり、知識として得ても活用しづらい面があったと考えられる。



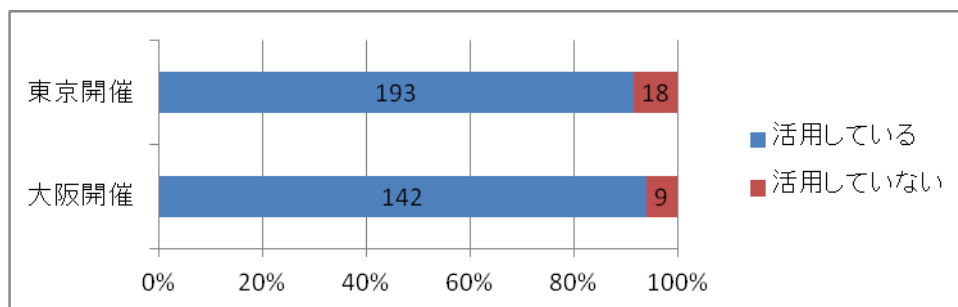
(保育所長)

全ての講義内容に対して、活用している側の回答が受講者の回答よりも多い傾向にあり、活用していない側の回答は少なくなっている。講義1についても他の講義との差はあるが、受講者自身の自己評価よりも、保育所長の方が高い評価となっている。



⑥研修会の3ヶ月後、全体を通して学んだことを保育所運営・実践に活用しているか。

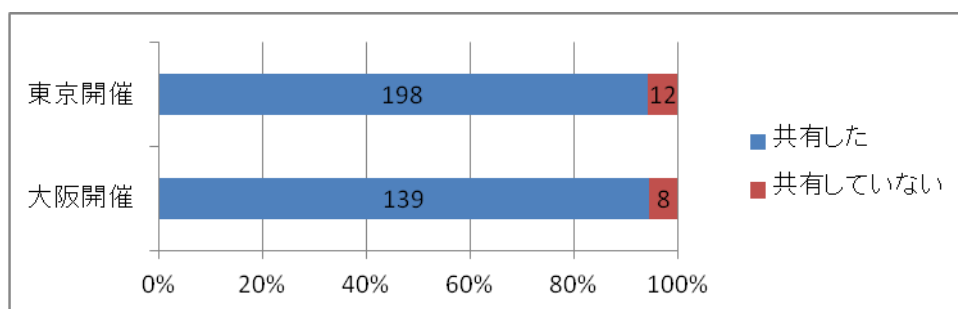
研修会3ヶ月後に「活用している」と回答した方は、東京開催91%、大阪開催95%となっており、「活用していない」と回答した方は東京開催8%、大阪開催5%となっている。



⑦研修会の3ヶ月後、研修会で学んだ講義・内容を保育所内で共有したか。

1) 保育所内での研修内容の共有について

保育所内での研修内容の共有について、「共有した」と回答したのは、東京開催94%、大阪開催95%、「共有していない」と回答したのは、東京開催6%、大阪開催5%であった。

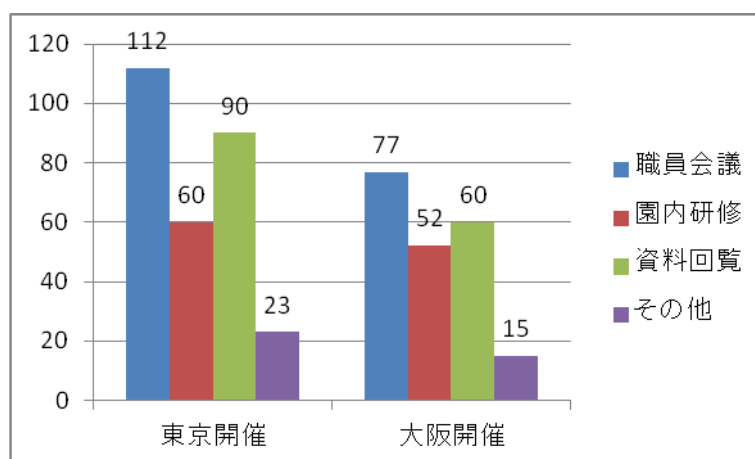


「共有していない」理由については、下記の通りとなっている。理由は様々であるが、「今後に共有する予定」という回答が一番多くあった。次いで、「日常保育や行事等があり、時間が取れないため」の回答が多かった。

理由	個数
今後に共有する予定	8
日常保育や行事等があり、時間が取れないため	6
外部研修会が多く、時間が持てないため	2
園内研修計画に入れておらず、かつ時間が取れないため	1
無記入	3

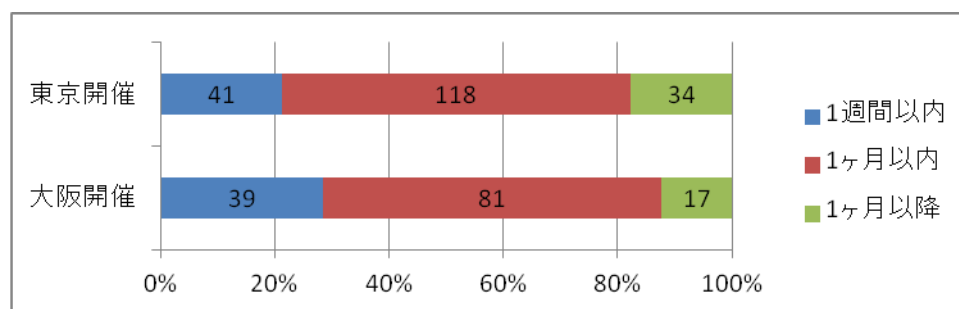
2) 共有の方法について（複数回答可） ※1) で「共有した」と回答の方

共有の方法について、「職員会議」と回答したのは、東京開催 57%、大阪開催 52%となり、「園内研修」と回答したのは、東京開催 30%、大阪開催 35%となり、「資料回覧」と回答したのは、東京開催 45%、大阪開催 41%となり、「その他」と回答したのは、いずれの開催も 12%の回答であった。その他の回答としては、「研修報告書の回覧や会議報告」「市の研修会での発表」「担当クラス会議」「障害児担当者の会議」などが挙げられた。



3) 共有の時期について（※1) で「共有した」と回答の方

共有時期について、「1週間以内」と回答したのは、東京開催 21%、大阪開催 29%となり、「1ヶ月以内」と回答したのは、東京開催 61%、大阪開催 59%となり、「1ヶ月以降」と回答したのは、東京開催 18%、大阪開催 12%であった。



6. 保育所保護者支援研修会

(1) 目的

- ・保育士の専門性をいかした保護者支援の意義と役割について理解し、具体的な事例から基礎的な相談援助技術を整理する。
- ・保育所における保護者支援のための環境構成について学び、保護者と信頼関係を持ってコミュニケーションを図れるよう配慮し、保育所と家庭の緊密な連携に努める。
- ・地域のニーズを丁寧に把握し、地域に根付いた子育て支援を実践する力を養う。実践を通しての具体的な支援と方法について学ぶ。
- ・子どもの発達や子育てに困難を抱える家庭の現状を踏まえ、保育所での体制づくりや保護者対応、関係機関との連携等の向上を図る。

(2) 対象

保育所の保育士並びに保育所職員

(3) 研修日程及び場所

定員	研修日程	研修会場	所在地
300名	平成25年8月28日(水)～30日(金)	御茶ノ水ソラシティ	東京都千代田区駿河台4-6

(4) 研修内容

研修科目	研修内容	方法・時間	講師名
1.保育士の専門性をいかした保護者支援	・保育所における保護者支援 ・保育相談支援の実践	講義 3時間	関西学院大学 准教授 橋本真紀
2.保護者支援における環境構成	・保育所の環境構成 ・保護者を支援する環境の構成	講義・討議 3時間	東洋大学 准教授 高山静子
3.保護者との連携～具体的な手法～	・保護者との緊密な連携 ・保護者への具体的な記録や発信方法	講義・討議 3時間	玉川大学 准教授 大豆生田啓友
4.子どもの発達支援と保護者対応(気になる子どもと保護者の理解と対応)	・特に支援を必要とする子どもの理解と対応 ・発達が気になる子どもの保護者の理解と対応	講義・討議 3時間	NPO法人 えじそんくらぶ 代表 高山恵子
5.子育てに困難を抱える家庭の実態と支援	・個別家庭への対応と仕組みづくり ・保育所での児童虐待への対応 ・地域の関係機関との連携	講義・討議 3時間	社会福祉法人 子どもの虐待防止センター 理事/臨床心理士 片倉昭子

(5) 受講者の内訳

受講者数(申込者数)		402名(442名)	現職	保育士	135(33.7%)
年齢	平均年齢(標準偏差)	42.5歳(10.6)		リーダー	63(15.7%)
	範囲	22～73歳		主任	82(20.4%)
性別	男性	32(8.0%)		副所長	37(9.2%)
	女性	370(92.0%)		所長	57(14.2%)
運営主体	公営	93(23.1%)		看護師・保健師	2(0.5%)
	民営	309(76.9%)		その他	25(6.2%)
現職の 経験年数	平均年数(標準偏差)	7.9年(8.0)	保育士 経験年数	平均年数(標準偏差)	17.0年 (10.7)
	範囲	0～39年		範囲	0～40年

(6) 事前レポート

研修会の一環として、日々の保育実践の振り返りや課題の整理、研修会の学びを深めることを目的に、受講者全員に対して課題を出し、事前レポートを提出いただいた。

課題テーマは、研修 5 科目の中から、受講者が「今、一番学びたい科目」を選び、その科目を「選んだ理由」となっており、原稿用紙 400 字以内にまとめていただいた。

(7) 研修活用調査の結果

調査の実施については、研修会の直後と3ヶ月後に実施した調査結果となっている。

研修会直後調査では、受講者数 402 名のうち、393 名(98%)から調査票を回収した。また、3ヶ月後調査では、316 名(79%)の受講者から調査票を回収した。加えて、保育所長にも協力をお願いし、306 名(93%)から調査票を回収した。

①各講義の理解度・活用度の単純平均値・標準偏差について

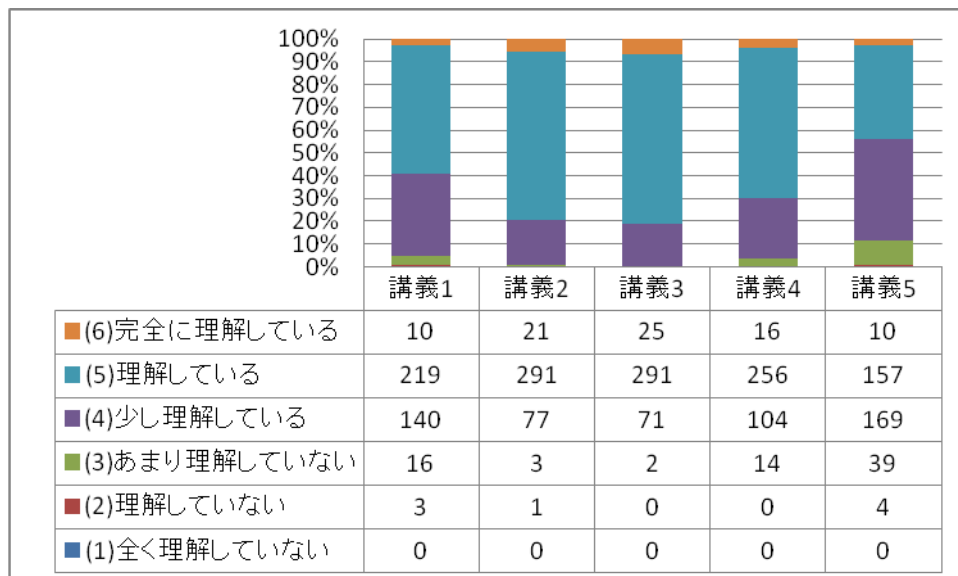
理解度は、(1)全く理解していない・(2)理解していない、(3)あまり理解していない、(4)少し理解している、(5)理解している、(6)完全に理解している、の6段階の評価となっている。

活用度について、研修会直後は、(1)活用しない、(2)あまり活用しない、(3)少し活用する、(4)大いに活用する、の4段階の評価となっているが、3ヶ月後では、(1)全く活用しない、(2)活用しない、(3)あまり活用しない、(4)少し活用する、(5)活用する、(6)大いに活用する、の6段階の評価となっている。

研修科目	研修内容	理解度		活用度		
		【受講者】 講義後 (標準偏差)	【受講者】 3ヶ月後 (標準偏差)	【受講者】 講義後 (標準偏差)	【受講者】 3ヶ月後 (標準偏差)	【所長】 3ヶ月後 (標準偏差)
講義1 保育士の専門性をいかした 保護者支援	保育所における保護者支援	4.6 (0.7)	4.9 (0.4)	3.5 (0.6)	4.6 (0.8)	4.8 (0.7)
	保育相談支援の実践		4.7 (0.6)		4.5 (0.8)	4.6 (0.8)
講義2 保護者支援における環境構成	保育所の環境構成	4.8 (0.5)	4.8 (0.5)	3.7 (0.5)	4.4 (0.8)	4.4 (0.9)
	保護者を支援する環境の構成		4.7 (0.6)		4.3 (0.8)	4.4 (0.8)
講義3 保護者との連携～具体的な手法～	保護者との緊密な連携	4.9 (0.5)	4.8 (0.5)	3.6 (0.5)	4.5 (0.7)	4.6 (0.9)
	保護者への具体的な記録や発信方法		4.8 (0.5)		4.5 (0.8)	4.5 (0.9)
講義4 子どもの発達支援と保護者対応	特に支援と必要とする子どもの理解と対応	4.7 (0.6)	4.7 (0.6)	3.7 (0.5)	4.5 (0.8)	4.7 (0.8)
	発達が気になる子どもの保護者の理解と対応		4.7 (0.6)		4.4 (0.8)	4.6 (0.9)
講義5 子育てに困難を抱える家庭の実態と支援	個別家庭への対応と仕組みづくり		4.4 (0.7)		3.9 (0.9)	4.1 (0.9)
	保育所での児童虐待への対応	4.3 (0.7)	4.6 (0.7)	3.2 (0.6)	3.8 (1.0)	4.1 (1.0)
	地域の関係機関との連携		4.5 (0.7)		4.1 (1.0)	4.2 (1.1)

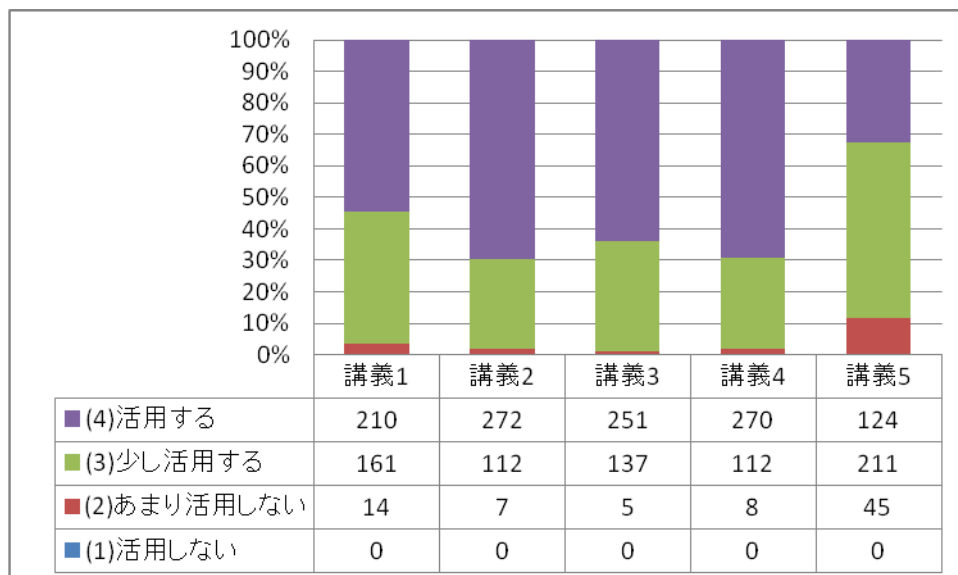
②各講義の受講後の理解度について

講義1～4においては、理解している側の回答が95%を超えている。講義5は、理解する側が89%を超えている一方で、「少し理解している」の回答が42%となり、他の講義と比べると「理解している」の回答よりも多い割合となっている。



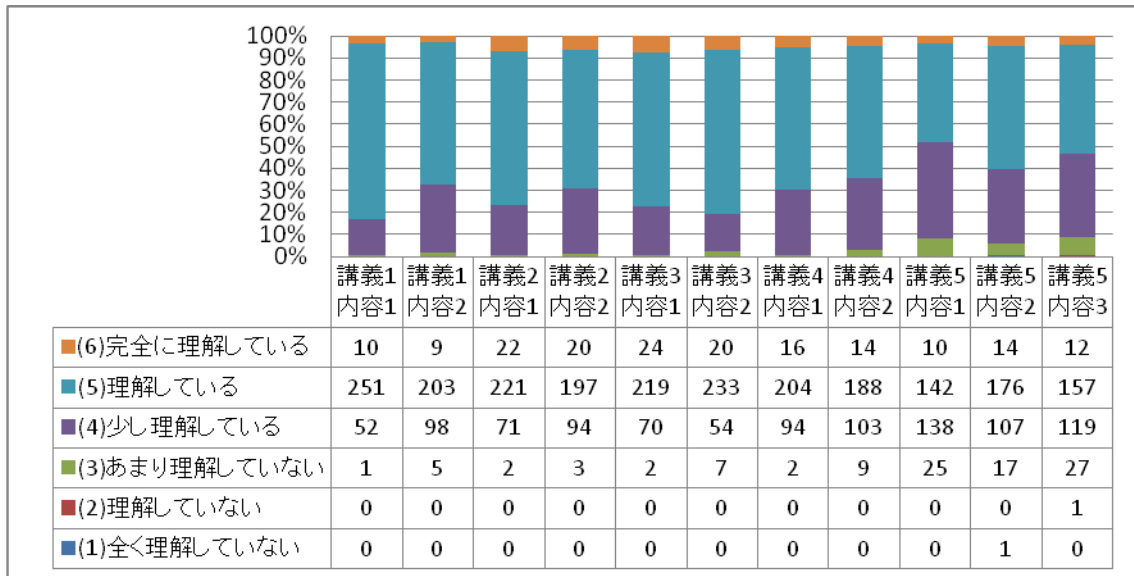
③各講義の受講後の活用度について

講義1～4においては、活用する側の回答が96%を超えている。講義5は、理解する側が88%を超えている一方で、「少し活用する」の回答が54%となり、他の講義と比べると「活用する」の回答よりも多い割合となっている。



④研修会の3ヶ月後の各講義の理解度について

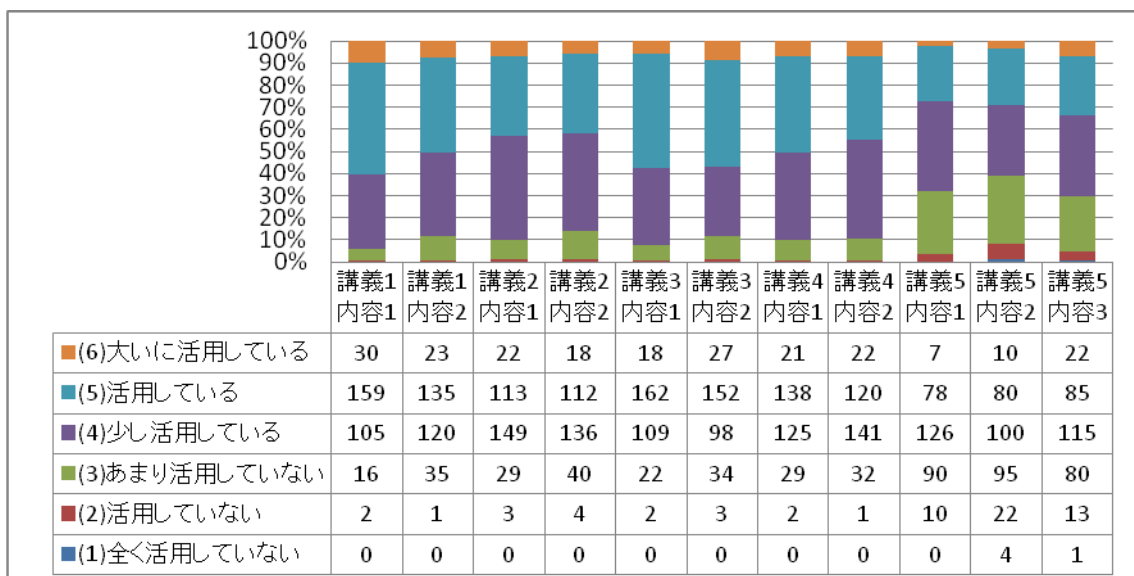
3か月後の調査では、各講義の内容ごとに理解度を示している。結果としては、講義1～4において、「完全に理解している」「理解している」「少し理解している」の回答が97%以上となっている。講義5について、理解している側の回答が91%を超えており、研修会の直後の調査で「少し理解する」の割合が一番多かったが、3ヶ月後の調査では、「理解している」の回答が50%と一番多い割合となった。時間をかけて理解が深まった講義と考えられる。



⑤研修会の3ヶ月後の各講義の活用度について

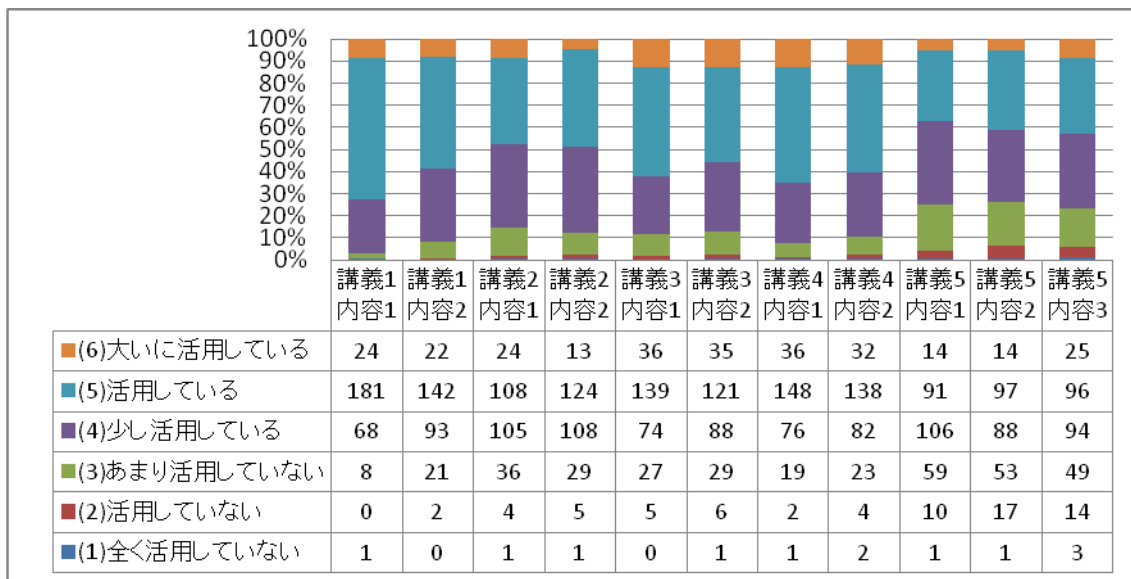
(受講者)

3か月後の調査では、各講義の内容ごとに活用度を示している。結果としては、講義1～4において、「大いに活用している」「活用している」「少し活用している」の回答が86%以上となっている。講義5について、「あまり活用していない」の回答が約30%となり、「活用していない」「全く活用していない」を含めると32～38%となっている。講義は、「子育てに困難を抱える家庭への支援」であったが、この3ヶ月で困難事例の対応がなかったことも考えられる。



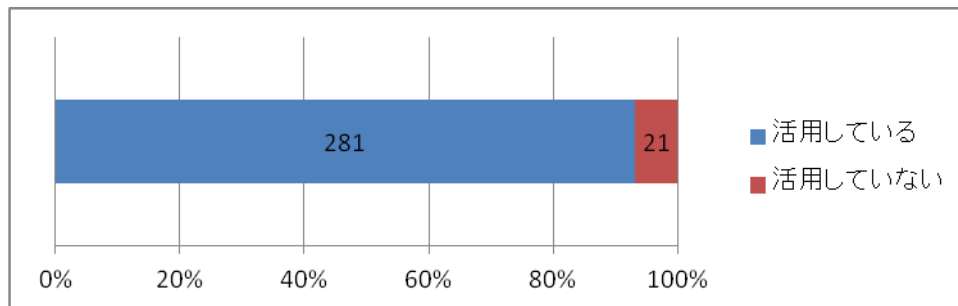
(保育所長)

全ての講義内容に対して、受講者の回答よりも高評価をいただいている。講義 5 についても受講者の回答よりも活用している割合が高いが、他の講義と比べると若干活用していない割合が高くなっている。



⑥研修会の3ヶ月後、全体を通して学んだことを保育所運営・実践に活用しているか。

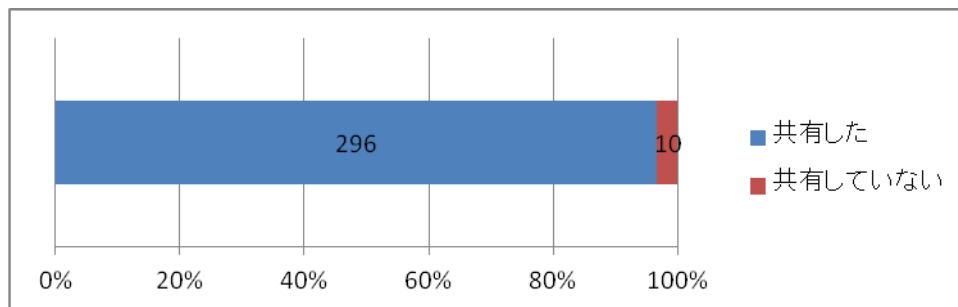
研修会3ヶ月後に「活用している」と回答した方は93%、「活用していない」と回答した方は7%となっている。



⑦研修会の3ヶ月後、研修会で学んだ講義・内容を保育所内で共有したか。

1) 保育所内での研修内容の共有について

保育所内での研修内容の共有について、「共有した」と回答した方は97%、「共有していない」と回答した方は3%となっている。

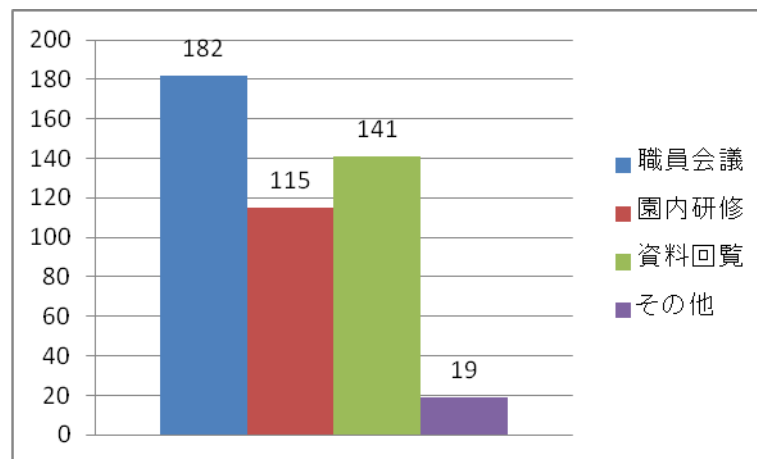


「共有していない」理由については、下記の通りとなっている。理由は様々であるが、「今後に共有する予定」という回答が一番多くあった。次いで、「日常保育や行事等があり、時間が取れないため」の回答が多かった。

理由	個数
今後に共有する予定	3
日常保育や行事等があり、時間が取れないため	3
外部研修会が多く、時間が持てないため	1
園長の都合	1
自主研修として本人の希望により受講したため	1
報告会の時期を逸したため	1
無記入	0

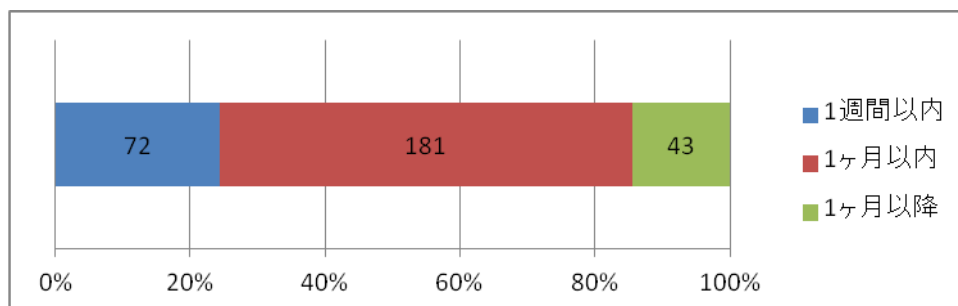
2) 共有の方法について（複数回答可） ※上記で「共有した」と回答の方

共有の方法について、「職員会議」と回答した方は60%、「園内研修」と回答した方は38%、「資料回覧」と回答した方は、46%、「その他」と回答した方は、6%であった。その他の回答としては、「研修報告書の回覧や会議報告」「市の研修会での発表」「担当クラス会議」「口頭報告」などが挙げられた。



3) 共有の時期について（※1）で「共有した」と回答の方

共有時期について、「1週間以内」と回答した方は24%、「1ヶ月以内」と回答した方は61%、「1ヶ月以降」と回答した方は15%であった。



7. 保幼小連携研修会（旧：幼児期の教育研修会）

（1）目的

- ・乳児期の生活や発達の連続性を踏まえ、子どもの発達を保障するための幼児期の保育実践及び保幼小の連携について学ぶ。
- ・幼児期の保育の内容及び計画について、保育実践事例から学び、子どもの集団生活と遊びが豊かに展開されるよう配慮する。
- ・保育所と小学校の連携の実践事例から、それぞれの地域の実情に合わせた方法について考察する。

（2）対象

保育所の保育士並びに保育所職員、幼稚園関係者

（3）定員・研修日程・場所

定員	研修日程	研修会場	所在地
200名	平成25年9月26日(木)～27日(金)	御茶ノ水ソラシティ	東京都千代田区駿河台4-6

（4）研修内容

研修科目	研修内容	方法・時間	講師名
1. 幼児期の保育の内容と計画	・幼児期の保育の内容と計画 ・幼児期の保育実践事例	講義・討議 3時間	お茶の水女子大学附属幼稚園 副園長 宮里 暁美
2. 子どもの発達の連続性を踏まえた幼児期の保育及び教育	・幼児期の保育及び教育の現状の理解 ・子どもの発達の連続性を踏まえた保育実践	講義・討議 3時間	神戸大学 准教授 北野 幸子
3. 子どもの発達を保障する保幼小連携	・保幼小連携の実践事例 ・子どもの発達を保障する保幼小の連携	講義・討議 3時間	福岡女学院大学 准教授 坂田 和子 佐賀市教育委員会保育幼稚園課 主査 橋口 繁美

（5）受講者の内訳

受講者数(申込者数)		199名(209名)	現職	保育士	74(37.2%)
年齢	平均年齢(標準偏差)	40.8歳(11.3)		リーダー	29(14.6%)
	範囲	20～69歳		主任	39(19.6%)
性別	男性	24(12.1%)	副所長	14(7.0%)	
	女性	175(87.9%)	所長	36(18.1%)	
運営主体	公営	36(18.1%)	看護師・保健師	0(0.0%)	
	民営	163(81.9%)	その他	7(3.5%)	
現職の経験年数	平均年数(標準偏差)	7.9年(7.5)	保育士 経験年数	平均年数(標準偏差)	15.1年(10.5)
	範囲	0～31年		範囲	0～40年

(6) 事前レポート

研修会の一環として、日々の保育実践の振り返りや課題の整理、研修会の学びを深めることを目的に、受講者全員に対して課題を出し、事前レポートを提出いただいた。

課題テーマは、研修 3 科目の中から、受講者が「今、一番学びたい科目」を選び、その科目を「選んだ理由」となっており、原稿用紙 400 字以内にまとめていただいた。

(7) 研修活用調査の結果

調査の実施については、研修会の直後と 3 ヶ月後に実施した調査結果となっている。

研修会直後調査では、受講者数 199 名のうち、191 名 (96%) から調査票を回収した。また、3 ヶ月後調査では、145 名 (73%) の受講者から調査票を回収した。加えて、保育所長にも協力をお願いし、143 名 (72%) から調査票を回収した。

①各講義の理解度・活用度の単純平均値・標準偏差について

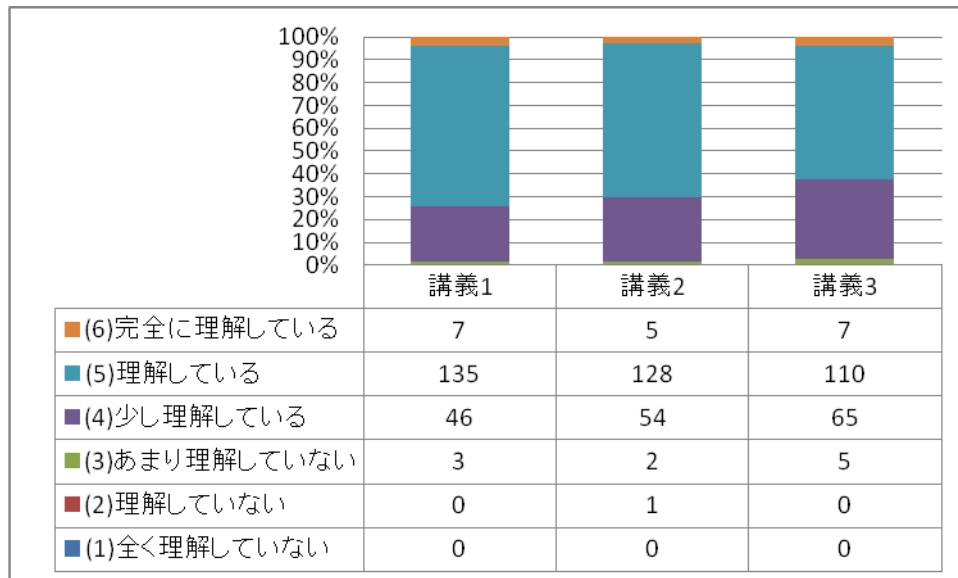
理解度は、(1) 全く理解していない・(2) 理解していない、(3) あまり理解していない、(4) 少し理解している、(5) 理解している、(6) 完全に理解している、の 6 段階の評価となっている。

活用度について、研修会直後は、(1) 活用しない、(2) あまり活用しない、(3) 少し活用する、(4) 大いに活用する、の 4 段階の評価となっているが、3 ヶ月後では、(1) 全く活用しない、(2) 活用しない、(3) あまり活用しない、(4) 少し活用する、(5) 活用する、(6) 大いに活用する、の 6 段階の評価となっている。

研修科目	研修内容	理解度		活用度		
		【受講者】 講義後 (標準偏差)	【受講者】 3ヶ月後 (標準偏差)	【受講者】 講義後 (標準偏差)	【受講者】 3ヶ月後 (標準偏差)	【所長】 3ヶ月後 (標準偏差)
講義 1 幼児期の保育の内容と計画	幼児期の保育の内容と計画	4.8 (0.5)	4.7 (0.6)	3.5 (0.5)	4.6 (0.9)	4.3 (0.9)
	幼児期の保育実践事例		4.7 (0.6)		4.5 (0.9)	4.2 (0.9)
講義 2 子どもの発達の連続性を踏まえた幼児期の保育及び教育	幼児期の保育及び教育の現状の理解	4.7 (0.6)	4.7 (0.5)	3.5 (0.6)	4.4 (0.9)	4.1 (0.9)
	子どもの発達の連続性を踏まえた保育実践		4.7 (0.5)		4.3 (0.9)	4.2 (0.9)
講義 3 子どもの発達を保障する保幼小連携	保幼小連携の実践事例	4.6 (0.6)	4.6 (0.6)	3.3 (0.6)	4.5 (1.1)	3.8 (1.2)
	子どもの発達を保障する保幼小連携		4.6 (0.6)		4.5 (1.1)	3.9 (1.1)

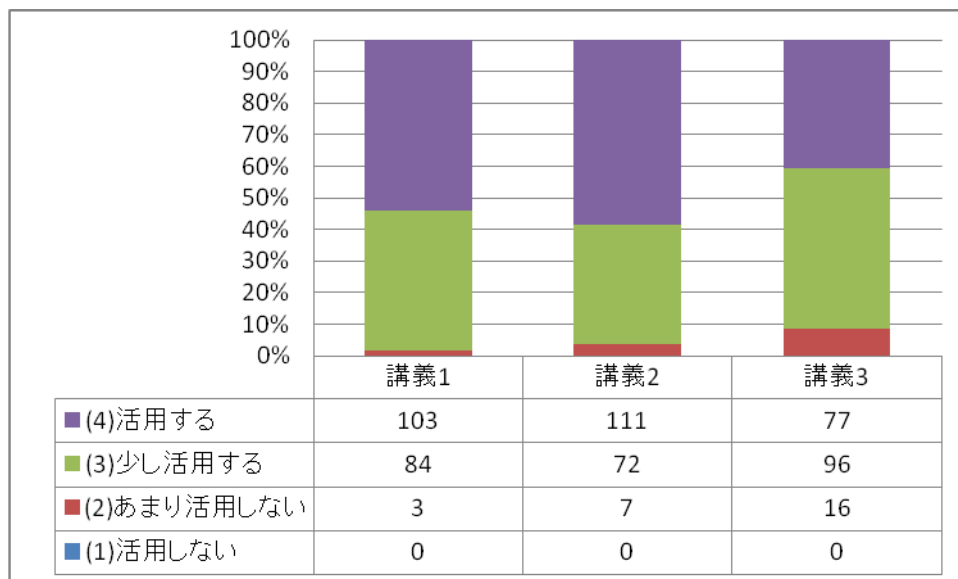
②各講義の受講後の理解度について

いずれの講義においても、理解している側の回答が97%を超えている。



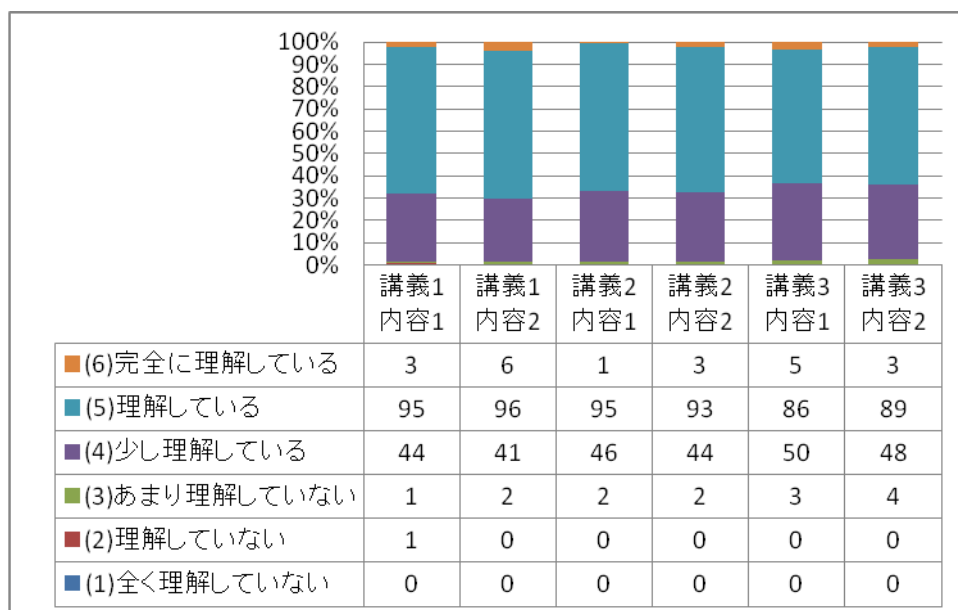
③各講義の受講後の活用度について

いずれの講義においても、活用する側の回答が91%を超えている。



④研修会の3ヶ月後の各講義の理解度について

3 か月後の調査では、各講義の内容ごとに理解度を示している。結果としては、いずれの講義においても「完全に理解している」「理解している」「少し理解している」の回答が99～100%となっている。

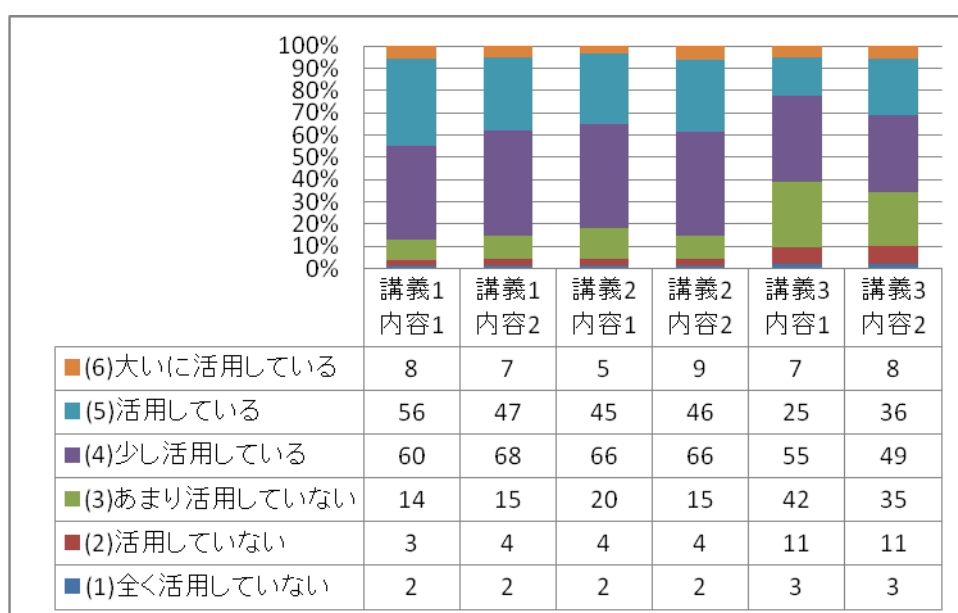


⑤研修会の3ヶ月後の各講義の活用度について

(受講者)

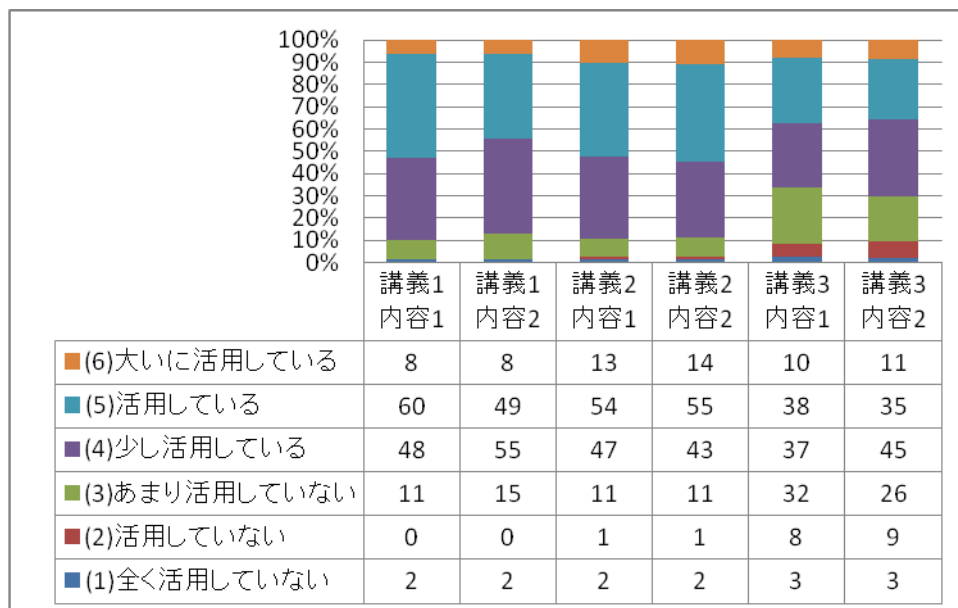
講義1,2は、研修会直後の調査において、活用する側の回答が91%以上となっていたが、3ヶ月後になると、ばらつきがあるものの約80%の回答に減っている。

また、講義3は、研修会直後の調査に置いて、活用しない側の回答が8%であったが、講義内容ごとに35～40%に増えている。「保幼小連携」の先進的な実践事例であったため、活用するつもりであっても、様々な要因から活用出来ていないことが考えられる。



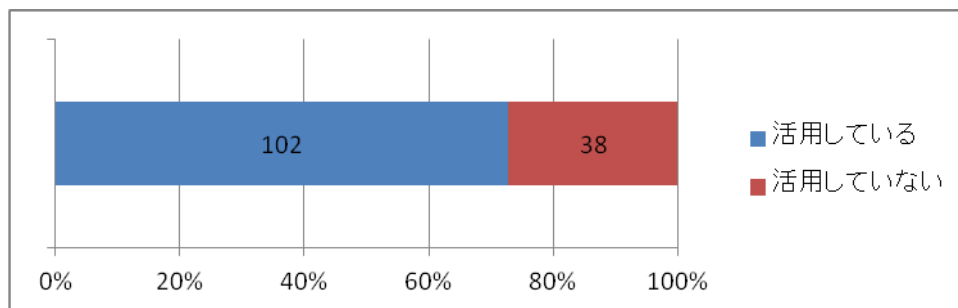
(保育所長)

全ての講義内容に対して、受講者の回答と大きな差が見られない結果となっている。



⑥研修会の3ヶ月後、全体を通して学んだことを保育所運営・実践に活用しているか。

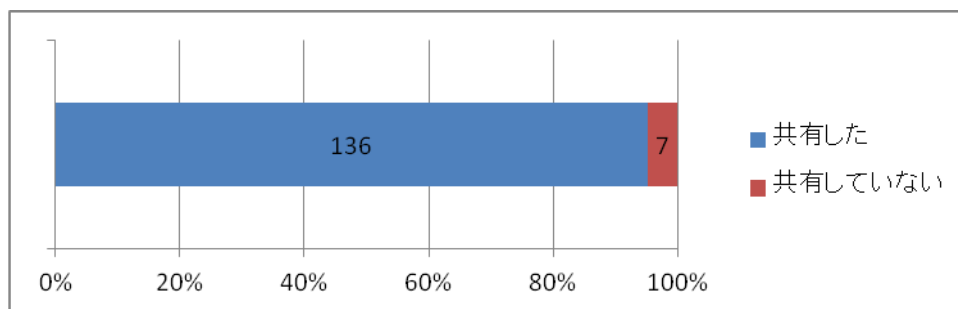
研修会3ヶ月後に「活用している」と回答した方は73%、「活用していない」と回答した方は27%となっている。他研修会と比較すると、活用している割合が若干下がっている。



⑦研修会の3ヶ月後、研修会で学んだ講義・内容を保育所内で共有したか。

1) 保育所内での研修内容の共有について

保育所内での研修内容の共有について、「共有した」と回答した方は95%、「共有していない」と回答した方は5%となっている。

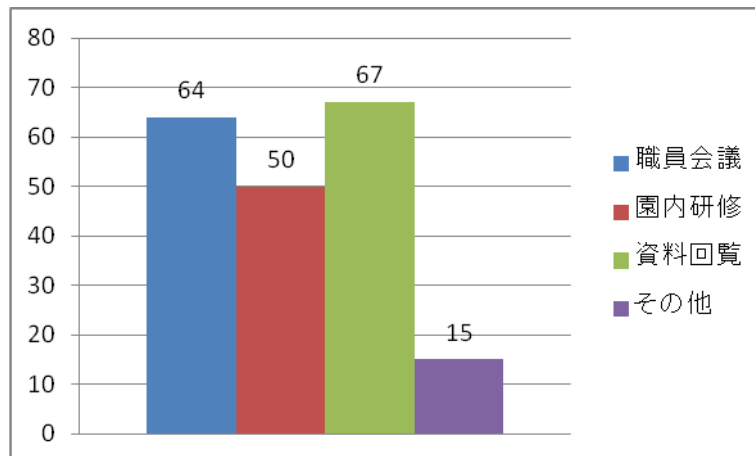


「共有していない」理由については、下記の通りとなっている。理由は様々であるが、「今後に共有する予定」という回答が一番多くあった。次いで、「日常保育や行事等があり、時間が取れないため」の回答が多かった。

理由	個数
今後に共有する予定	4
日常保育や行事等があり、時間が取れないため	2
全員には共有できていないため	1
無記入	0

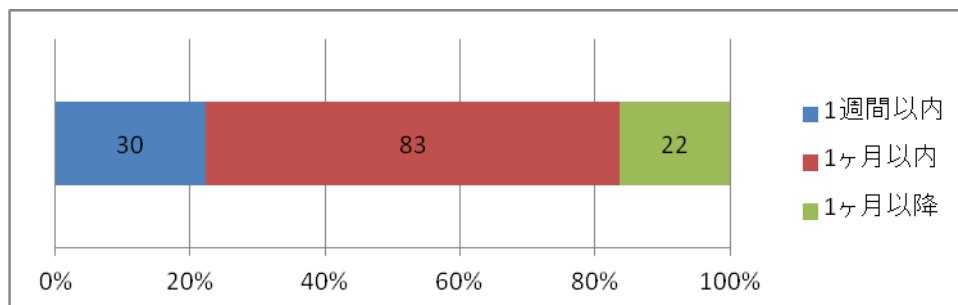
2) 共有の方法について（複数回答可） ※上記で「共有した」と回答の方

共有の方法について、「職員会議」と回答した方は 45%、「園内研修」と回答した方は 35%、「資料回覧」と回答した方は、47%、「その他」と回答した方は、11%であった。その他の回答としては、「研修報告書の回覧や会議報告」「市の研修会での発表」「担当クラス会議」「保育所便りを活用して周知」などが挙げられた。



3) 共有の時期について（※1）で「共有した」と回答の方

共有時期について、「1週間以内」と回答した方は 22%、「1ヶ月以内」と回答した方は 62%、「1ヶ月以降」と回答した方は 16%であった。



8. 保育所事故予防研修会

(1) 目的

- ・保育所の関係法令及びガイドラインについて学び、保育所の新しい課題への対応に努める。
- ・保育所における事故予防の意義について理解し、多様な保育実践事例を通して保育所での安全管理を見直し、子どもが安全に生活できるよう配慮する。
- ・保育所での事故事例から、保護者への配慮事項とコミュニケーションの方法について理解する。
- ・乳幼児のアレルギー対応の最新の知見を学び、保育所でのリスクマネジメントの充実を図る。

(2) 対象

保育所保育士並びに保育所職員

(3) 定員・研修日程・場所

定員	研修日程	研修会場	所在地
300名	平成25年12月12日(木)～13日(金)	御茶ノ水ソラシティ	東京都千代田区駿河台4-6
300名	平成26年2月6日(木)～7日(金)	千里阪急ホテル	大阪府豊中市新千里東町2-1

(4) 研修内容

研修科目	研修内容	方法・時間	講師名
1.保育所における事故予防の意義	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所におけるガイドラインの理解 ・保育所での事故予防の意義 ・保育内容・保育環境におけるリスクマネジメント 	講義・討議 3時間	厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 保育課 保育指導専門官 馬場 耕一郎
2.保育所での事故と保護者とのコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所のリスクマネジメント ・保護者への配慮事項 	講義・討議 3時間	東京きぼう法律事務所 弁護士・社会福祉士 寺町 東子
3.保育所におけるアレルギー対応	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期のアレルギーの理解 ・保育所におけるアレルギー対応 	講義・討議 3時間	【東京開催】 東京都立小児総合医療センター アレルギー科 部長 赤澤 晃 【大阪開催】 昭和大学医学部小児科学講座 講師 今井 孝成

(5) 受講者の内訳

		東京開催	大阪開催
受講者数(申込者数)		319名(340名)	251名(260名)
年齢	平均年齢(標準偏差)	42.3歳(11.5)	44.3歳(11.2)
	範囲	20～73歳	20～70歳
性別	男性	26(8.2%)	16(6.4%)
	女性	293(91.8%)	235(93.6%)
運営主体	公営	75(23.5%)	98(39.0%)
	民営	244(76.5%)	153(61.0%)
現職	保育士	102(32.0%)	70(27.9%)
	リーダー	34(10.7%)	20(8.0%)
	主任	64(20.1%)	57(22.7%)
	副所長	20(6.3%)	18(7.2%)
	所長	55(17.2%)	49(19.5%)
	看護師・保健師	26(8.2%)	24(9.6%)
	その他	18(5.6%)	13(5.2%)
現職の経験年数	平均年数(標準偏差)	7.5年(7.9)	7.6年(7.5)
	範囲	0～39年	0～40年
保育士経験年数	平均年数(標準偏差)	15.5年(12.0)	17.4年(12.3)
	範囲	0～40年	0～45年

(6) 事前レポート

研修会の一環として、日々の保育実践の振り返りや課題の整理、研修会の学びを深めることを目的に、受講者全員に対して課題を出し、事前レポートを提出いただいた。

課題テーマは、研修3科目の中から、受講者が「今、一番学びたい科目」を選び、その科目を「選んだ理由」となっており、原稿用紙400字以内にまとめていただいた。

(7) 研修活用調査の結果

調査の実施については、研修会の直後と3ヶ月後に実施した調査結果となっている。

東京開催分について、研修会直後調査では、受講者数319名のうち、307名(96.2%)から調査票を回収した。また、3ヶ月後調査では、219名(68.7%)の受講者から調査票を回収した。加えて、保育所長にも協力をお願いし、215名(67.4%)から調査票を回収した。大阪開催分について、研修会直後調査では、受講者数270名のうち、243名(96.8%)から調査票を回収した。また、3ヶ月後調査では、168名(62.2%)の受講者から調査票を回収した。加えて、152名(56.3%)の保育所長から調査票を回収した。

①各講義の理解度・活用度の単純平均値・標準偏差について

理解度は、(1)全く理解していない・(2)理解していない、(3)あまり理解していない、(4)少し理解している、(5)理解している、(6)完全に理解している、の6段階の評価となっている。

活用度について、研修会直後は、(1)活用しない、(2)あまり活用しない、(3)少し活用する、(4)大いに活

用する、の4段階の評価となっているが、3ヶ月後では、(1)全く活用しない、(2)活用しない、(3)あまり活用しない、(4)少し活用する、(5)活用する、(6)大いに活用する、の6段階の評価となっている。

【東京開催】

科目	内容	理解度		活用度		
		講義後	3ヶ月後 (受講者)	講義後	3ヶ月後 (受講者)	3ヶ月後 (所長)
講義Ⅰ「保育所における事故 予防の意義」	保育所におけるガイドライ ンの理解	4.8 (0.4)	4.6 (0.5)	3.8 (0.4)	4.3 (0.8)	4.6 (0.7)
	保育所での事故予防の 意義		5.0 (0.4)		4.8 (0.7)	4.9 (0.6)
	保育内容・保育環境にお けるリスクマネジメント		4.8 (0.5)		4.6 (0.7)	4.8 (0.7)
講義Ⅱ「保育所での事故と保 護者とのコミュニケーション」	保育所のリスクマネジメン ト	5.0 (0.4)	4.9 (0.5)	3.8 (0.4)	4.8 (0.7)	5.0 (0.7)
	保護者への配慮事項		4.9 (0.5)		4.9 (0.8)	5.0 (0.7)
講義Ⅲ「保育所におけるアレ ルギー対応」	乳幼児期のアレルギーの 理解	4.5 (0.6)	4.8 (0.5)	3.6 (0.5)	4.6 (0.7)	4.7 (0.7)
	保育所におけるアレルギー 対応		4.8 (0.5)		4.7 (0.7)	4.9 (0.7)

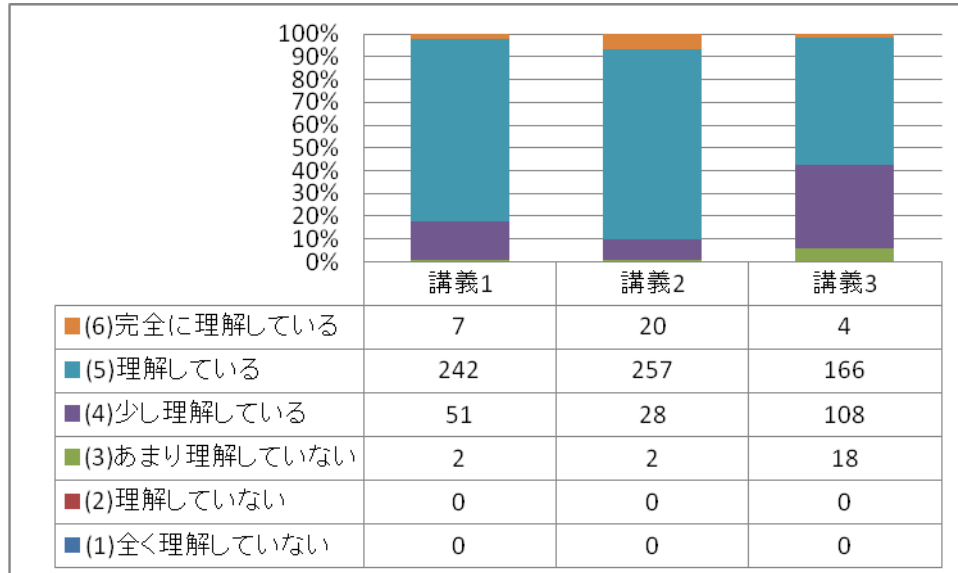
【大阪開催】

科目	内容	理解度		活用度		
		講義後	3ヶ月後 (受講者)	講義後	3ヶ月後 (受講者)	3ヶ月後 (所長)
講義Ⅰ「保育所における事故 予防の意義」	保育所におけるガイドライ ンの理解	4.8 (0.6)	4.5 (0.6)	3.8 (0.5)	4.3 (0.7)	4.5 (0.7)
	保育所での事故予防の 意義		5.0 (0.5)		4.7 (0.7)	4.8 (0.7)
	保育内容・保育環境にお けるリスクマネジメント		4.8 (0.5)		4.6 (0.7)	4.7 (0.7)
講義Ⅱ「保育所での事故と保 護者とのコミュニケーション」	保育所のリスクマネジメン ト	5.0 (0.6)	4.9 (0.5)	3.8 (0.4)	4.9 (0.6)	5.1 (0.8)
	保護者への配慮事項		5.0 (0.5)		5.0 (0.7)	5.1 (0.8)
講義Ⅲ「保育所におけるアレ ルギー対応」	乳幼児期のアレルギーの 理解	4.5 (0.6)	4.8 (0.5)	3.6 (0.5)	4.6 (0.7)	4.8 (0.7)
	保育所におけるアレルギー 対応		4.8 (0.5)		4.7 (0.7)	4.9 (0.7)

②各講義の受講後の理解度について

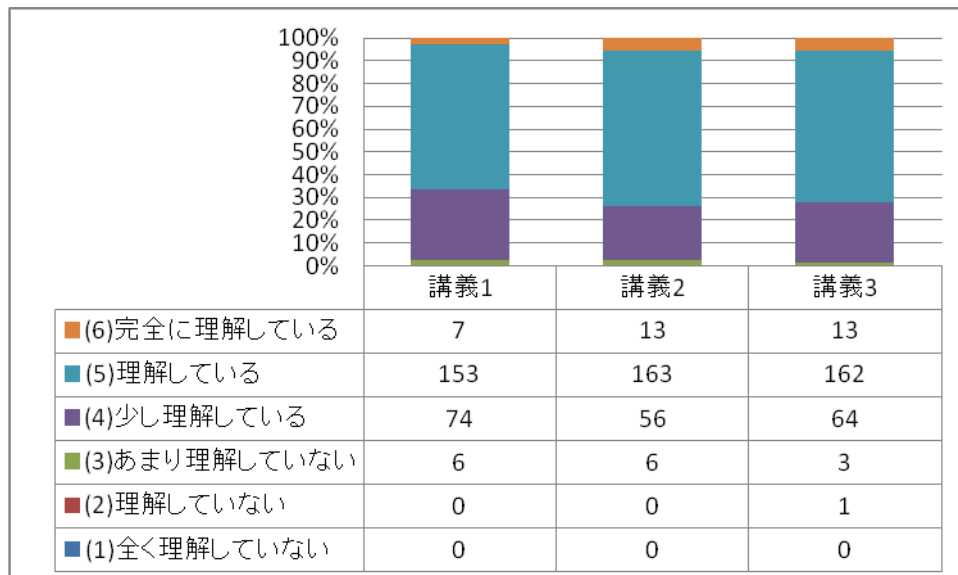
【東京開催】

全ての講義において、理解している側の回答が 93%を超えており、特に講義 1,2 については、99%以上で理解している側の回答があった。



【大阪開催】

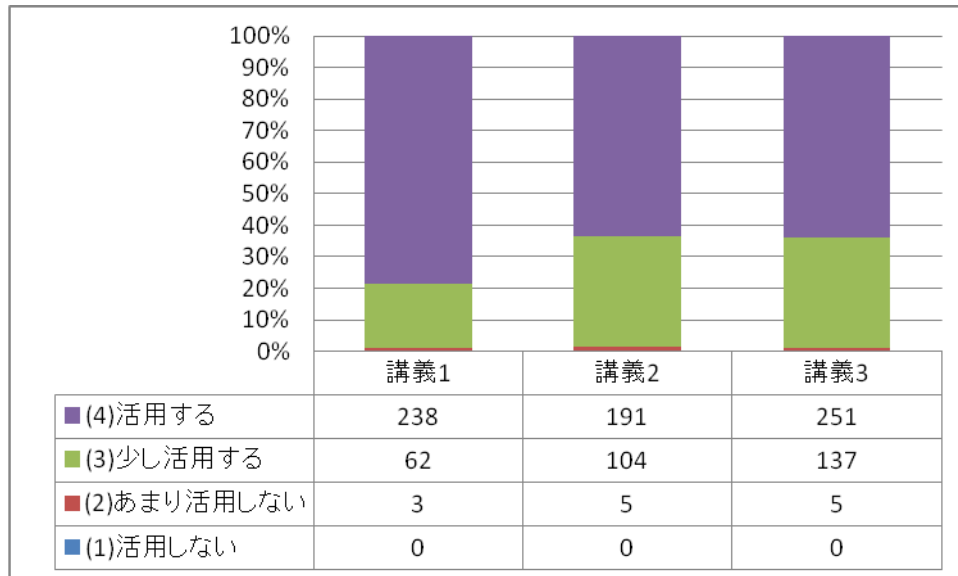
全ての講義において、理解している側の回答が 97%を超えている。



③各講義の受講後の活用度について

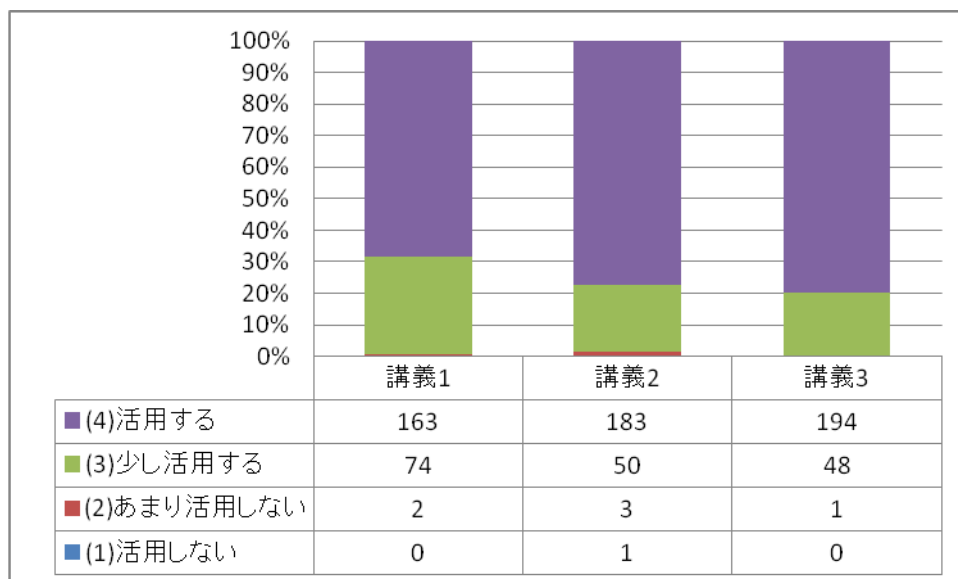
【東京開催】

全ての講義において、活用する側の回答が98%を超えている。



【大坂開催】

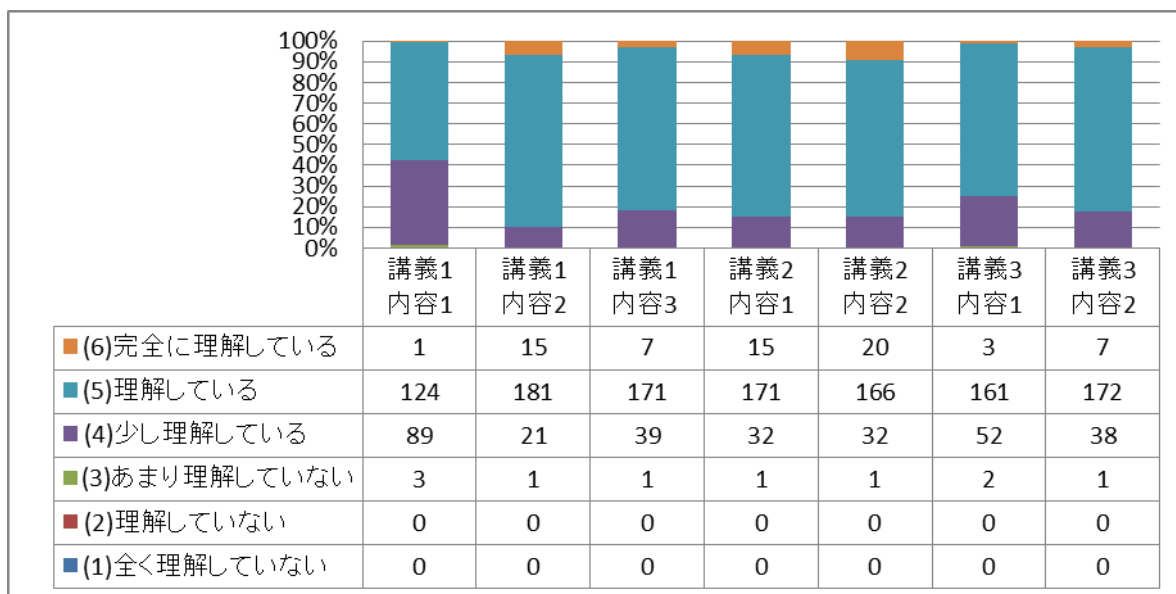
全ての講義において、活用する側の回答が98%を超えている。



④研修会の3ヶ月後の各講義の理解度について

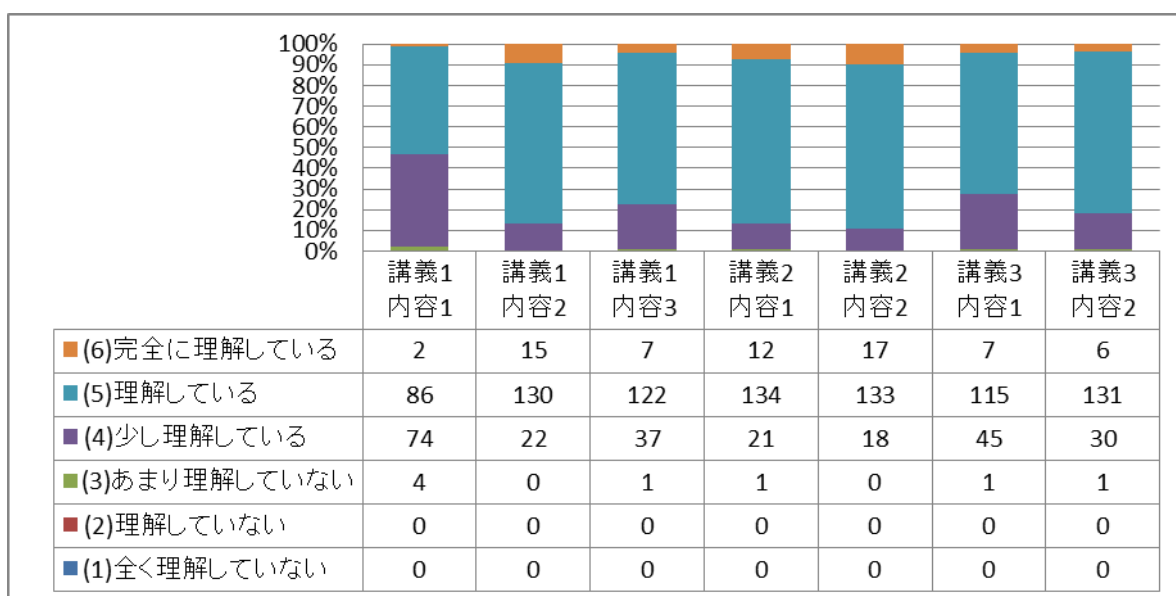
【東京開催】

3か月後の調査では、各講義の内容ごとに理解度を示している。結果としては、全ての講義において「完全に理解している」「理解している」「少し理解している」の回答が99%以上となっており、研修の学びから、それぞれの内容への理解がさらに深まったことがわかった。



【大阪開催】

3か月後の調査では、各講義の内容ごとに理解度を示している。結果としては、全ての講義において「完全に理解している」「理解している」「少し理解している」の回答が95%以上となっている。

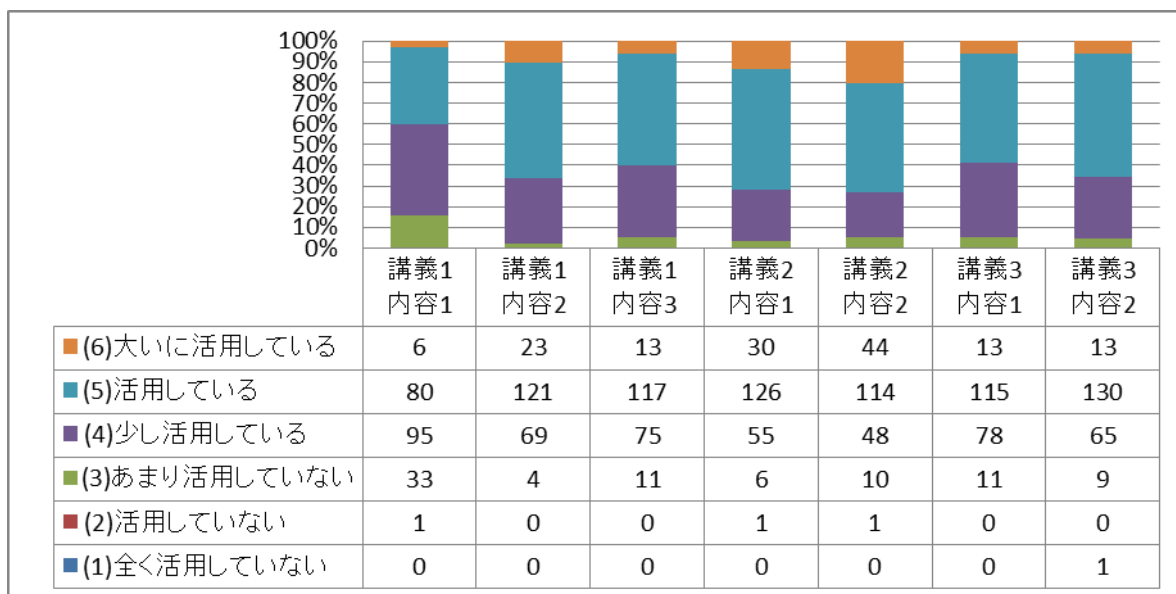


⑤研修会の3ヶ月後の各講義の活用度について

【東京開催】

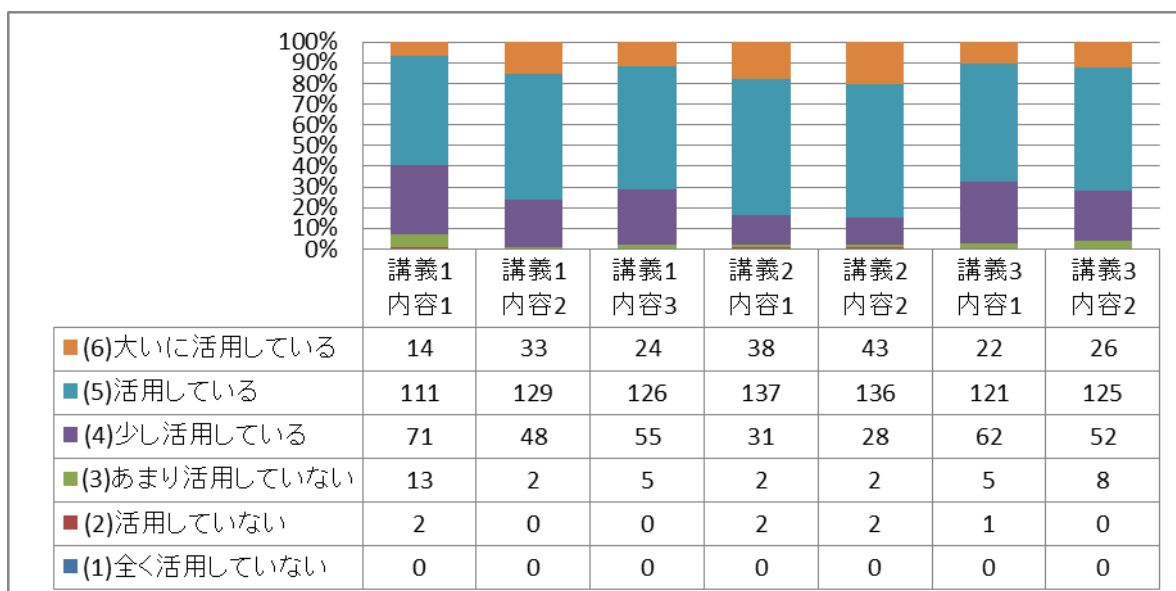
(受講者)

研修会直後の調査では、全ての講義において、活用する側の回答が98%以上となっていたが、3ヶ月後になると、ばらつきがあるものの講義1内容1以外は、活用する側の回答が90%以上となっている。



(保育所長)

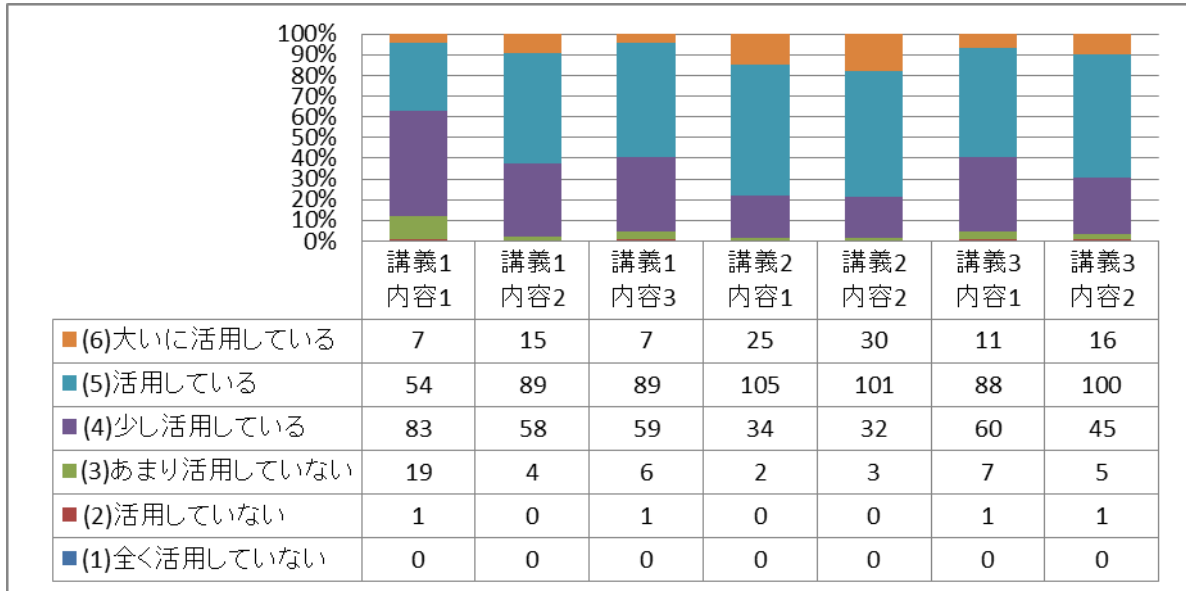
全ての講義内容に対して、活用している側の回答が90%を超えており、研修内容が活かされていることが保育所長からの回答から得られた。



【大阪開催】

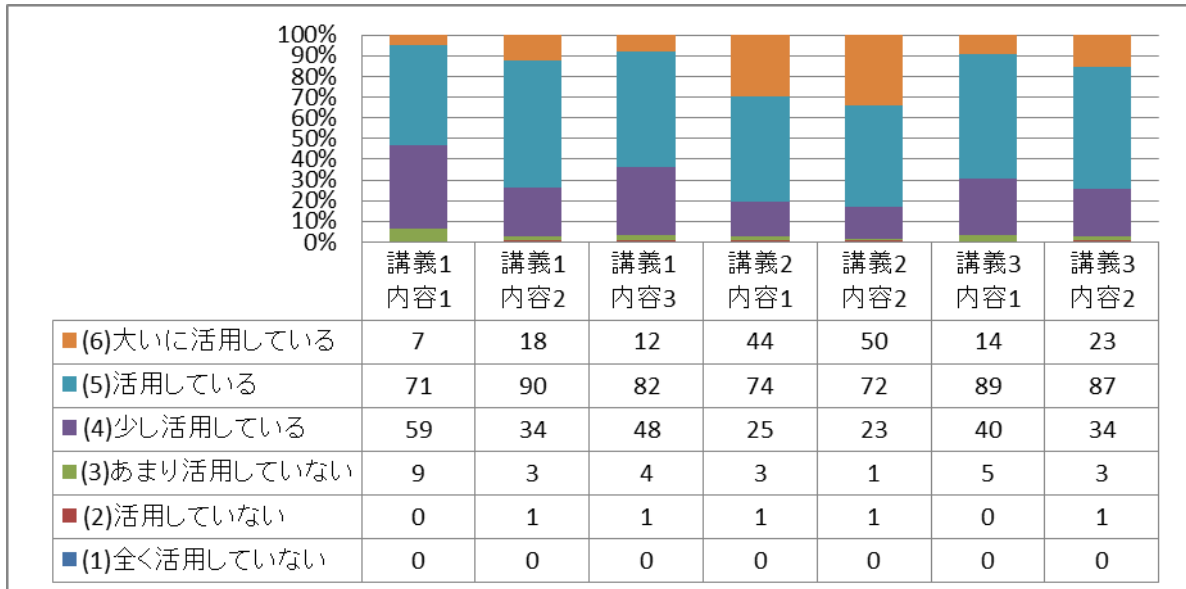
(受講者)

研修会直後の調査では、全ての講義において、活用する側の回答が 98%以上となっていたが、3 ヶ月後になると、ばらつきがあるものの講義 1 内容 1 以外は、活用する側の回答が 95%以上となっている。



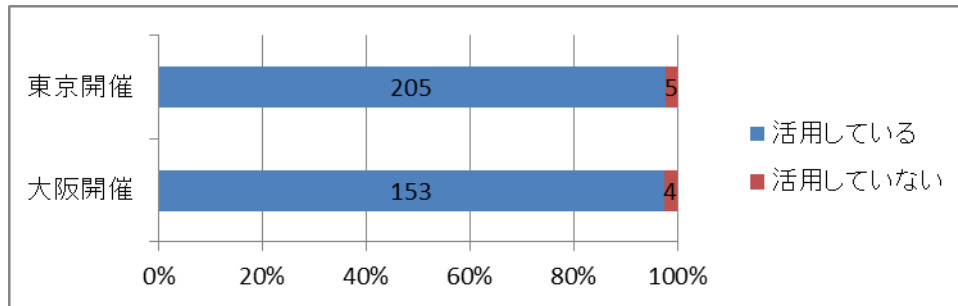
(保育所長)

全ての講義内容に対して、活用している側の回答が 90%を超えており、研修内容が活かされていることが保育所長からの回答から得られた。



⑥研修会の3ヶ月後、全体を通して学んだことを保育所運営・実践に活用しているか。

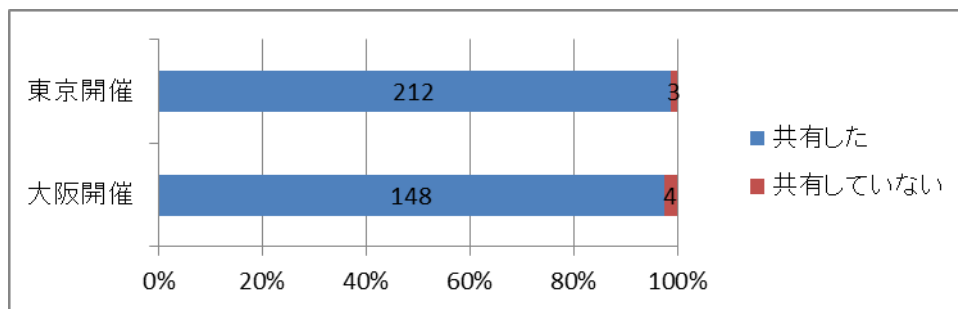
研修会3ヶ月後に「活用している」と回答した方は、東京開催 97.6%、大阪開催 97.5%となっており、ほとんどの受講者が活用していることがわかった。



⑦研修会の3ヶ月後、研修会で学んだ講義・内容を保育所内で共有したか。

1) 保育所内での研修内容の共有について

保育所内での研修内容の共有について、「共有した」と回答したのは、東京開催 98.6%、大阪開催 97.4%となっており、他の保育者・保育所長研修会と比べて多くの保育園で共有されていることがわかった。

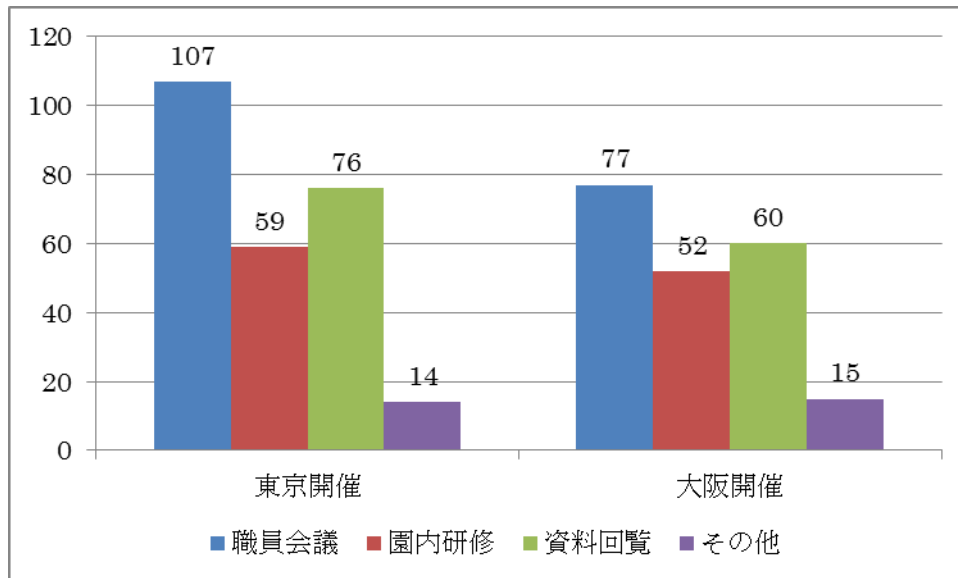


「共有していない」理由については、下記の通りとなっている。理由は様々であるが、「今後に共有する予定」という回答が一番多くあった。次いで、「日常保育や行事等があり、時間が取れないため」の回答が多かった。

理由	個数
今後に共有する予定	2
研修受講者が退職・休職中・異動したため	4
個人研修としてとらえているため	1

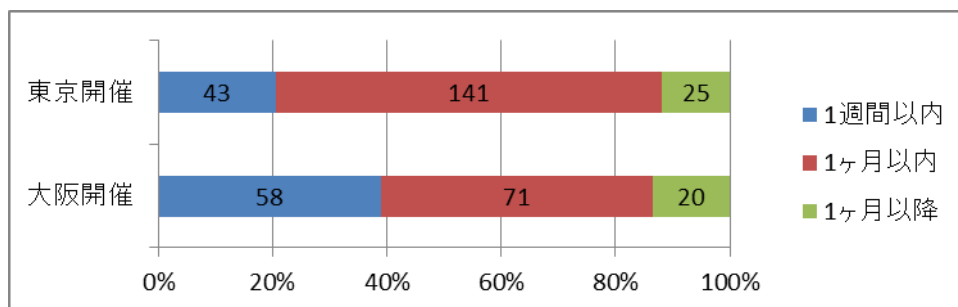
2) 共有の方法について（複数回答可） ※1) で「共有した」と回答の方

共有の方法について、「職員会議」と回答したのは、東京開催 64%、大阪開催 70%となり、「園内研修」と回答したのは、東京開催 46%、大阪開催 39%となり、「資料回覧」と回答したのは、東京開催 50%、大阪開催 39%となり、「その他」と回答したのは、いずれの開催も 9%の回答であった。その他の回答としては、「研修報告書の回覧や会議報告」「市の研修会での発表」「担当クラス会議」「障害児担当者の会議」などが挙げられた。



3) 共有の時期について（※1) で「共有した」と回答の方

共有時期について、「1週間以内」と回答したのは、東京開催 20%、大阪開催 38%となり、「1ヶ月以内」と回答したのは、東京開催 66%、大阪開催 47%となり、「1ヶ月以降」と回答したのは、東京開催 13%、大阪開催 12%であった。大阪開催の受講者は、他の研修会と比べても「1か月以内」に共有した割合が高く、保育園全体で事故予防に取り組もうとする姿勢が見られた。



9. 保育所主任保育士研修会

(1) 目的

- ・最新の保育の動向を理解し、保育所の新しい課題への対応について討議する。
- ・保育所における主任保育士の役割と責務について理解し、保育の質や保育所職員の資質向上のため、保育所の職場づくりと人材の育成に努める。
- ・子どもの発達を保障するために、保育者の専門的役割について理解する。
- ・主任保育士としての保護者の支援と連携について学び、家庭と緊密な連携が図れるよう配慮する。

(2) 対象

- ①保育所の主任保育士 ②主任保育士に準ずる保育士

(3) 研修日程及び場所

定員	期日	研修会場	所在地
300名	平成25年7月17日(水)～19日(金)	御茶ノ水ソラシティ	東京都千代田区駿河台4-6
300名	平成25年7月31日(水)～8月2日(金)	千里阪急ホテル	大阪府豊中市新千里東町2-1
300名	平成26年1月8日(水)～10日(金)	御茶ノ水ソラシティ	東京都千代田区駿河台4-6
300名	平成26年1月22日(水)～24日(金)	千里阪急ホテル	大阪府豊中市新千里東町2-1

(4) 研修内容

研修科目	研修内容	方法・時間	講師名
1. 保育制度の動向と保育所における主任保育士の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・保育制度の動向 ・保育所における主任保育士の役割と責務 ・保育所の安全管理 	講義・討議 3時間	厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課 保育指導専門官 馬場 耕一郎
2. 保育所における人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所の人材育成 ・保育所の職場づくりと職員の連携 ・園内研修の考え方と実践 ・保育士の資質の向上のための手法 	講義・討議 6時間	【東京開催①・大阪開催②】 玉川大学 准教授 大豆生田 啓友 【大阪開催①・東京開催②】 大妻女子大学 教授 岡 健
3. 保護者の支援と連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所における保護者の支援 ・保育所における保護者との連携 	講義・討議 3時間	【東京開催①・大阪開催①】 NPO 法人 ハンズオン! 埼玉 常務理事／恵泉女学園大学 特任准教授 西川 正 【東京開催②・大阪開催②】 武蔵大学 教授 武田 信子

研修科目	研修内容	方法・時間	講師名
4. 子どもの発達保障と保育者	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達を踏まえた保育実践 保育者論 	講義・討議 3時間	【東京開催①・大阪開催①】 帝塚山大学 准教授 西村 真実 【東京開催②・大阪開催②】 東京家政大学ナースリールーム 主任 井桁 容子

(5) 受講者の内訳

		東京開催①	大阪開催①	東京開催②	大阪開催②
受講者数(申込者数)		388名(500名)	368名(434名)	362名(411名)	244名(255名)
年齢	平均年齢(標準偏差)	44.3歳(8.4)	50.3歳(9.9)	43.5歳(9.0)	45.3歳(8.7)
	範囲	23～60歳	23～76歳	24～68歳	23～70歳
性別	男性	8(2.2%)	145(35.2%)	14(2.3%)	6(2.5%)
	女性	354(97.8%)	267(64.8%)	348(96.1%)	238(97.5%)
運営主体	公営	116(32.0%)	60(14.6%)	56(15.5%)	70(28.7%)
	民営	246(68.0%)	352(85.4%)	306(84.5%)	174(71.3%)
現職	主任	280(77.3%)	5(1.1%)	232(64.1%)	164(67.2%)
	副主任	26(7.2%)	5(1.1%)	41(11.3%)	18(7.4%)
	リーダー	35(9.7%)	12(2.7%)	54(14.9%)	34(13.9%)
	その他	21(5.8%)	38(8.6%)	35(9.7%)	28(11.5%)
主任 経験年数	平均年数(標準偏差)	3.2年(4.2)	0.5年(0.7)	3.3年(5.2)	3.3年(4.3)
	範囲	0～25年	0～5年	0～40年	0～30年
保育士 経験年数	平均年数(標準偏差)	20.1年(9.1)	9.6年(7.8)	17.8年(9.2)	20.6年(9.5)
	範囲	0～40年	0～38年	0～40年	0～47年

(6) 事前レポート

研修会の一環として、日々の保育実践の振り返りや課題の整理、研修会の学びを深めることを目的に、受講者全員に対して課題を出し、事前レポートを提出いただいた。

課題テーマは、研修4科目の中から、受講者が「今、一番学びたい科目」を選び、その科目を「選んだ理由」となっており、原稿用紙400字以内にまとめていただいた。

(7) 研修活用調査の結果

調査の実施については、研修会の直後と3ヶ月後に実施した調査結果となっている。

調査票の回収数については、下記の通り。

	前期 東京開催①	前期 大阪開催①	後期 東京開催②	後期 大阪開催②
受講者数	388名	368名	362名	244名
研修会直後調査回収数 (%)	361(98.2%)	357(97.0%)	352(97.2%)	242(99.2%)
【受講者】3ヶ月後調査回収数 (%)	274名(70.6%)	258(70.1%)	264(72.9%)	182(74.6%)
【所長】3ヶ月後調査回収数 (%)	269名(69.3%)	249(67.7%)	254(70.2%)	170(69.7%)

①各講義の理解度・活用度の単純平均値・標準偏差について

理解度は、(1)全く理解していない・(2)理解していない、(3)あまり理解していない、(4)少し理解している、(5)理解している、(6)完全に理解している、の6段階の評価となっている。

活用度について、研修会直後は、(1)活用しない、(2)あまり活用しない、(3)少し活用する、(4)大いに活用する、の4段階の評価となっているが、3ヶ月後では、(1)全く活用しない、(2)活用しない、(3)あまり活用しない、(4)少し活用する、(5)活用する、(6)大いに活用する、の6段階の評価となっている。

【前期・東京開催①】

研修科目	研修内容	理解度		活用度		
		【受講者】 講義後 (標準偏差)	【受講者】 3ヶ月後 (標準偏差)	【受講者】 講義後 (標準偏差)	【受講者】 3ヶ月後 (標準偏差)	【所長】 3ヶ月後 (標準偏差)
講義1 保育制度の動向 と保育所における 主任保育士の 役割	保育制度の動向		4.3 (0.6)		3.7 (0.9)	3.9 (1.0)
	保育所における主任 保育士の役割と責務	4.4 (0.6)	4.8 (0.5)	3.3 (0.6)	4.5 (0.8)	4.8 (0.8)
	保育所の安全管理		4.8 (0.5)		4.6 (0.7)	4.8 (0.8)
講義2 保育所における 人材育成	保育所の人材育成		4.8 (0.5)		4.6 (0.7)	4.6 (0.9)
	保育所の職場づくりと 職員の連携	4.8 (0.5)	4.9 (0.5)	3.6 (0.5)	4.7 (0.7)	4.7 (0.8)
	園内研修の考え方と 実践		4.6 (0.6)		4.3 (0.9)	4.5 (0.9)
	保育士の資質の向上 のための手法		4.5 (0.6)		4.3 (0.7)	4.5 (0.9)

研修科目	研修内容	理解度		活用度		
		【受講者】 講義後 (標準偏差)	【受講者】 3ヶ月後 (標準偏差)	【受講者】 講義後 (標準偏差)	【受講者】 3ヶ月後 (標準偏差)	【所長】 3ヶ月後 (標準偏差)
講義3 保護者の支援と 連携	保育所における保護 者の支援	4.6 (0.6)	4.8 (0.6)	3.3 (0.6)	4.5 (0.8)	4.7 (0.8)
	保育所における保護 者との連携		4.8 (0.7)		4.5 (0.8)	4.7 (0.9)
講義4 子どもの発達保 障と保育者	子どもの発達を踏ま えた保育実践	4.5 (0.8)	4.7 (0.5)	3.3 (0.7)	4.5 (0.7)	4.7 (0.8)
	保育者論		4.4 (0.5)		4.1 (0.8)	4.2 (0.9)

【前期・大阪開催①】

講義1 保育制度の動 向と保育所 における主任保 育士の役割	保育制度の動向	4.6 (0.6)	4.2 (0.6)	3.4 (0.6)	3.5 (0.9)	3.7 (1.0)
	保育所における主任 保育士の役割と責務		4.8 (0.5)		4.4 (0.7)	4.7 (0.8)
	保育所の安全管理		4.8 (0.5)		4.5 (0.7)	4.7 (0.8)
講義2 保育所におけ る人材育成	保育所の人材育成	4.7 (0.6)	4.7 (0.6)	3.6 (0.6)	4.3 (0.8)	4.5 (0.8)
	保育所の職場づくりと 職員の連携		4.8 (0.5)		4.5 (0.7)	4.7 (0.8)
	園内研修の考え方と 実践		4.6 (0.6)		4.2 (0.9)	4.5 (1.0)
	保育士の資質の向上 のための手法		4.4 (0.6)		4.2 (0.7)	4.4 (0.8)
講義3 保護者の支援 と連携	保育所における保護 者の支援	4.8 (0.5)	4.7 (0.5)	3.6 (0.5)	4.4 (0.8)	4.5 (0.8)
	保育所における保護 者との連携		4.4 (0.6)		4 (0.8)	4.1 (0.9)
講義4 子どもの発達保 障と保育者	子どもの発達を踏ま えた保育実践	4.6 (0.6)	4.7 (0.5)	3.5 (0.5)	4.4 (0.8)	4.5 (0.8)
	保育者論		4.7 (0.5)		4.4 (0.8)	4.5 (0.8)

【後期・東京開催②】

研修科目	研修内容	理解度		活用度		
		【受講者】 講義後 (標準偏差)	【受講者】 3ヶ月後 (標準偏差)	【受講者】 講義後 (標準偏差)	【受講者】 3ヶ月後 (標準偏差)	【所長】 3ヶ月後 (標準偏差)
講義1 保育制度の動向と保育所における主任保育士の役割	保育制度の動向	4.4 (0.6)	4.2 (0.6)	3.3 (0.6)	3.6 (0.8)	3.9 (1.0)
	保育所における主任保育士の役割と責務		4.7 (0.6)		4.3 (0.8)	4.7 (1.0)
	保育所の安全管理		4.7 (0.5)		4.5 (0.7)	4.7 (0.9)
講義2 保育所における人材育成	保育所の人材育成	4.4 (0.6)	4.7 (0.5)	3.4 (0.6)	4.5 (0.7)	4.7 (0.9)
	保育所の職場づくりと職員の連携		4.4 (0.7)		4.1 (0.8)	4.4 (0.9)
	園内研修の考え方と実践		4.7 (0.6)		4.5 (0.7)	4.7 (0.9)
	保育士の資質の向上のための手法		4.7 (0.6)		4.5 (0.7)	4.7 (0.9)
講義3 保護者の支援と連携	保育所における保護者の支援	4.8 (0.6)	4.6 (0.6)	3.6 (0.6)	4.2 (0.8)	4.5 (1.0)
	保育所における保護者との連携		4.7 (0.6)		4.4 (0.7)	4.6 (0.9)
講義4 子どもの発達保障と保育者	子どもの発達を踏まえた保育実践	4.6 (0.6)	4.5 (0.6)	3.5 (0.6)	4.2 (0.9)	4.4 (1.0)
	保育者論		4.4 (0.6)		4.2 (0.8)	4.5 (1.0)

【後期・大阪開催②】

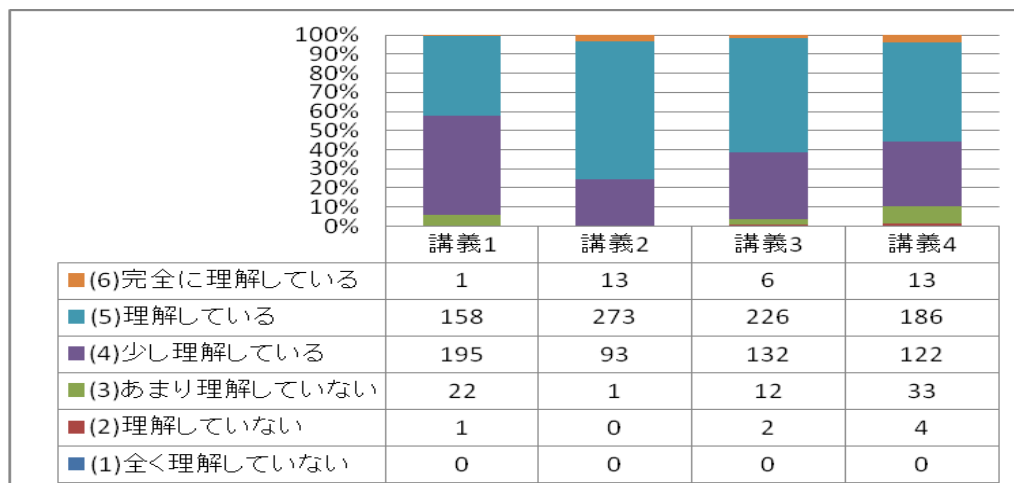
講義1 保育制度の動向と保育所における主任保育士の役割	保育制度の動向	4.8 (0.6)	4.2 (0.6)	3.5 (0.6)	3.5 (0.9)	3.9 (0.9)
	保育所における主任保育士の役割と責務		4.8 (0.5)		4.4 (0.8)	4.8 (0.8)
	保育所の安全管理		4.8 (0.5)		4.5 (0.7)	4.8 (0.7)

研修科目	研修内容	理解度		活用度		
		【受講者】 講義後 (標準偏差)	【受講者】 3ヶ月後 (標準偏差)	【受講者】 講義後 (標準偏差)	【受講者】 3ヶ月後 (標準偏差)	【所長】 3ヶ月後 (標準偏差)
講義2 保育所における 人材育成	保育所の人材育成	5.1 (0.5)	4.8 (0.5)	3.8 (0.4)	4.6 (0.7)	4.8 (0.8)
	保育所の職場づくりと 職員の連携		4.5 (0.6)		4.2 (0.7)	4.4 (0.8)
	園内研修の考え方と 実践		4.8 (0.5)		4.6 (0.7)	4.8 (0.8)
	保育士の資質の向上 のための手法		4.8 (0.5)		4.6 (0.8)	4.7 (0.8)
講義3 保護者の支援 と連携	保育所における保護 者の支援	4.7 (0.6)	4.7 (0.6)	3.6 (0.5)	4.4 (0.8)	4.6 (0.9)
	保育所における保護 者との連携		4.8 (0.5)		4.7 (0.7)	4.8 (0.8)
講義4 子どもの発達 保障と保育者	子どもの発達を踏まえ た保育実践	4.9 (0.6)	4.6 (0.6)	3.7 (0.5)	4.4 (0.8)	4.6 (0.9)
	保育者論		4.5 (0.6)		4.4 (0.7)	4.6 (0.8)

②各講義の受講後の理解度について

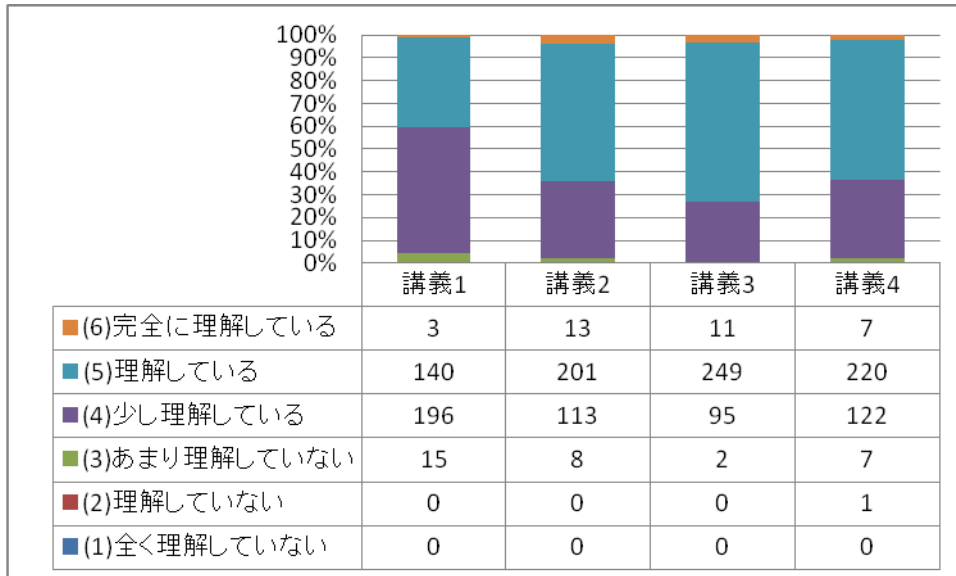
【前期・東京開催①】

全ての講義において、理解している側の回答が89%を超えている。全体的に「理解している」の回答割合が一番多いが、講義1は「少し理解している」の回答が54%であった。行政説明やガイドラインの周知に加え、主任保育士の役割などが内容となり、内容によって理解度にばらつきがあったものと考えられる。上記の内容は、保育者のリーダーである主任保育士が知識として持つべき内容であるため、今後も継続して研修する必要があると考える。



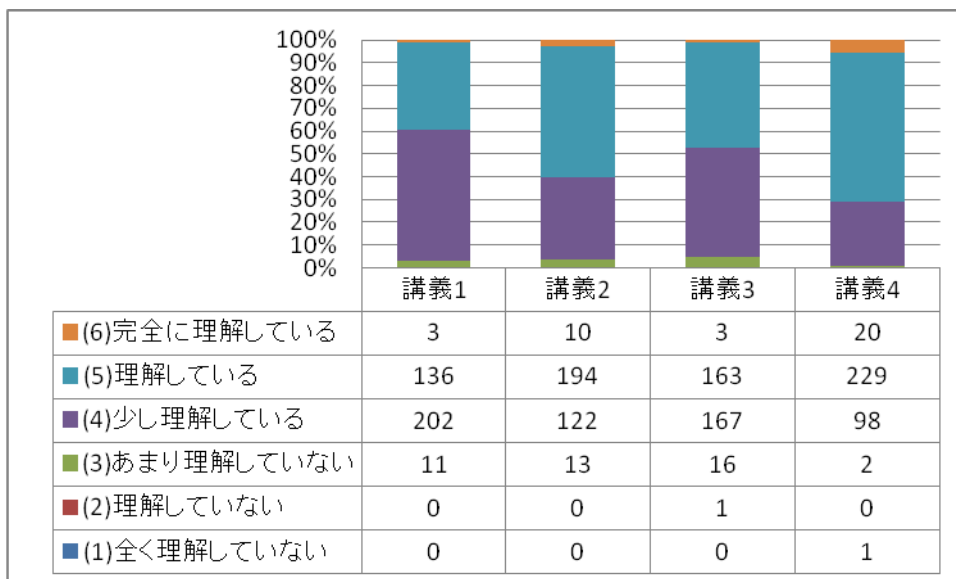
【前期・大阪開催①】

全ての講義において、理解している側の回答が95%を超えている。全体的に「理解している」の回答割合が一番多いが、講義1は「少し理解している」の回答が55%であった。行政説明やガイドラインの周知に加え、主任保育士の役割などが内容となり、内容によって理解度にばらつきがあったものと考えられる。上記の内容は、保育者のリーダーである主任保育士が知識として持つべき内容であるため、今後も継続して研修する必要があると考える。



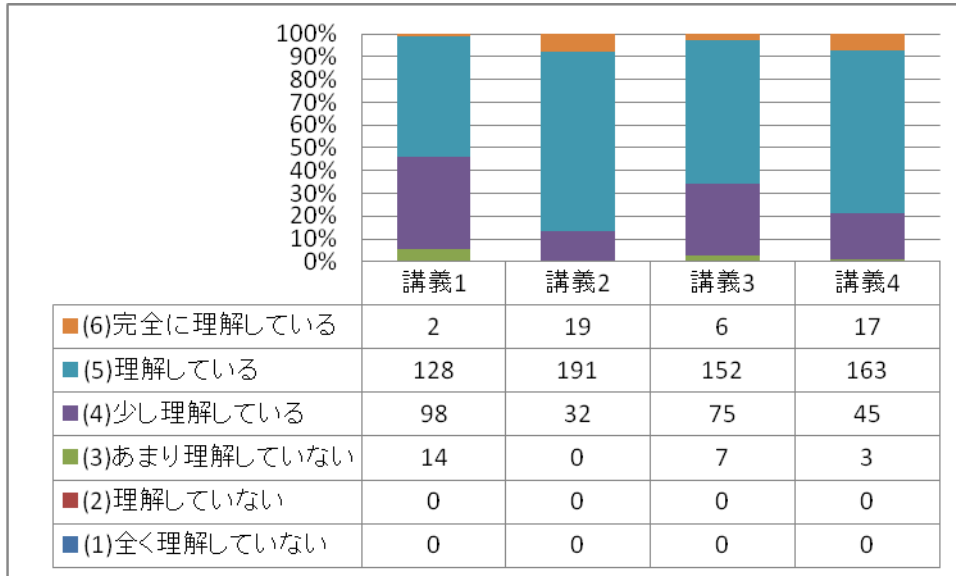
【後期・東京開催②】

全ての講義において、理解している側の回答が95%を超えている。講義2,4は、「理解している」の回答割合が一番高く、55%と65%となっている。一方で、講義1,3は「少し理解している」の回答割合が一番高く、57%と47%であった。行政説明やガイドラインの周知に加え、主任保育士の役割などが内容となり、内容によって理解度にばらつきがあったものと考えられる。上記の内容は、保育者のリーダーである主任保育士が知識として持つべき内容であるため、今後も継続して研修する必要があると考える。



【後期・大阪開催②】

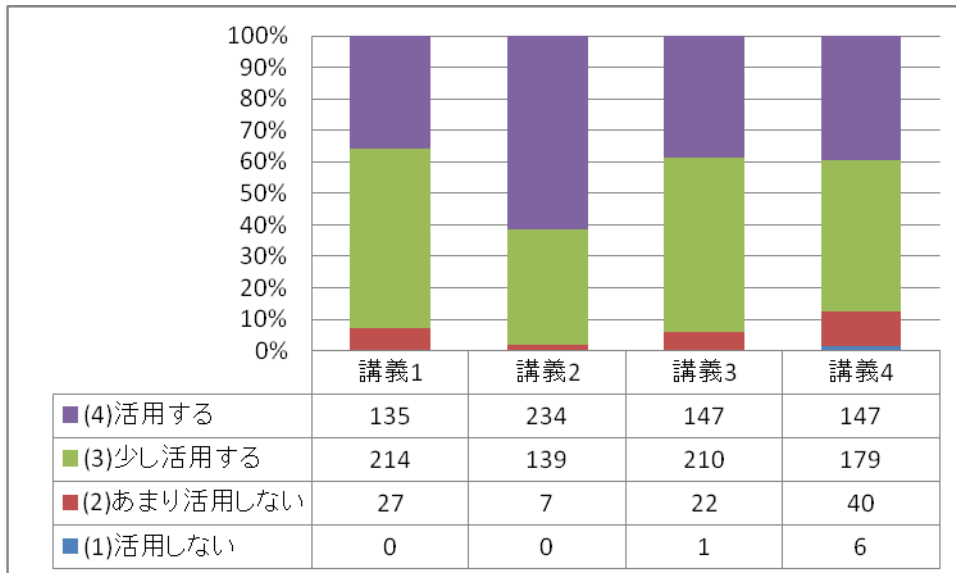
全ての講義において、理解している側の回答が 94%を超えている。他の開催分とは異なり、「理解している」の回答割合が全ての講義で一番高くなっている。特に、講義2は、79%が理解を示している。



③各講義の受講後の活用度について

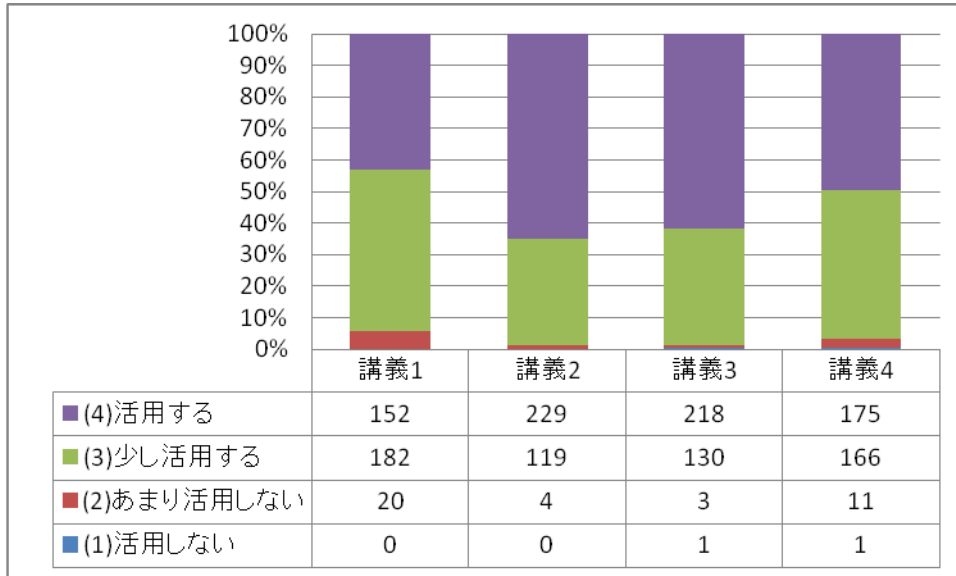
【前期・東京開催①】

全ての講義において、活用する側の回答が 87%を超え、特に、講義2については、保育所の人材育成や職員の連携と職場づくり」園内研修など具体的な内容であったため、「活用する」の回答が約 65%となっている。



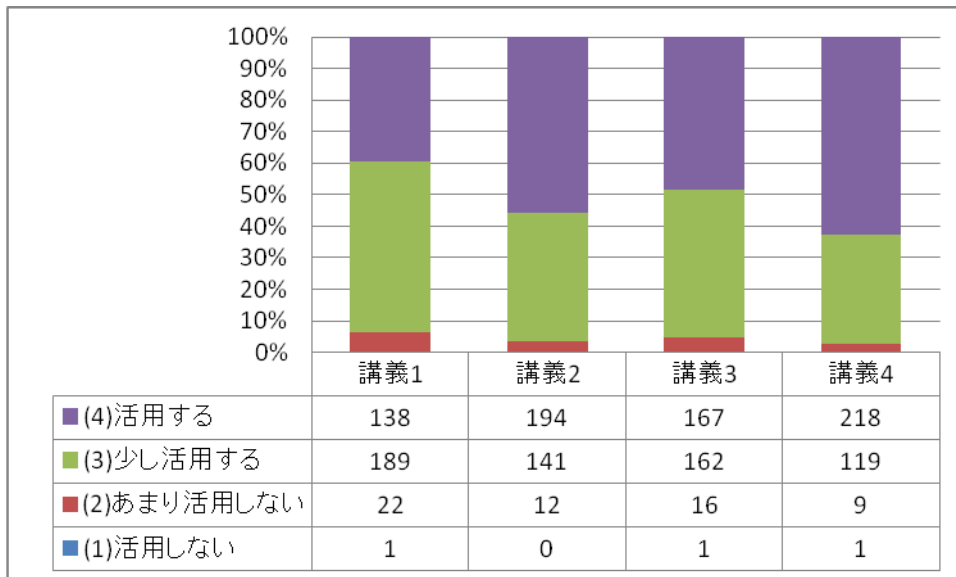
【前期・大坂開催①】

全ての講義において、活用する側の回答が94%を超えている。講2～4については、49～64%と幅があるものの「活用する」の回答割合が一番高くなっている。



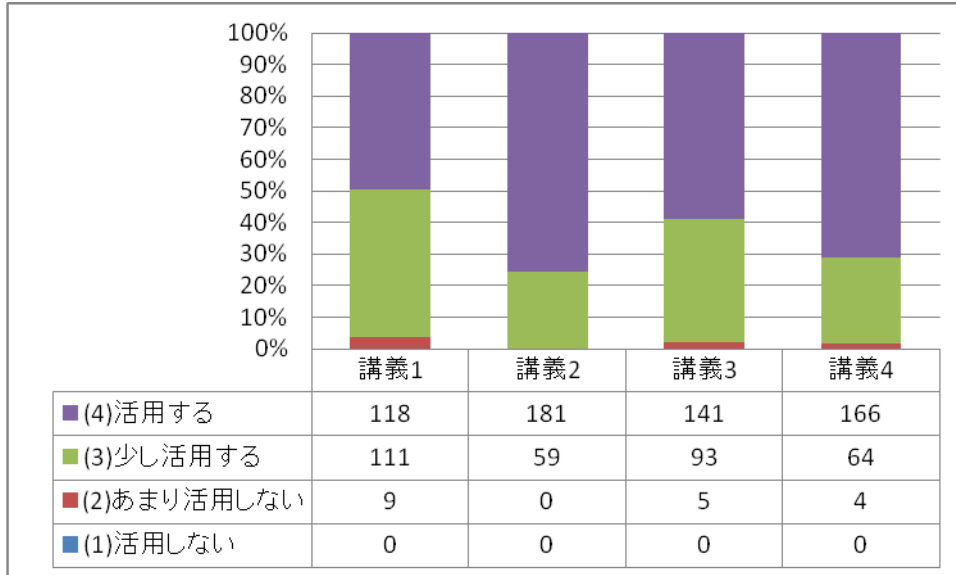
【後期・東京開催②】

全ての講義において、活用する側の回答が93%を超えている。



【後期・大阪開催②】

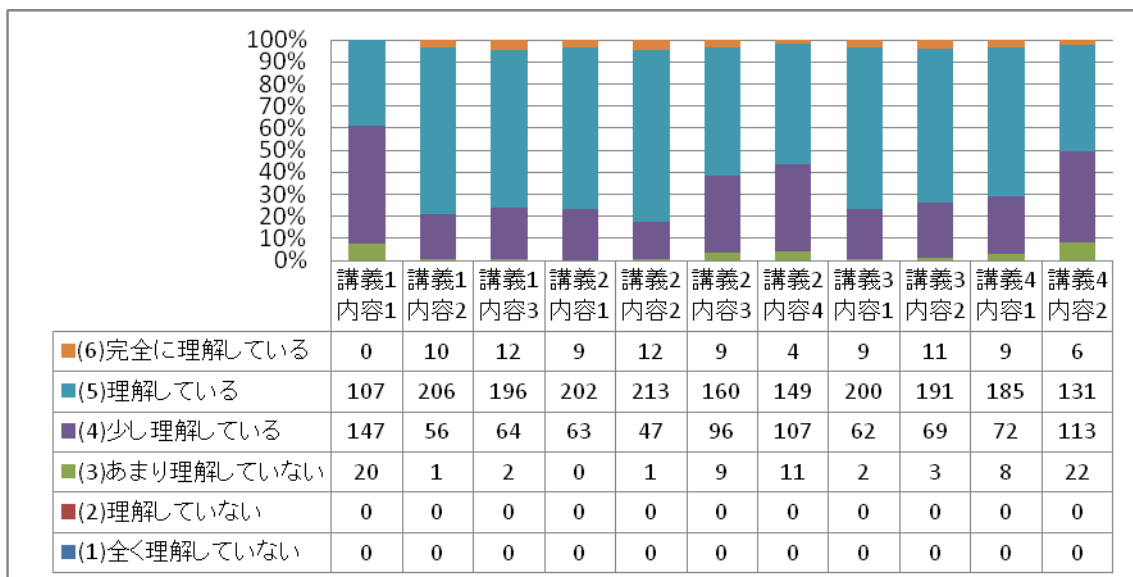
全ての講義において、活用する側の回答が96%を超え、かつ、「活用する」の回答が49～79%と幅があるものの回答割合が一番高くなっている。



④研修会の3ヶ月後の各講義の理解度について

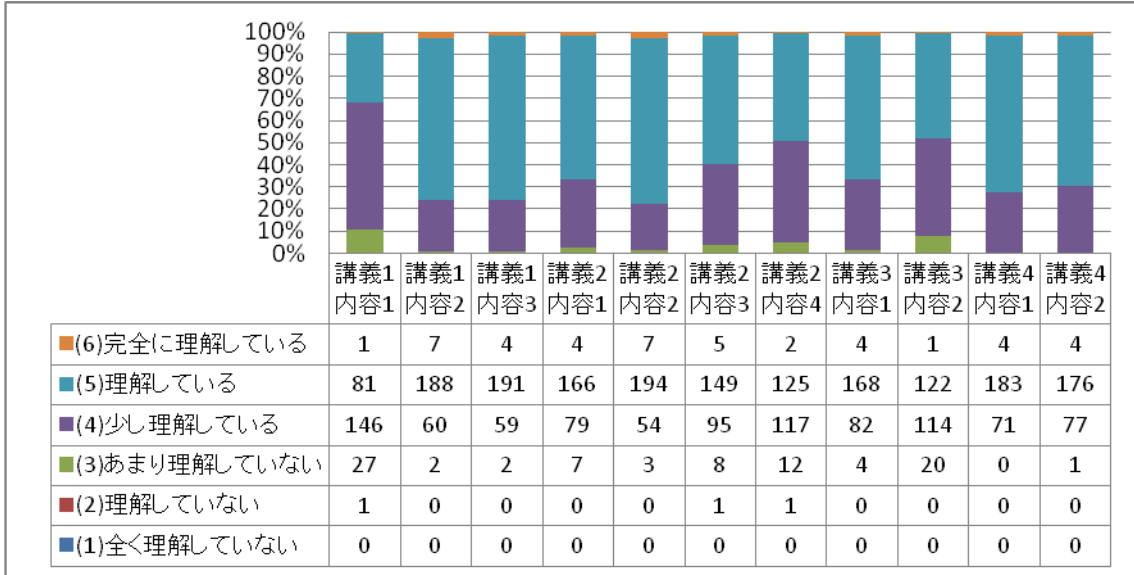
【前期・東京開催①】

3ヶ月後の調査では、各講義の内容ごとに理解度を示している。結果としては、講義2～4においては「完全に理解している」「理解している」「少し理解している」の回答が92%以上となっている。全体的に、「理解している」の回答割合が一番高いが、講義1の内容1のみ「少し理解している」の割合が一番多く約52%となっている。内容としては、保育制度の動向についての内容となり、研修会直後の理解度と同様だが、内容2,3については、研修会の3ヶ月後になって理解度が深まっている。



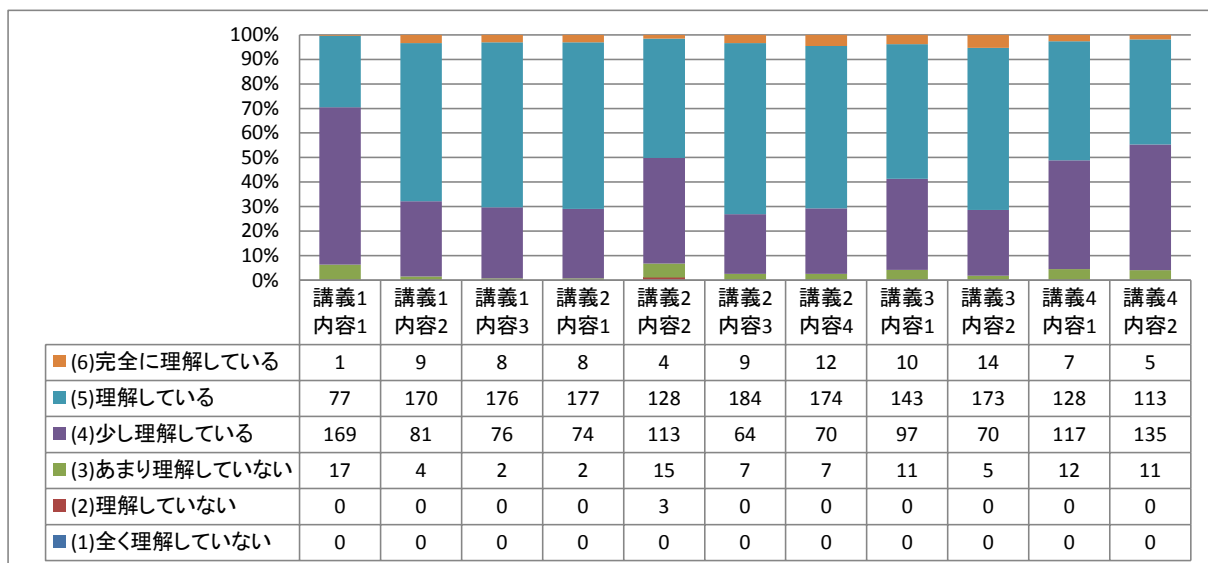
【前期・大阪開催①】

3 か月後の調査では、各講義の内容ごとに理解度を示している。結果としては、講義 2～4 においては「完全に理解している」「理解している」「少し理解している」の回答が 89%以上となっている。全体的に、「理解している」の回答割合が一番高いが、講義 1 の内容 1 のみ「少し理解している」の割合が一番多く 57%となっている。内容としては、保育制度の動向についての内容となり、研修会直後の理解度とほぼ同様だが、内容 2,3 については、研修会の 3 ヶ月後になって理解度が深まっている。



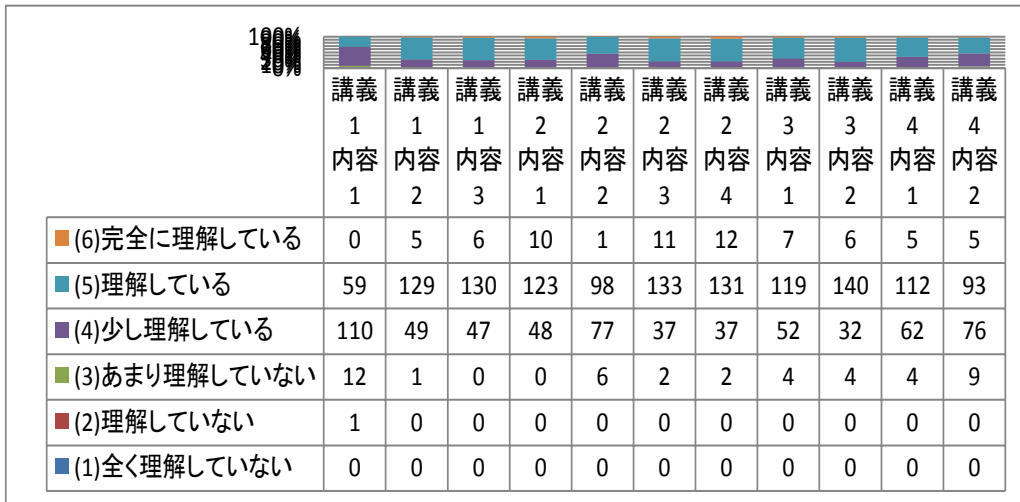
【後期・東京開催②】

3 か月後の調査では、各講義の内容ごとに理解度を示している。結果としては、講義 2～4 においては「完全に理解している」「理解している」「少し理解している」の回答が 92%以上となっている。全体的に、「理解している」の回答割合が一番高いが、講義 1 の内容 1 のみ「少し理解している」の割合が一番多く 62%となっている。内容としては、保育制度の動向についての内容となり、研修会直後の理解度とほぼ同様だが、内容 2,3 については、研修会の 3 ヶ月後になって理解度が深まっている。



【後期・大阪開催②】

3 か月後の調査では、各講義の内容ごとに理解度を示している。結果としては、講義 2～4 においては「完全に理解している」「理解している」「少し理解している」の回答が 96%以上となっている。全体的に、「理解している」の回答割合が一番高いが、講義 1 の内容 1 のみ「少し理解している」の割合が一番多く 55%となっている。内容としては、保育制度の動向についての内容となり、研修会直後の理解度とほぼ同様だが、内容 2,3 については、研修会の 3 ヶ月後になって理解度が深まっている。

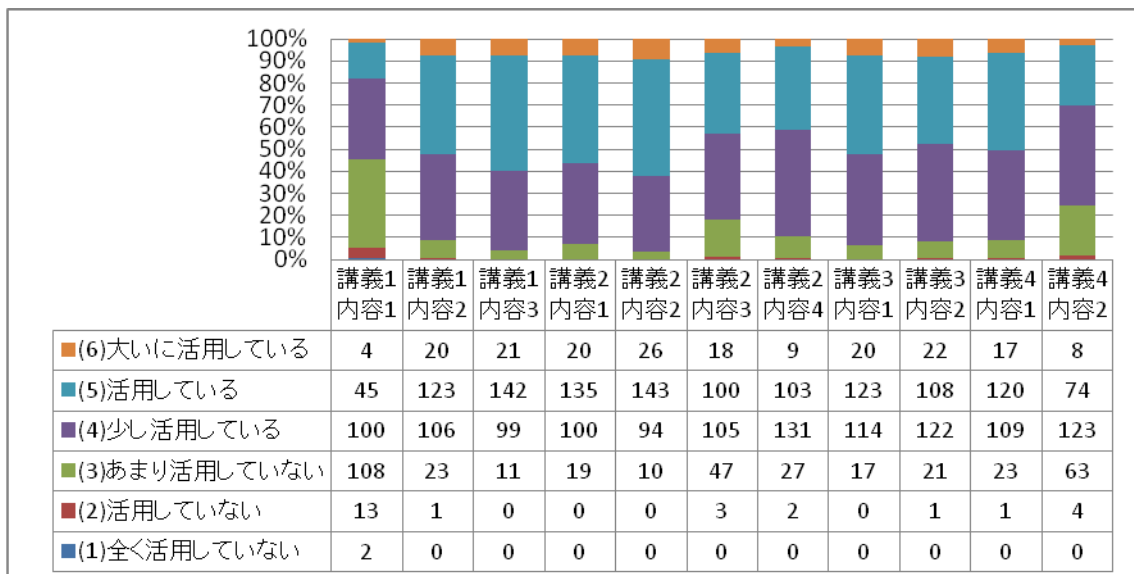


⑤研修会の3ヶ月後の各講義の活用度について

【前期・東京開催①】

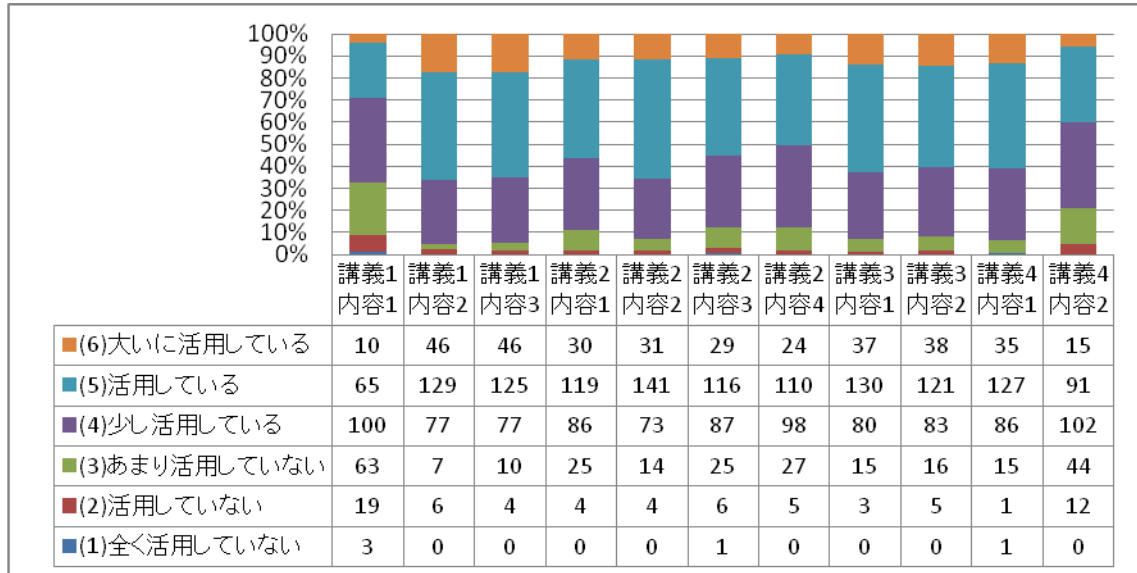
(受講者)

3 か月後の調査では、各講義の内容ごとに活用度を示している。全体的に活用する側の回答が 75～96%となっているが、講義 1 の内容 1 は、「あまり活用していない」の回答が 45%となっている。保育制度の動向についての内容のため、知識として得ても活用しづらい面があったと考えられる。



(保育所長)

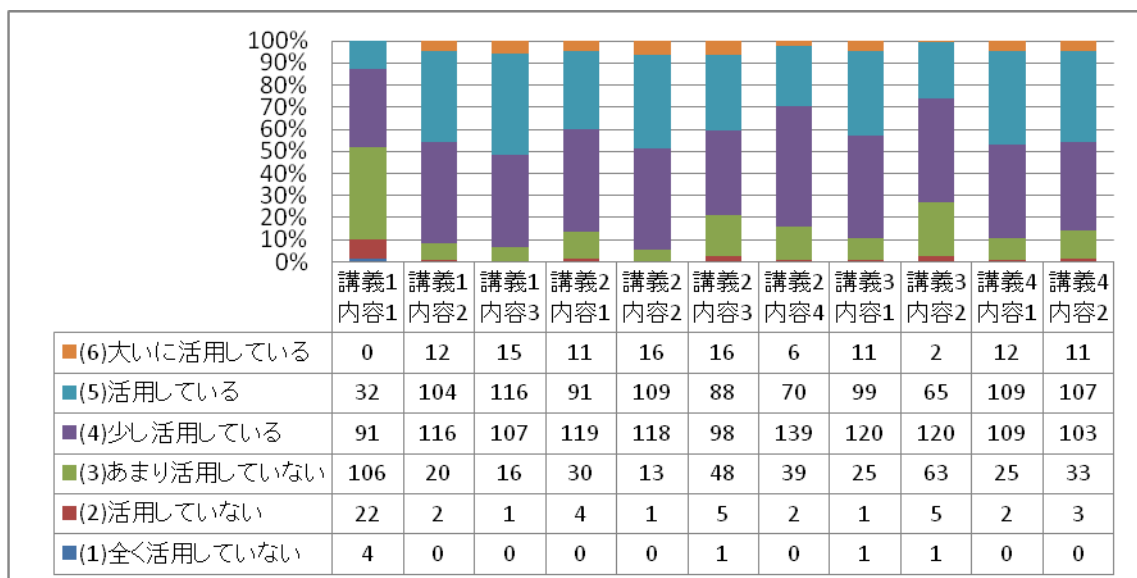
全体的に活用する側の回答が 80%以上となり、受講者の回答よりも「大いに活用している」の割合が高く、4～17%となっている。講義 1 の内容 1 については、活用していない側の回答が 32%となっている。保育制度の動向についての内容のため、知識として得ても活用しづらい面があったと考えられる。



【前期・大阪開催①】

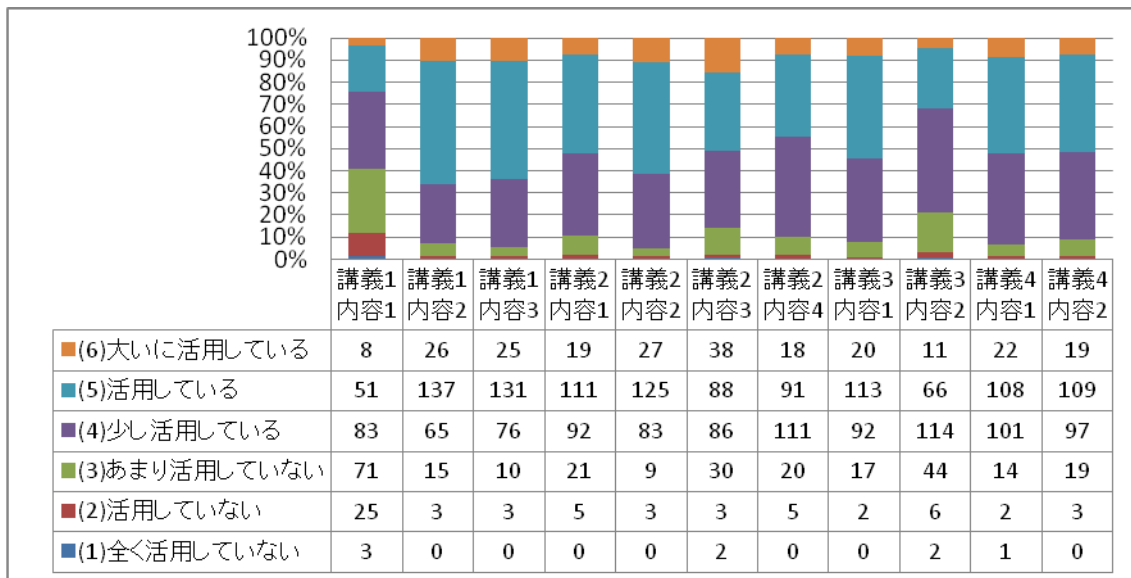
(受講者)

3 か月後の調査では、各講義の内容ごとに活用度を示している。全体的に活用する側の回答が 73～93%となっているが、講義 1 の内容 1 は、「あまり活用していない」の回答割合が高く 41%となっている。保育制度の動向についての内容のため、知識として得ても活用しづらい面があったと考えられる。



（保育所長）

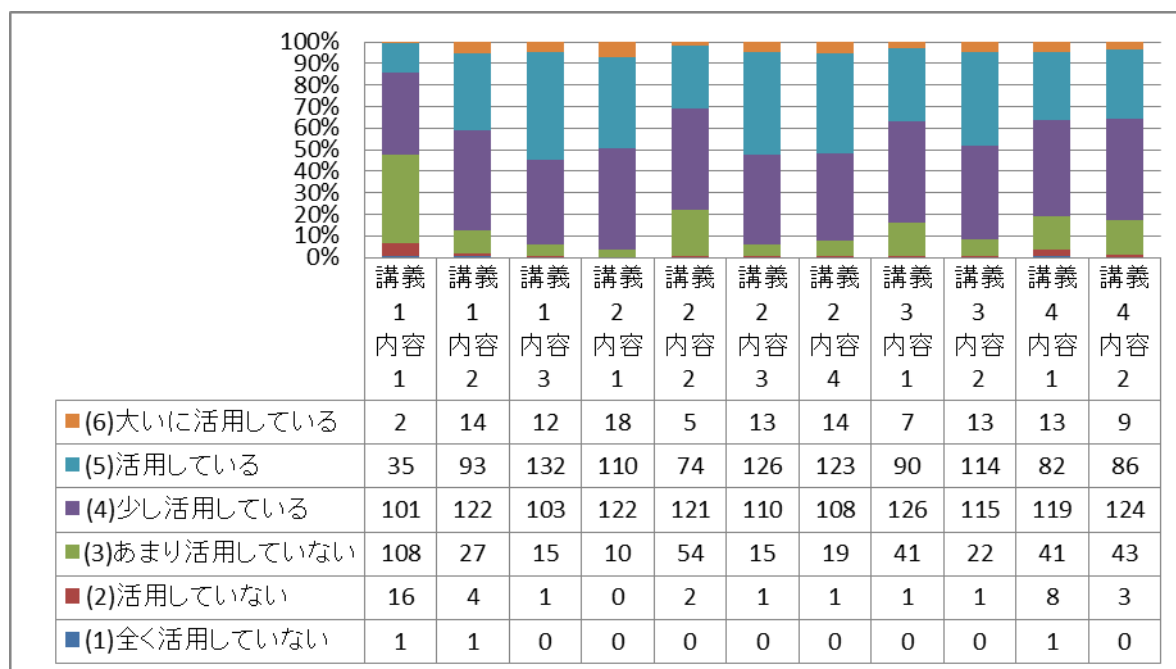
全体的に活用する側の回答が 80%以上となり、受講者の回答よりも「大いに活用している」の割合が高く、4～17%となっている。講義 1 の内容 1 については、活用していない側の回答が 40%となっている。保育制度の動向についての内容のため、知識として得ても活用しづらい面があったと考えられる。



【後期・東京開催②】

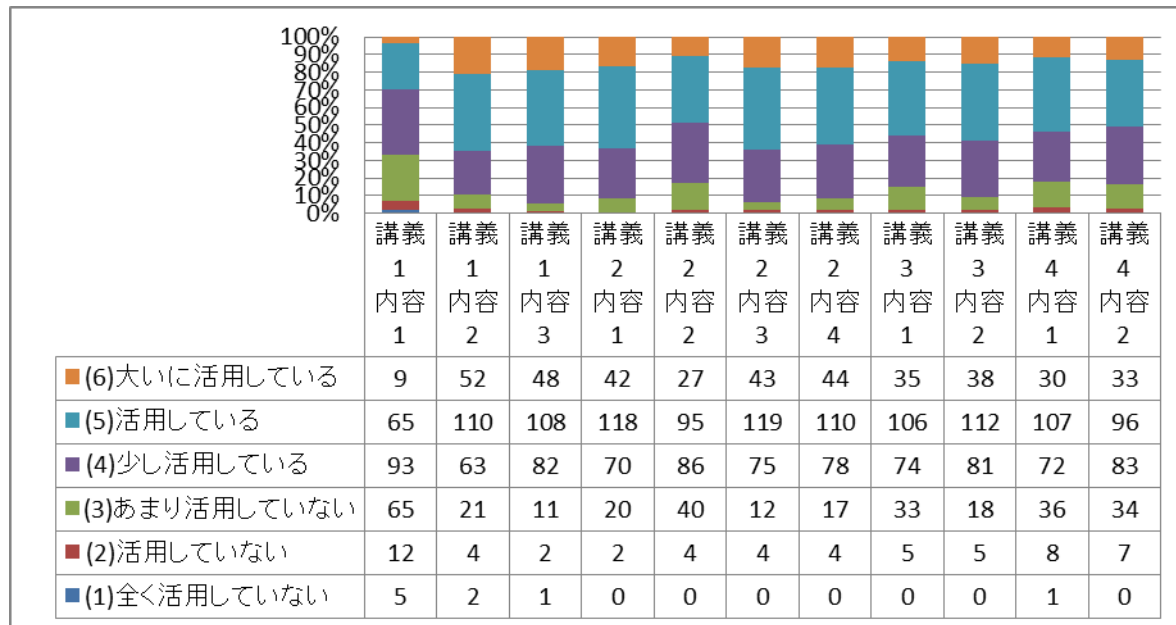
（受講者）

3 か月後の調査では、各講義の内容ごとに活用度を示している。全体的に活用する側の回答が 78～95%となっているが、講義 1 の内容 1 は、「あまり活用していない」の回答割合が高く 40%となっている。保育制度の動向についての内容のため、知識として得ても活用しづらい面があったと考えられる。



（保育所長）

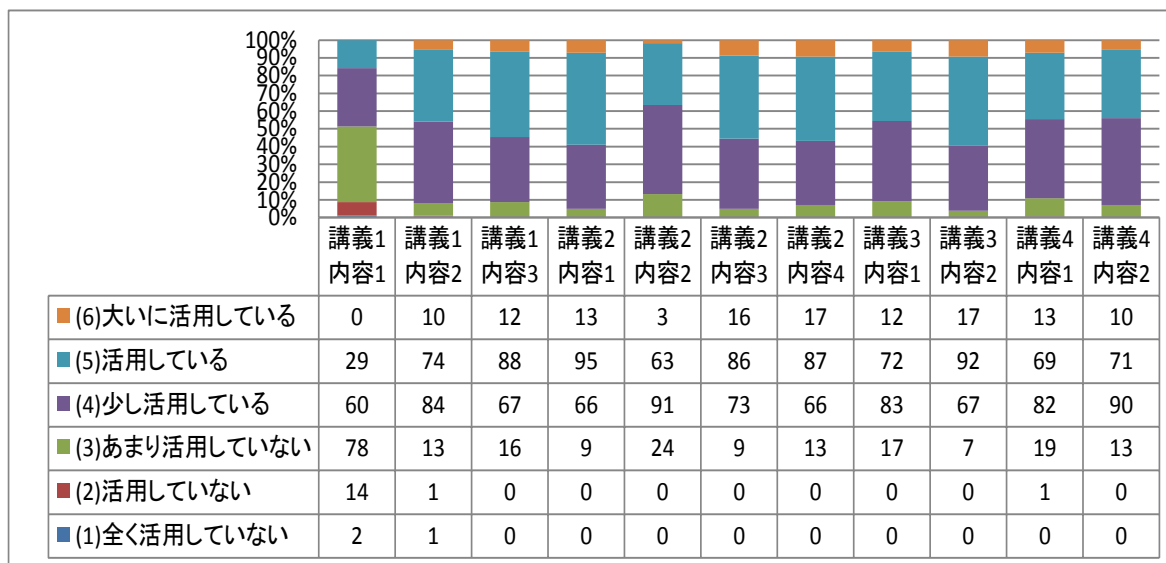
全体的に活用する側の回答が 80%以上となり、受講者の回答よりも「大いに活用している」の割合が高い傾向があった。講義1の内容1については、活用していない側の回答が32%となっている。保育制度の動向についての内容のため、知識として得ても活用しづらい面があったと考えられる。



【後期・大阪開催②】

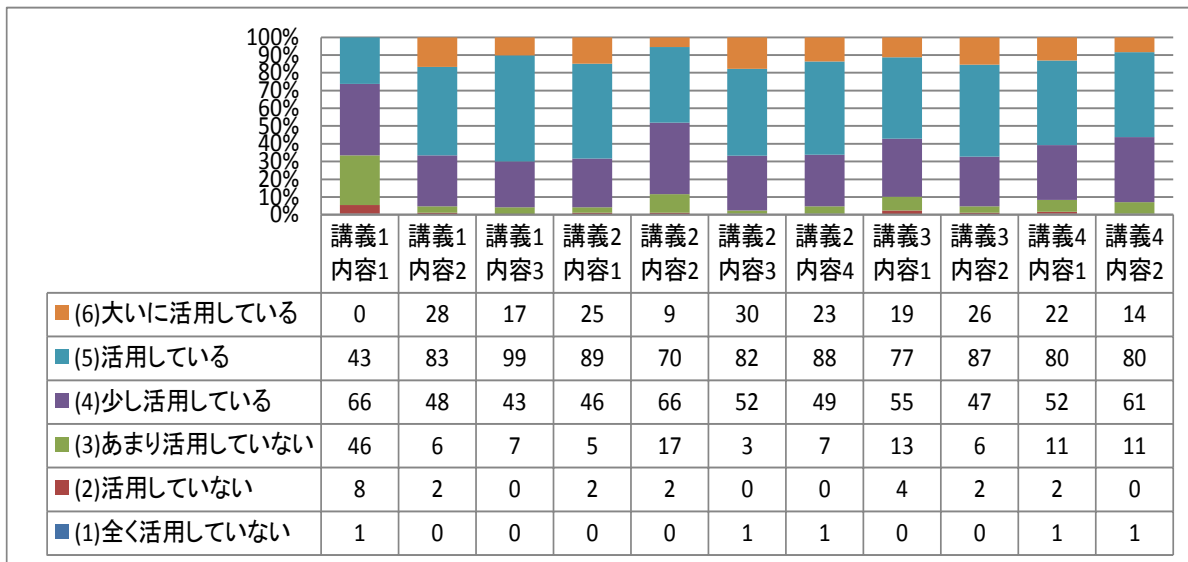
（受講者）

3か月後の調査では、各講義の内容ごとに活用度を示している。全体的に活用する側の回答が 86～95%となっているが、講義1の内容1は、「あまり活用していない」の回答割合が高く42%となっている。保育制度の動向についての内容のため、知識として得ても活用しづらい面があったと考えられる。



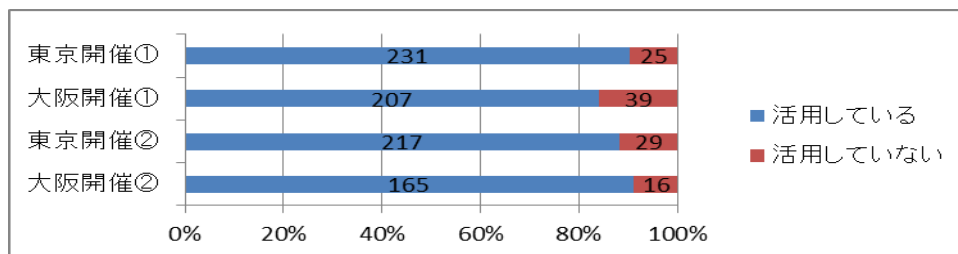
（保育所長）

全体的に活用する側の回答が 87%以上となり、受講者の回答よりも「大いに活用している」の割合が高い傾向があった。講義1の内容1については、活用していない側の回答が32%となっている。保育制度の動向についての内容のため、知識として得ても活用しづらい面があったと考えられる。



⑥研修会の3ヶ月後、全体を通して学んだことを保育所運営・実践に活用しているか。

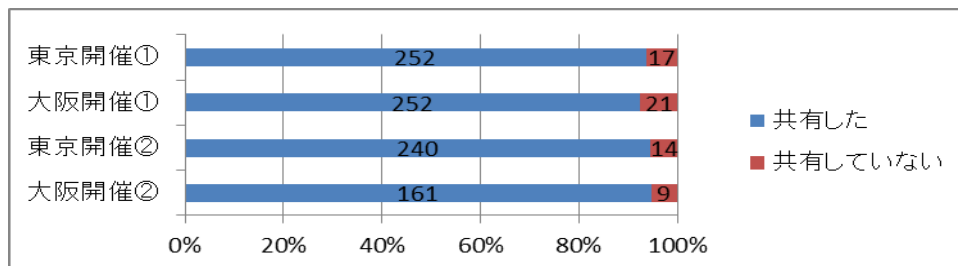
研修会3ヶ月後に「活用している」と回答した方は、84%以上となっており、ほとんどの保育園で研修の学びが活用されているといえる。



⑦研修会の3ヶ月後、研修会で学んだ講義・内容を保育所内で共有したか。

1) 保育所内での研修内容の共有について

保育所内での研修内容の共有について、「共有した」と回答したのは、9割を超えており、保育園内で共有されていることがわかった。

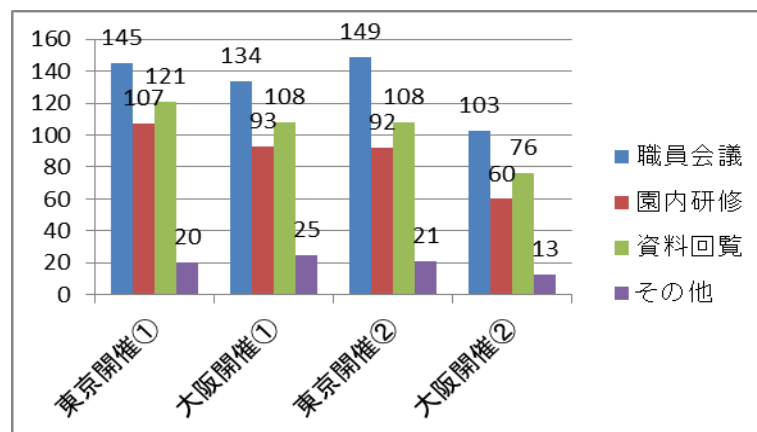


少数の回答ではあるが、「共有していない」理由については、下記の通りとなっている。理由は様々であるが、「今後に共有する予定」という回答が一番多くあった。次いで、「日常保育や行事等があり、時間が取れないため」の回答が多かった。

理由	個数
今後に共有する予定	14
日常保育や行事等があり、時間が取れないため	13
主任保育士特有の内容のため、管理職のみで共有	4
園内研修計画に入れておらず、かつ時間が取れないため	2
園長の判断で実施していない	2
現在、主任のフォローをしており、個人研修のため	2
研修は自ら受講すべきだから	1
受講した職員の家庭内事情のため	1
'特に参考になるものが無かったため	1
無記入	15

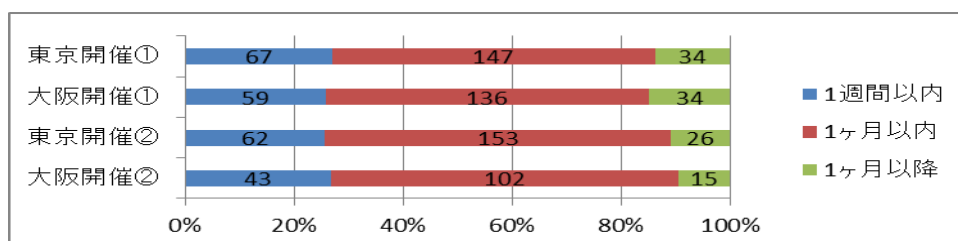
2) 共有の方法について（複数回答可） ※上記で「共有した」と回答の方

共有の方法については、「職員会議」「資料回覧」「園内研修」の順に多く回答があった。もっとも時間が使われていると考えられる「園内研修」は4割程度となっている。「その他」と回答したのは、1割前後いるが、「研修報告書の回覧や会議報告」「市の研修会での発表」「担当クラス会議」「管理職間の会議」「朝礼報告」「復命書の回覧」などが挙げられた。



3) 共有の時期について（※1）で「共有した」と回答の方

共有時期について、「1週間以内」と回答したのは、25%前後となり、「1ヶ月以内」の回答が最も多く7割近くとなっている。



調査票の書式

【研修会直後の調査票】※保育所乳児保育研修会を参考

受講番号 No.

平成 25 年度 保育所乳児保育担当者研修会（東京開催） 研修活用調査票

このアンケートは、保育所保育士研修等事業の質を高めるため、受講者の皆さまにご協力をいただき、ご提出をお願いしています。なお、受講番号を書き添えていただきますが、受講者の評価には関係しません。アンケートは統計的に分析します。答えていただいた方にご迷惑をおかけしないよう、細心の注意を払います。思った通りにお答え下さい。よろしくお願いいたします。

1. 各講義の内容について、現在、どの程度理解していますか。該当する数字に○をつけてください。また、最も印象に残っている内容について、右の欄にご記入ください。

	全く理解していない	理解していない	あまり理解していない	少し理解している	理解している	完全に理解している	☆印象に残っている内容をお書き下さい。
1. 乳児保育の意義 清水希子先生（帝京大学）	1	2	3	4	5	6	
2. 乳幼児期の心の発達と保育者の役割 青木紀久代先生（お茶の水女子大学）	1	2	3	4	5	6	
3. 保護者の支援と連携 岩井久美子先生（まちの保育園・六本木）	1	2	3	4	5	6	
4. 乳児の育ちと記録 大方美香先生（大阪総合保育大学大学院）	1	2	3	4	5	6	
5. 乳児保育の環境構成と遊び 高山静子先生（東洋大学）	1	2	3	4	5	6	

2. 各講義の内容について、どの程度活用すると思いますか。該当する数字に○をつけてください。また、その数字を選んだ理由について右の欄にご記入ください。

	全く活用しない	活用しない	あまり活用しない	少し活用する	活用する	大いに活用する	☆左の数字を選んだ理由についてお書き下さい。
1. 乳児保育の意義 清水希子先生（帝京大学）	1	2	3	4	5	6	
2. 乳幼児期の心の発達と保育者の役割 青木紀久代先生（お茶の水女子大学）	1	2	3	4	5	6	
3. 保護者の支援と連携 岩井久美子先生（まちの保育園・六本木）	1	2	3	4	5	6	
4. 乳児の育ちと記録 大方美香先生（大阪総合保育大学大学院）	1	2	3	4	5	6	
5. 乳児保育の環境構成と遊び 高山静子先生（東洋大学）	1	2	3	4	5	6	

「保育所乳児保育担当者研修会」以外の研修会では、6段階ではなく、4段階で回答いただいている。

3. 今後、乳児保育担当者研修会を開催するにあたり、以下のことにお答えください。

(1) 乳児保育に関して、ご自身の保育園での課題や改善したい点など、理由も含めてお聞かせください。

課題・改善点：

上記の理由：

(2) 保育関係全般について、今後取り上げるべきとお考えのテーマ、ぜひ講演を聞いてみたいと思う講師（所属含む）などがいらっしゃいましたら、皆さまのアイデアをお聞かせください。

テーマ：

講師名：

所属：

(3) 今回の研修会の運営（事務局スタッフの対応、受付、昼食など）について、ご意見などがございましたらお書きください。

(4) その他、ご意見などがございましたら、どんなことでもお書きください。

ご協力ありがとうございました！

【研修会期間中において、研修会 3 ヶ月後の調査依頼書の配付】※保育所乳児保育研修会を参考

平成 25 年 6 月 7 日

保育所乳児保育担当者研修会受講者 各位

社会福祉法人 日本保育協会
研 修 部

平成 25 年度 保育所乳児保育担当者研修会（東京開催）
研修活用調査へのご協力について（依頼）

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたびは平成 25 年度 保育所乳児保育担当者研修会（東京開催）にご参加をいただき、たいへんありがとうございました。

本研修会では、最終日に研修活用調査のお願いをいたしました。平成 25 年度は全ての研修会において、研修をご受講された皆様は研修会終了の 3 か月後に本研修会をどう理解し、保育園並びに受講者個人でどう活用されたか（あるいは活用されなかったか）についての、「研修活用調査」を実施することといたしました。次年度の研修内容の検討や研修講師の振り返りの資料として、さらなる研修内容の充実に活用させていただきたいと考えています。

つきましては、本研修会終了後の 3 か月後に貴園あてに調査用紙を 2 通（保育園長様あて・受講者様あて、各 A4 用紙 1 枚程度）郵送いたしますので、ご多用のところたいへん恐縮ですが、その際には保育園長様並びに受講者様にご協力、ご回答くださいますようお願い申し上げます。

詳細につきましては、「研修活用調査」送付の際にご案内をいたしますが、調査では受講番号をお伺いしますので、お控えくださいますようお願いをいたします。その他、何かご不明な点がございましたら、下記担当者までお問い合わせください。

記

【問い合わせ先】

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-1

社会福祉法人日本保育協会 研修課 加藤・佐藤・今井

【E-mail】kensyu@nippo.or.jp 【電 話】03-3486-4420（研修部直通）

【研修会3ヶ月後の調査依頼書・調査票】※保育所乳児保育研修会を参考

平成25年10月16日

保育所乳児保育担当者研修会受講者 様
保育所長 様

社会福祉法人 日本保育協会
研 修 部

平成25年度 保育所乳児保育担当者研修会（東京開催）
「研修活用調査（3ヶ月後）」へのご協力について（依頼）

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

過日は、平成25年度 保育所乳児保育担当者研修会をご受講いただき、誠にありがとうございました。

標題について、日本保育協会では、研修会をご受講された皆さまが約3か月後に研修内容をどの程度理解し、『受講者個人』や『保育所』でどの程度活用されたかについての「研修活用調査」を、研修事業の一環として実施しています。

つきましては、ご多用のところ誠に恐縮ですが、下記の要領により本調査にご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。なお、調査結果は次年度の研修内容の検討や研修講師の振り返りの資料、研修事業の委託元である厚生労働省、関係団体、関係学会への報告の資料とし、研修内容のさらなる充実のために活用させていただきます。その他、ご不明な点がございましたら担当者までお問い合わせください。

記

1. 送付内容について

- (1) 送付状
- (2) 研修活用調査票 受講者用 1部 保育所長用 1部
- (3) 返信用封筒 2部（受講者用1部・保育所長用1部）

※1) 返信用封筒2部は、同じフォーマット（書式）です。

※2) 同封されていないものがございましたらお手数ですが担当者までご連絡ください。

2. 研修活用調査票の記入要領

- (1) 「受講者用」の調査票は、本研修会の受講者ご自身がご記入ください。
「保育所長用」の調査票は、受講者勤務先の保育所長がご記入ください。
- (2) データはすべて統計的に処理し、受講者及び保育所の特定や評価はいたしません。
- (3) 調査票への回答は、該当の番号に○印、該当の箇所に☑、または記述式でご記入ください。

3. 調査票の返送について

「受講者用」「保育所長用」の調査票を記入者ご自身で封筒に入れて、平成25年11月1日（金）
必着で日本保育協会までご返送ください。

以上

【問い合わせ先・担当者】

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-1

社会福祉法人日本保育協会 研修課 加藤・佐藤・今井

【E-mail】 kensyu@nippo.or.jp 【電 話】 03-3486-4420（研修部直通）

(受講者用)

【受講者用】

受講番号 No.

平成 25 年度 保育所乳児保育担当者研修会（東京開催）
活用調査票【3ヶ月後】

「平成 25 年度 保育所乳児保育担当者研修会(東京開催)」(平成 25 年 6 月 5～7 日に開催)にご参加いただき、ありがとうございました。この活用調査票は、保育所保育士研修等事業の質を高めるため、受講者の皆さまにご協力をいただき、当研修会から約3ヶ月経った現時点での状況について、ご記入及びご提出をお願いしています。

すでに受講№を記載しておりますが、全て統計的に処理し、受講者及び保育園の個別の評価はいたしません。何かとお忙しいことと存じますが、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

1. 各講義の内容について、現在、どの程度理解していますか。該当する数字に○をつけてください。

		全く 理解していない	理解していない	あまり 理解していない	少し 理解している	理解している	完全に 理解している
1	a	1	2	3	4	5	6
	b	1	2	3	4	5	6
2	c	1	2	3	4	5	6
	d	1	2	3	4	5	6
3	e	1	2	3	4	5	6
	f	1	2	3	4	5	6
4	g	1	2	3	4	5	6
	h	1	2	3	4	5	6
5	i	1	2	3	4	5	6
	j	1	2	3	4	5	6

2. 各講義の内容を、現在、保育実践に活用していますか。該当する数字に○をつけてください。

		全く 活用していない	活用していない	あまり 活用していない	少し 活用している	活用している	大いに 活用している
1	a	1	2	3	4	5	6
	b	1	2	3	4	5	6
2	c	1	2	3	4	5	6
	d	1	2	3	4	5	6
3	e	1	2	3	4	5	6
	f	1	2	3	4	5	6
4	g	1	2	3	4	5	6
	h	1	2	3	4	5	6
5	i	1	2	3	4	5	6
	j	1	2	3	4	5	6

裏面もご記入ください!

3. 研修会全体を通して学んだことを、保育実践に活用していますか。「活用している」方は、具体例をお書きください。「活用していない」方は、活用していない理由をお書きください。

活用している

活用していない

【活用の具体例／活用していない理由】

ご協力ありがとうございました！

(保育所長用)

【保育所長用】

受講番号 No.

平成 25 年度 保育所乳児保育担当者研修会（東京開催）
活用調査票【3カ月後】

「平成 25 年度 保育所乳児保育担当者研修会(東京開催)」(平成 25 年 6 月 5～7 日に開催)に保育所職員を派遣いただき、ありがとうございました。この活用調査票は、保育所保育士研修等事業の質を高めるため、受講者及び保育所長の皆さまにご協力をいただき、当研修会から約3ヶ月経った現時点での状況について、ご記入及びご提出をお願いしています。

すでに受講Noを記載しておりますが、全て統計的に処理し、受講者及び保育園の個別の評価はいたしません。何かとお忙しいことと存じますが、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

1. 貴保育所での研修会内容の共有方法にお聞きします。では、研修会を受講された保育者の方と研修内容について、共有する機会がありましたか。

①保育所内で、研修内容を共有しましたか？

- 共有した ⇒ 下記の設問②③について、ご回答ください。
 共有していない ⇒ 共有していない理由を下記のカッコ内にお書きください。

{

②「①」の設問に対して「共有した」とお答えの方にお伺いします。保育所内で研修内容をどのように共有されましたか？該当事項がない場合は、「その他」のカッコ内にお書きください。

- 職員会議 園内研修 資料の回覧
 その他 {

③「①」の設問に対して「共有した」とお答えの方にお伺いします。保育所内で研修内容を共有されたのは、研修会終了後どのくらいの時期ですか？

- 1週間以内 1カ月以内 1カ月以降

2. 当研修会を受講した職員の現在の保育についてお聞きします。当研修会での各講義の内容をどの程度保育に活用していると思えますか。下記のそれぞれの項目について、該当する数字に○をつけてください。保育所長の判断でお答えください。

			活用していない	活用していない	活用していない	活用している	活用している	大いに活用している
1	a	乳児保育の意義と社会的役割	1	2	3	4	5	6
	b	子どもの最善の利益	1	2	3	4	5	6
2	c	乳幼児期の心の発達を理解	1	2	3	4	5	6
	d	子どもの心の発達における保育者の役割	1	2	3	4	5	6
3	e	乳児保育における保護者との連携	1	2	3	4	5	6
	f	乳児保育における保護者の支援	1	2	3	4	5	6
4	g	乳児期の子どもの育ち	1	2	3	4	5	6
	h	乳児の個々の発達を踏まえた記録の作成	1	2	3	4	5	6
5	i	乳児期における保育室の環境構成	1	2	3	4	5	6
	j	乳児の遊びの意義と保育者のかかわり	1	2	3	4	5	6

ご協力ありがとうございました！

参考資料（平成24・25年度 受講者数）

（ ）内は24年度

研修会名		開催地	公営	民営	合計
保育所長研修会	中堅所長	東京都 (東京都)	45名 (52名)	70名 (111名)	115名 (163名)
	初任所長	東京都 大阪府 (東京都 大阪府)	119名 (137名)	562名 (531名)	681名 (668名)
	初任所長(就任予定者)	東京都 東京都	13名 (20名)	358名 (358名)	371名 (378名)
合計			177名 (209名)	990名 (1000名)	1167名 (1209名)

保育所乳児保育担当者研修会	東京都 大阪府 (東京都 大阪府)	101名 (121名)	671名 (676名)	772名 (797名)
保育所障害児保育担当者研修会	東京都 大阪府 (東京都 大阪府)	142名 (115名)	350名 (316名)	492名 (431名)
保育所保護者支援研修会 (旧: 保育所地域子育て支援担当者研修会)	東京都 (東京都)	93名 (74名)	309名 (234名)	402名 (308名)
保幼小連携研修会 (旧: 幼児期の教育研修会)	東京都 (東京都)	36名 (37名)	163名 (218名)	199名 (255名)
保育所事故予防研修会	東京都 大阪府 (東京都 大阪府)	175名 (116名)	395名 (391名)	570名 (507名)

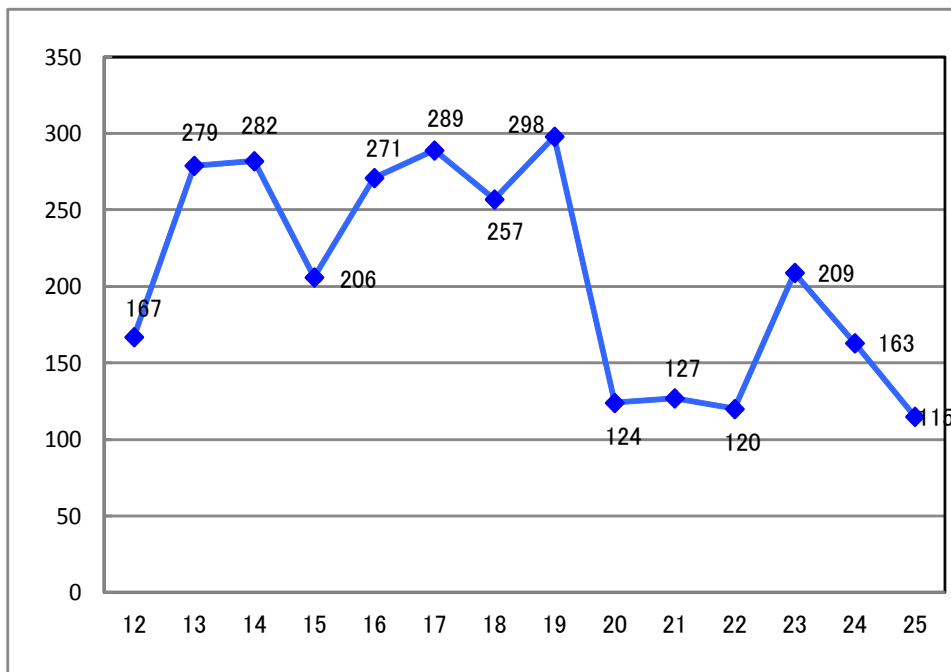
主任保育士研修会		開催地	公営	民営	合計
東京開催①	東京都 (東京都)	64名 (65名)	324名 (220名)	388名 (285名)	
東京開催②	東京都 (東京都)	56名 (44名)	306名 (250名)	362名 (294名)	
大阪開催①	大阪府 (大阪府)	117名 (82名)	251名 (226名)	368名 (308名)	
大阪開催②	大阪府 (大阪府)	71名 (48名)	173名 (126名)	244名 (174名)	
合計			308名 (239名)	1054名 (822名)	1362名 (1061名)

研修会総数	1032名 (911名)	3932名 (3657名)	4964名 (4568名)
-------	-----------------	------------------	------------------

研修会受講者数の推移

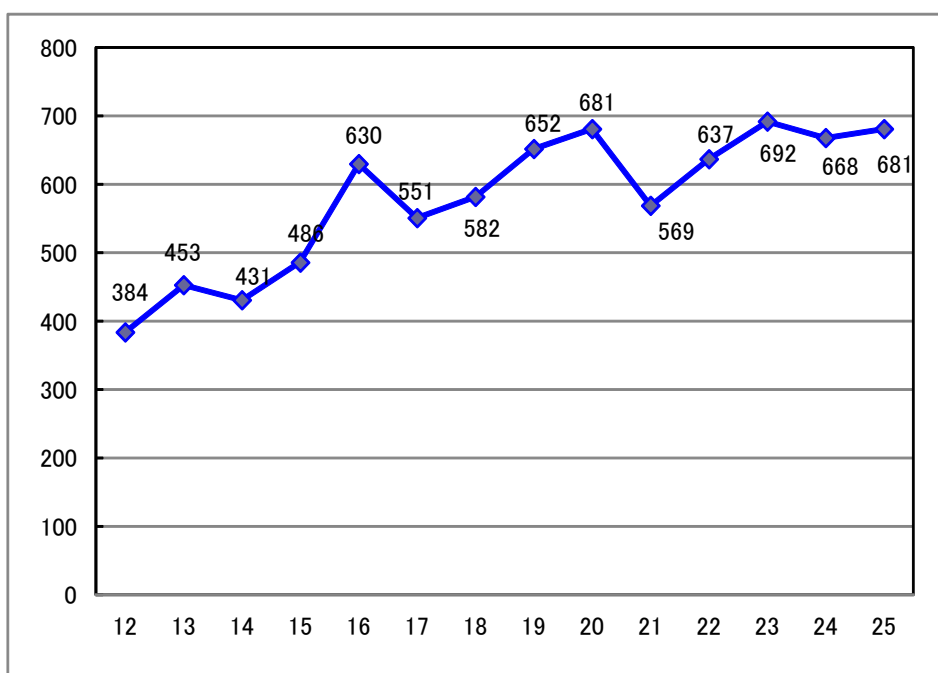
保育所中堅保育所長研修会

年度	受講者数
12	167
13	279
14	282
15	206
16	271
17	289
18	257
19	298
20	124
21	127
22	120
23	209
24	163
25	115



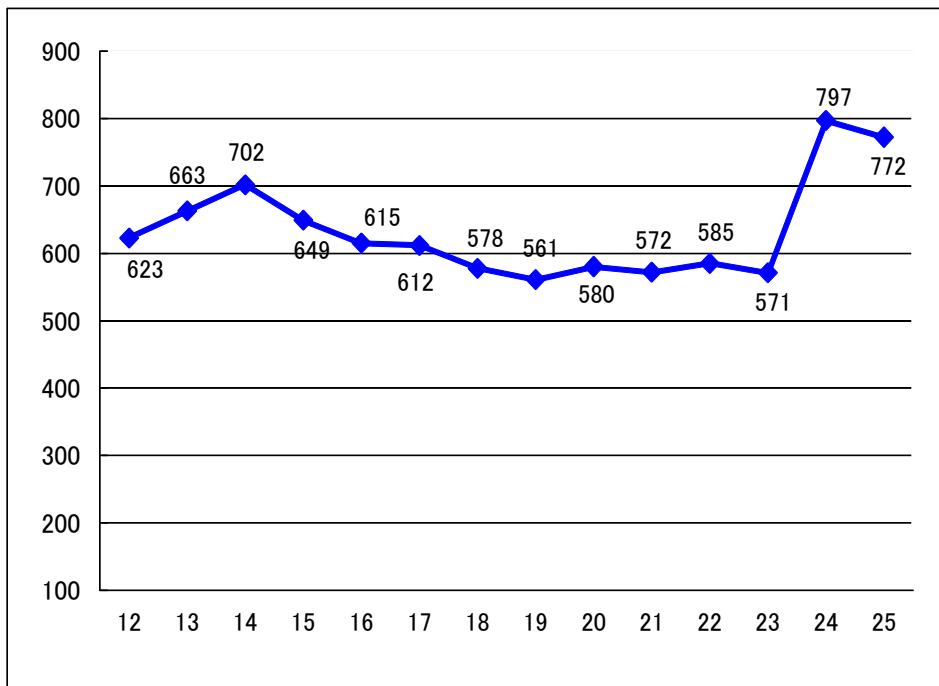
保育所初任保育所長研修会

年度	受講者数
12	384
13	453
14	431
15	486
16	630
17	551
18	582
19	652
20	681
21	569
22	637
23	692
24	668
25	681



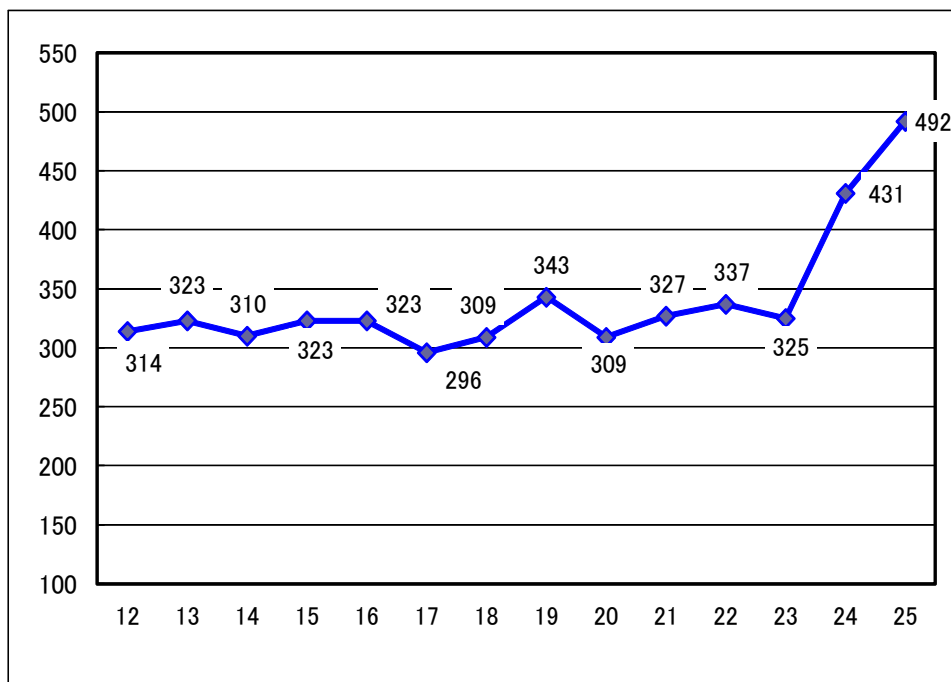
保育所乳児保育担当者研修会

年度	受講者数
12	623
13	663
14	702
15	649
16	615
17	612
18	578
19	561
20	580
21	572
22	585
23	571
24	797
25	772



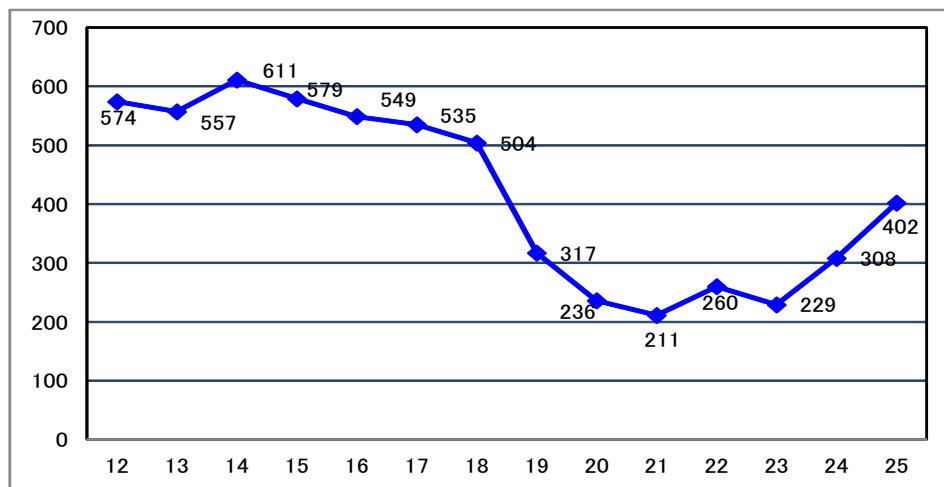
保育所障害児保育担当者研修会

年度	受講者数
12	314
13	323
14	310
15	323
16	323
17	296
18	309
19	343
20	309
21	327
22	337
23	325
24	431
25	492



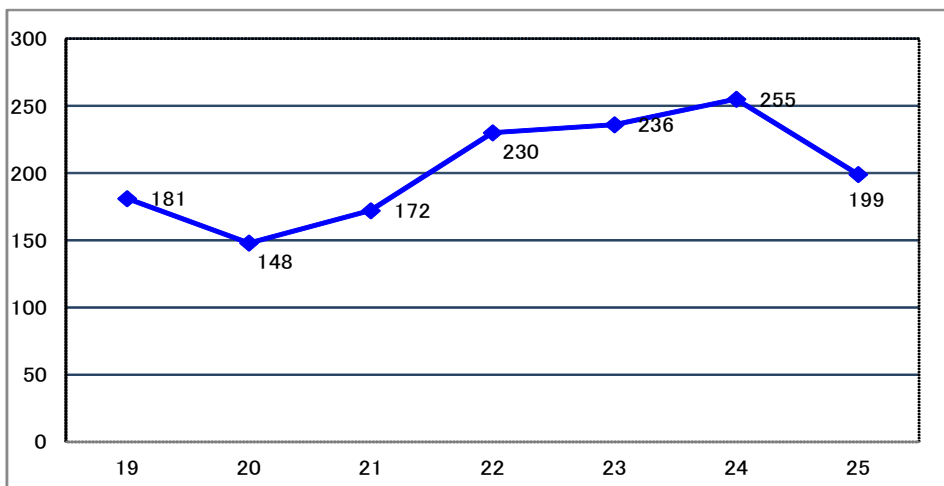
保育所保護者支援研修会(旧:保育所地域子育て支援担当者研修会)

年度	受講者数
12	574
13	557
14	611
15	579
16	549
17	535
18	504
19	317
20	236
21	211
22	260
23	229
24	308
25	402



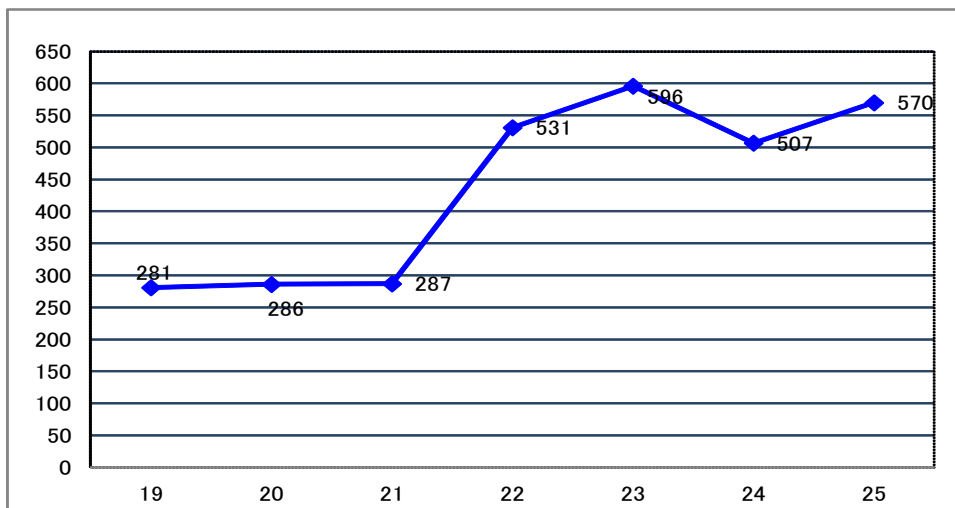
保幼小連携研修会(旧:幼児期の教育研修会)

年度	受講者数
19	181
20	148
21	172
22	230
23	236
24	255
25	199



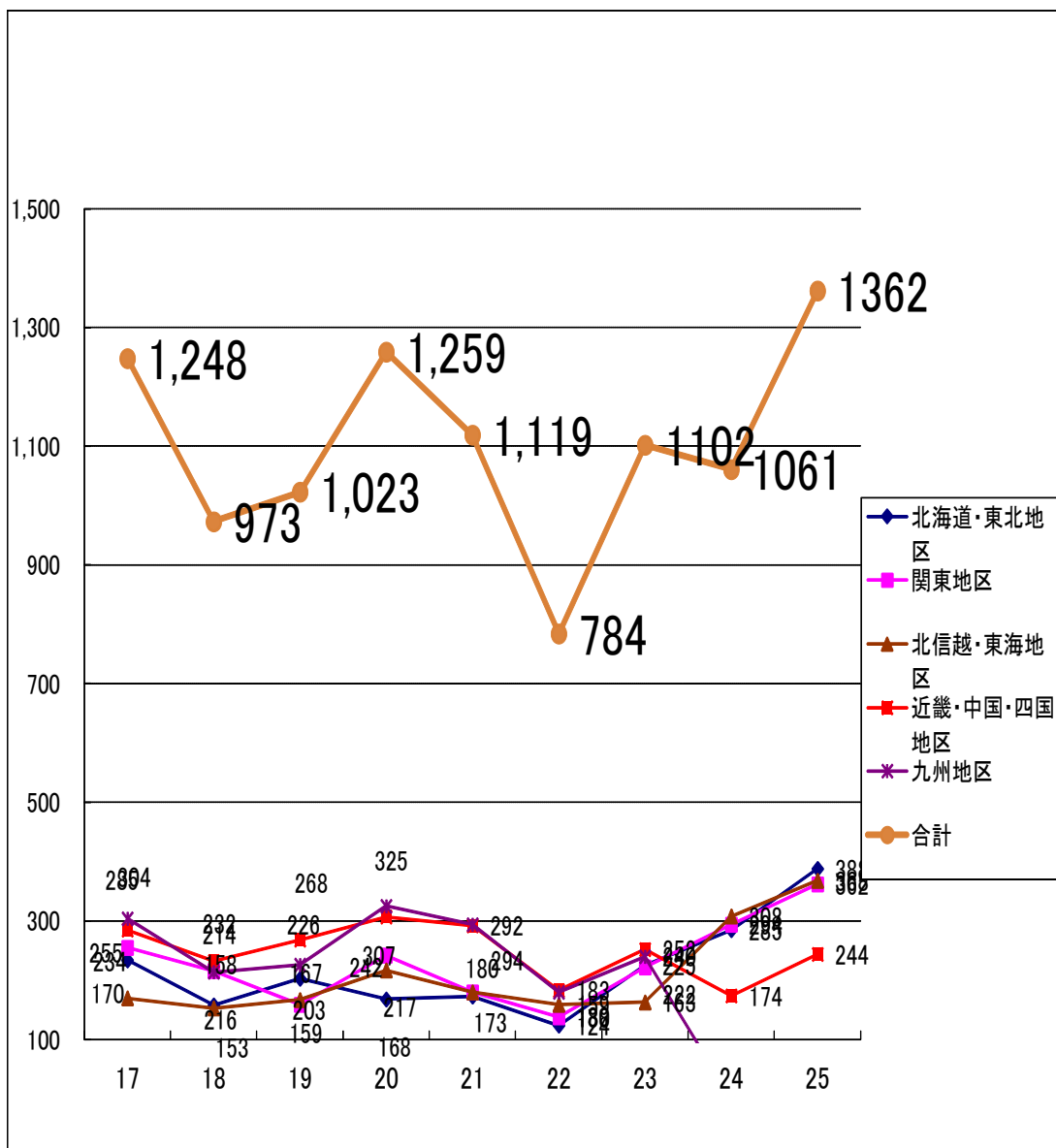
保育所事故予防研修会

年度	受講者数
19	281
20	286
21	287
22	531
23	596
24	507
25	570



保育所主任保育士研修会 地区別受講者の推移

	17	18	19	20	21	22	23	24	25	
北海道・東北地区	234	158	203	168	173	124	225	285	388	東京①
関東地区	255	216	159	242	180	138	222	294	362	東京②
北信越・東海地区	170	153	167	217	180	159	163	308	368	大阪①
近畿・中国・四国地区	285	232	268	307	292	183	252	174	244	大阪②
九州地区	304	214	226	325	294	180	240	0	0	
合計	1,248	973	1,023	1,259	1,119	784	1,102	1,061	1,362	



実施報告書作成者等分担

評価委員：井上 真理子（洗足こども短期大学・専任講師）

事務局：今井 豊彦（日本保育協会 研修次長）

事務局：佐藤 紀子（日本保育協会 研修部員）

事務局：加藤 翼（日本保育協会 研修部員）

平成 25 年度 保育所保育士研修等事業
実施報告書

平成 25 年 5 月
社会福祉法人 日本保育協会
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-1
TEL 03-3486-4412
FAX 03-3486-4415
URL <http://www.nippo.or.jp/>

